

春秋人表考證

吉 本 道 雅

一

筆者は先に『漢書』古今人表の春秋部分を検討し、その編纂過程を次のように推定した*1。

- (1) 王侯を元年順に排列し、ついで九等に配分することで、表の行列の基本的な枠組みを決定する（以下この段階を「王侯表」と稱する）。
- (2) 特定の王侯については、卒年や関連する事件の年次に相当する行に移動させる。
- (3) 個々の王侯の周辺に關係する人物を挿入する。
- (4) 特定の王侯に關係しない人物を年代を考慮して挿入する。

このように推定した場合、現行本人表の行・列にはかなりの混亂が発生していることになる。前稿ではそうした「混亂」を読み込みつつ、特定の王侯や事件との關係を共有する複数の人物が一つの群をなし、人表がそのような群をおおむね年代順に排列していることを確認した。

たとえば、21 下 03-4 *2 梁餘子養・21 下 05-4 罕夷・21 下 06-4 申生・21 下 07-4 狐突・21 上 13-5 先丹木・21 上 15-5 羊舌大夫・21 上 15-8 晉獻公が『左傳』閔二（660BC）

晉侯使大子申生伐東山臯落氏。…狐突御戎、先友爲右。梁餘子養御罕夷、先丹木爲右。羊舌大夫爲尉。…

にまとまって登場することは、かれらが晉獻公を中心とする群に屬することを示す。そして晉獻公（676-651BC *3）の上下に21 上 12-8 衛懿公（668-660BC）・21 下 15-8 曹共公（652-618BC）が置かれていることは、晉獻公を中心とする群が、衛懿公元年（668BC）・曹共公元年（652BC）の間、「晉侯使大子申生伐東山臯落氏」の年次である魯閔公二年（660BC）に繋げられていることを示す。

前稿ではこのような作業を進めたわけだが、その際留意したのは、人表に列せられた人物が、いかなる材料から採録されたのかという問題である。實のところ、人表の全體にわたってこの問題を検討した研究は寡聞にして知らない。

梁玉繩『人表考』（乾隆五十一年 1786）は、人表に関する最初の包括的な考證であり、王利器・王貞珉 1988 は、梁玉繩にはじまる諸家の考證を集成している。これらの著作は、基本的に人表に列せられた個々の人物がいかなる文獻に見えるか考證するものである。たとえば、晉獻公につき、『人表考』卷八には以下のようにある。

晉獻公（武公子）

晉獻公始見詩葛生・采芩・涓陽序、檀弓上、左莊廿三、公・穀僖二、晉語一。武公子始見侯表・晉世家。名侂諸。（左僖九、春秋公・穀。史作詭。）亦曰晉獻、（楚辭東方朔七諫・抱朴子君道）亦稱爲王。（莊子齊物論。）立二十六年。（史記。）葬絳縣東槐泉村。（一統志。寰宇記百廿八云冢在濠州定遠縣、東去驪姬冢十步。）

博引旁證というべきだが、人表がいかなる材料から晉獻公を採録したのかという問題に直接の解答を與えるものではない。

後述するように、人表は王侯の系譜および在位年代については、一部に独自の系譜資料を參用した形跡が認められるものの、第一次的には『史記』に據っていると考えてよい。

一方、人表春秋部分の王侯以外の人物は、『左傳』に見えるものが壓倒的に多い。一部には『左傳』『史記』雙方に見える人物も少なからずいる。前稿では、人表がどちらに據ったのかという問題は保留したが、今回は王侯以外の人物について人表がいかなる文獻から採録したのかという問題を包括的に考證することにする。とくに『左傳』から採録されたと推定される人物については、『左傳』の當該部分を『史記』がどのように扱っているのかを一々確認していくことにする。『史記』にしてもその春秋部分の最大の資料源は『左傳』であった。『左傳』に對する姿勢の相違を手掛かりに、人表が志向した『史記』克服の一端を解明するものとする。

二

人表は、春秋部分については、十二諸侯年表に列せられた王侯を基本的に漏らさず載せている。時に『史記』との異同が認められることから、人表が独自の系譜資料を利用しえたことは確實である*4。しかし、その一方で、王侯の在位年代について、人表が『史記』以外の材料を利用しえた痕跡は認められない。前稿で述べたように、『漢書』は、『史記』の克服を最大の目的としていた。しかし、そのことは逆に『史記』が『漢書』にとって最も身近な文獻であったことをも意味する。果たして、『漢書』の武帝以前の漢代の記述は『史記』をリライトしたものであり、構成・内容ともに『史記』に大きく依存している。先秦・統一秦を扱う人表についてはなおさらであったろう。人表は王侯の系譜・在位年代をまずは基本的な枠組みとして用いたわけだが、『史記』がそれらを漏れなく載せている以上、人表が第一次的に『史記』を参照したことは當然であろう。基本的には『史記』に據った上で、部分的にそのほかの系譜資料を参用したものと思われる。

以下に人表の春秋王侯につき概観しておこう。なお『史記』との文字の異同につき、僖・釐、閔・潛・愍、繆・穆など諡に頻見する通用字、明帝への避諱に由来する莊・嚴の異同、あるいは単純な誤字を以て説明しうるものについては言及しない。

まずは十二諸侯年表に列せられた王侯である。

(1) 周 22下10-7 惠王：周本紀は惠王の諱を「閔」とするが、人表は「母涼」とする。『索隱』に「系本名母涼」、『正義』に「(皇甫)諡作母涼也」とある。

22下15-7 頃王：周本紀は諱「壬臣」とするが、人表は「王臣」に作る。

23下12-7 定王：周本紀は諱「瑜」とするが、人表は「楡」に作る。

28下08-9 悼王・29上03-9 敬王：周本紀は悼王を「長子猛」とするが、人表は敬王を「悼王兄」とする。

(2) 魯 21上08-7 閔公：魯世家は「潛公」諱「開」とするが、人表は「閔公啟」とする。『索隱』に「本名啟、今此作開、避漢景帝諱耳。春秋作閔公也」とある。

27下05-8 昭公：『左傳』襄三十一および魯世家は諱「裊」とするが、人表は「稠」

に作る。『索隱』に「系本作稠」とある。

(3) 齊 19下 09-9 襄公：『春秋經』莊八および齊世家は諱「諸兒」とする。人表は「兒」に作るが、單に「諸」を誤脱したものであろう。

22下 11-8 昭公：齊世家は「桓公子也」とするが、人表は「孝公子」とする。『左傳』僖十七に

齊侯之夫人三、王姬・徐嬴・蔡姬、皆無子。齊侯好内、多内寵、内嬖如夫人者六人、長衛姬生武孟、少衛姬生惠公、鄭姬生孝公、葛嬴生昭公、密姬生懿公、宋華子生公子雍。

とあり、齊世家もこれを引用する。孝公・昭公・懿公については母親まで明示されており、これを否定するような材料が存在したとも、さらにそれを人表が選擇したとも思えない。「孝公子」は單純な錯誤と考えるよりない。

人表は、王侯の系譜と在位年代に關する『史記』の記述を抄寫し、これを排列したものである。抄寫の際の誤記が想定される。

32下 12-7 平公：齊世家は諱「驚」、「簡公弟」とするが、人表は諱「驚」、「簡公子」とする。『索隱』に「系本及譙周皆作敬、蓋誤也」とある。

(4) 晉 20上 15-8 晉愍侯：晉世家は「晉侯緡」に作る。あるいは抄寫の際に「侯愍」を「愍侯」の顛倒と誤認して改めたものかもしれない。

23下 06-6 成公：晉世家は「襄公弟」とするが、人表は「靈公弟」とする。

(5) 秦 18下 08-6 憲公：秦本紀は「寧公」を文公の太子靜公の子とするが、人表は「憲公」を文公の子とする。秦公鐘 (15565-15569*⁵)・罃 (15824-15826)「刺■邵文公・靜公・憲公」より文公の孫「憲公」となる。

「憲公」は秦始皇本紀に附載された王名表「憲公享國十二年、居西新邑。死、葬衙」にのみ見える。『人表考』卷六は、王名表に對する『索隱』「憲公滅蕩社、居新邑、葬衙。本紀憲公徙居平陽、葬西山」を根據に秦本紀も本來「憲」に作っていたものとするが、

殷本紀「北殷氏」索隱「系本作髦氏、又有時氏・蕭氏・黎氏。然北殷氏蓋秦寧公所伐亳王、湯之後也。」

封禪書「於社亳有三社主之祠・壽星祠」索隱「徐廣云、京兆杜縣有亳亭、則社字誤、合作於杜亳。且據文列於下皆是地邑、則杜是縣。案、秦寧公與亳王戰、亳

王奔戎、遂滅湯社。皇甫謐亦云、周桓王時自有亳王號湯、非殷也。而臣瓚以亳爲成湯之邑、故云在濟陰、非也。案、謂杜・亳二邑有三社主之祠也。」

では『索隱』は「寧公」に作っており、現存の『索隱』はすでに二次的な改変を被っている可能性が大きく、なにより、現行の『史記』において、秦本紀・秦表がともに「寧公」を「憲公」に誤りながら、王名表にのみ「憲公」が存置されたことが説明できない。『史記』は当初から「寧公」に誤る系譜資料を用いたものとする。

王名表の由來については、それに「孝明皇帝十七年十月十五日乙丑、日、…」で始まる一節が後續し、『索隱』に「此已下是漢孝明帝訪班固評賈馬贊中論秦二世亡天下之得失、後人因取其說附之此末」とある。王名表につき、『索隱』は「此已下重序列秦之先君立年及葬處、皆當據秦紀爲說、與正史小有不同、今取異說重列於後」と、司馬遷が附したのものとするが、魏了翁『古今攷』卷十八/附論古秦紀書初者六始者一與史記不同は、「今史記廣德軍版第一始皇本紀後有低兩字一段、班固漢明帝時所得秦紀也」と述べる。「憲公」が秦本紀・秦表に見えず、人表に見えるという事實は、王名表が司馬遷ではなく班固が獲得したものとする魏了翁の説を支持するものとする。

王名表には憲公以外にも秦本紀・秦表との異同があり、たとえば 30 上 02-7 哀公を畢公に作るが、人表はこれを用いない。班固は王名表の如く、『史記』とは異なった情報を伝える系譜資料を有していた模様だが、基本的には『史記』を踏襲し、一部に限ってこれら系譜史料を用いていることになる。

19 上 05-8 出公：秦本紀は「出子」とし諱を記さないが、人表は「秦出公曼」に作る。『人表考』卷八は、秦本紀「諍公子立、是爲寧公」に對する『集解』「徐廣曰、一作曼」に基づき、「曼」は原注「曼公子」が破損したものとする。

32 上 02-6 悼公：秦本紀は惠公の子とするが、人表は弟とする。

(6) 楚 17 下 01-7 甯敖：楚世家は「霄敖」に作る。楚表は「甯敖」に作り、『索隱』に「按系家若敖子熊坎立、是爲霄敖。此作甯敖、恐是霄變爲甯也」とある。なお、清華簡『楚居』*6 は、「霄敖」に作る。

20 下 12-8 杜敖：楚世家は「莊敖」に作るが『人表考』卷八は「杜敖」の譌とする。『左傳』莊十四は「堵敖」に作り、『人表考』は「杜」「堵」を音近とする。もっとも、清華簡『楚居』は莊敖に作る。

27 下 07-9 夾敖：楚世家は「邲敖」に作る。

32 上 10-7 慧王：楚世家は「惠王」に作る。

(7) 宋 22 上 10-7 襄公：人表「宋襄公（成公子）」は「宋成公（襄公子）」の錯誤である。襄公は 21 下 11-6 「宋襄公（桓公子）」にすでに見える。人表の記述の不確かさを明示するものである。

25 上 09-7 平公：宋世家は「乃立共公少子成、是爲平公」とするが、人表は「宋平公（成公子）」とする。人表は平公の前後について、「宋文公鮑（昭公弟）」「宋共公瑕」「宋元公佐（平公子）」「宋景公兜欒（元公子）」と諱を記している。あるいは「宋平公成（共公子）」が破損したものであろう。

30 上 15-7 景公：宋世家は諱「頭曼」とするが、人表は「兜欒」とする。『左傳』昭二十「太子緜」・宋公緜篋（05904）は「緜」に作る。

(8) 衛 18 下 12-7 宣公：衛世家は「桓公弟晉」とするが、人表は「桓公子」とする。『毛詩譜』邶鄘衛譜の疏に引く衛世家は「桓公子晉」に作り、人表も同様のテキストに據ったものかもしれない。

21 上 12-6 戴公：衛世家は「黔牟之弟昭伯頑之子」とするが、衛表は「昭伯頑之子」に相當する部分を誤脱して「黔牟弟」とし、人表は「之弟昭伯頑之」に相當する部分を誤脱して「黔牟子」とする。

26 下 04-7 殤公：衛世家は「定公弟秋」とするが、人表は「衛殤公焱（獻公弟）」とする。『史記』の衛系譜を抄寫する際に、直前に獻公があることから、定公を獻公と誤寫したものであろう。『春秋經』成十に「衛侯之弟黑背」、襄元「公孫剽」の杜注に「剽、子叔黑背子」とある。公孫剽は、「定公弟黑背之子」であり、衛世家もしくはそれが據った系譜資料が下線相當部分を脱落したものである。

32 下 12-8 簡公：『左傳』哀十七および衛世家は「莊公」に作る。独自の系譜資料に據るものとなろう。『孟子』萬章下は 31 下 01-8 出公を「衛孝公」と稱する。衛については確かに『左傳』とは異なる系譜資料が存在した模様である。

(9) 陳 18 下 12-9 厲公：『左傳』および『春秋經』には、

春正月甲戌己丑、陳侯鮑卒。再赴也。於是陳亂、文公子佗殺太子免而代之。公疾病而亂作、國人分散、故再赴。（『左傳』桓五）

蔡人殺陳佗。（『春秋經』 桓六）

陳厲公、蔡出也。故蔡人殺五父而立之、生敬仲。（『左傳』 莊二十二）

桓公之亂、蔡人欲立其出。我先君莊公奉五父而立之、蔡人殺之。我又與蔡人奉戴厲公。（『左傳』 襄二十五）

八月壬辰、陳侯躍卒。（『春秋經』 桓十二）

とある。陳桓公卒後、公子佗（五父）が大子免を殺して即位したが、翌年、蔡が公子佗を殺して厲公を立てたというものである。ところが、陳世家

三十八年正月甲戌己丑、桓公鮑卒。桓公弟佗、其母蔡女、故蔡人爲佗殺五父及桓公太子免而立佗、是爲厲公。桓公病而亂作、國人分散、故再赴。厲公取蔡女、蔡女與蔡人亂、厲公數如蔡淫。七年、厲公所殺桓公太子免之三弟、長曰躍、中曰林、少曰杵臼、共令蔡人誘厲公以好女、與蔡人共殺厲公而立躍、是爲利公。利公者、桓公子也。利公立五月卒、立中弟林、是爲莊公。莊公七年卒、少弟杵臼立、是爲宣公。

は、公子佗を厲公とし、蔡の支持を得た利公躍が厲公を殺したとする。厲公の「淫」は、上掲『春秋經』 桓六「蔡人殺陳佗」に對する『公羊』『穀梁』

陳佗者何。陳君也。陳君、則曷爲謂之陳佗。絕也。曷爲絕之。賤也。其賤奈何。外淫也。惡乎淫。淫于蔡、蔡人殺之。（『公羊』）

陳佗者、陳君也。其曰陳佗、何也。匹夫行、故匹夫稱之也。其匹夫行奈何。陳侯熹獵、淫獵于蔡、與蔡人爭禽。蔡人不知其是陳君也、而殺之。何以知其是陳君也。兩下相殺、不道。其不地、於蔡也。（『穀梁』）

を參用したものである。「利公」が「厲公」を音の近い異字で寫したものであることは明らかであり、陳世家の記述は誤りが甚だしいが、人表が陳厲公を第9列に置くのは、陳厲公を篡奪者で自らも弑殺された公子佗とする陳世家の理解に基づくものである。上掲『左傳』 莊二十二に見えるように、20下 08-4 陳公子完は、厲公の子だが、人表が「佗子」と原注を施すこともそれを傍證する。

嚴公：人表 20下 05-7「陳宣公杵臼（嚴公弟）」とあるが、現行人表に陳嚴公は見えない。二次的な誤脱である。

(10) 蔡 28上 14-8 平侯・28下 10-8 悼侯：『左傳』

平王即位、既封陳蔡、而皆復之、禮也。隱大子之子廬歸于蔡、禮也。（昭十三

529BC)

三月、葬蔡平公。蔡天子朱失位、位在卑。大夫送葬者、歸見昭子。昭子問蔡故、以告。昭子歎曰、蔡其亡乎。若不亡、是君也必不終。詩曰、不解于位、民之攸墜。今蔡侯始即位、而適卑、身將從之。…蔡侯朱出奔楚。費無極取貨於東國、而謂蔡人曰、朱不用命於楚、君王將立東國。若不先從王欲、楚必圍蔡。蔡人懼、出朱而立東國。朱愬于楚、楚子將討蔡。無極曰、平侯與楚有盟、故封。其子有二心、故廢之。靈王殺隱太子、其子與君同惡、德君必甚、又使立之、不亦可乎。且廢置在君、蔡無他矣。(昭二十一 521BC)

は平侯（原注「景侯子」）・悼侯（原注「靈侯孫」）をともに隱太子の子とする。對するに『史記』蔡世家

楚滅蔡三歲、楚公子棄疾弒其君靈王代立、爲平王。平王乃求蔡景侯少子廬、立之、是爲平侯。…平侯九年（522BC）卒、靈侯般之孫東國攻平侯子而自立、是爲悼侯。悼侯父曰隱太子友。隱太子友者、靈侯之太子、平侯立而殺隱太子、故平侯卒而隱太子之子東國攻平侯子而代立、是爲悼侯。悼侯三年（519BC）卒、弟昭侯申立。

は、平侯を景侯の子、悼侯を隱太子の子とする。人表は蔡世家に従う。

(11) 曹 20上 08-6 釐公：曹世家は諱「夕姑」、曹表は「射姑」に作るが、人表は「亦姑」に作る。

28下 15-8 悼公：悼公は『春秋經』昭二十八および曹世家の桓公の誤りである。人表にも17下 10-8にすでに曹悼公が見える。

29上 15-9 聲公：曹世家は「聲公」に作るが、曹表は「襄公」に作り、『集解』に「徐廣曰、一作聲」とある。

31上 05-9 靖公：曹世家は「聲公弟」とするが、人表は「聲公子」とする。

(12) 鄭 20上 11-8 子嬰：鄭世家は「子臺弟公子嬰」とするが、人表は「鄭子嬰齊（子豐子）」とする。

20下 13-6 文公：鄭世家は諱「躒」、鄭表は「捷」とするが、人表は「接」に作る。

24上 12-7 襄公：鄭世家は「靈公庶弟」とするが、人表は「靈公子」とする。

(13) 燕 27下 13-8 惠公：

惠公元年、齊高止來奔。六年、惠公多寵姬、公欲去諸大夫而立寵姬宋、大夫共

誅姬宋、惠公懼、奔齊。四年、齊高偃如晉、請共伐燕、入其君。晉平公許、與齊伐燕、入惠公。惠公至燕而死。燕立悼公。(燕世家)

燕惠公元年 齊高止來奔。…六 公欲殺公卿立幸臣、公卿誅幸臣、公恐、出奔齊。
…九 齊伐我。燕悼公元年 惠公歸至卒。(燕表)

は、『左傳』

燕簡公多嬖寵、欲去諸大夫而立其寵人。冬、燕大夫比以殺公之外嬖。公懼奔齊。書曰、北燕伯款出奔齊、罪之也。(昭三 539BC)

十一月、齊侯如晉、請伐北燕也。士匄相士鞅逆諸河、禮也。晉侯許之。十二月、齊侯遂伐北燕、將納簡公。(昭六 536BC)

七年春王正月、暨齊平、齊求之也。癸巳、齊侯次于號。燕人行成、曰、敝邑知罪、敢不聽命。先君之敝器、請以謝罪。公孫皙曰、受服而退、俟豐而動、可也。二月戊午、盟于濡上。燕人歸燕姬、賂以瑤簪・玉櫝・翠耳、不克而還。(昭七 535BC)

十二年春、齊高偃納北燕伯款于唐、因其眾也。(昭十二 530BC)

を引用するものだが、『左傳』は『春秋經』昭三の北燕伯款を燕簡公と稱し、さらに燕世家が燕惠公が536BCに歸國して卒したとするのに對し、『左傳』は北燕伯款の歸國を530BCとする。燕世家の系譜に問題があるのである*7。人表は燕世家に據って燕惠公を列する一方で、『左傳』に據って北燕伯款をも列している。

(14) 吳 28上 03-9 吳餘昧：吳表は餘祭十七年(547-531BC)・餘昧四年(530-527BC)とするが、『春秋經』襄二十五(548BC)「吳子遏伐楚、門于巢、卒」・襄二十九(544BC)「闞弒吳子餘祭」・昭十五(527BC)「吳子夷末卒」に據れば、餘祭四年(547-544BC)・餘昧十七年(543-527BC)となり、十二諸侯年表は、餘祭・餘昧の年數を轉倒している。【145 陳の滅亡】(534BC)に屬する27下 15-9 陳哀公と【149 楚靈王】(529BC)に屬する28上 10-9 楚靈王の間にあるので、『史記』の餘昧元年(530BC)に繋げていることになる。

29下 04-9 僚・30上 04-8 闞廬：『左傳』襄三十一

吳子使屈狐庸聘于晉、通路也。趙文子問焉、曰、延州來季子、其果立乎。巢隕諸樊、闞戕戴吳、天似啟之、何如。對曰、不立。是二王之命也、非啟季子也。若天所啟、其在今嗣君乎。甚德而度、德不失民、度不失事。民親而事有序、其天所啟也。有吳國者、必此君之子孫實終之。季子、守節者也。雖有國不立。

は、吳の王位が「嗣君」すなわち餘昧の子孫に繼承されるとする。これによれば、僚・闔廬はともに餘昧の子となる。『公羊』襄二十九

吳子使札來聘。吳無君無大夫、此何以有君有大夫。賢季子也。何賢乎季子。讓國也。其讓國奈何。謁也、餘祭也、夷昧也、與季子同母者四。季子弱而才、兄弟皆愛之、同欲立之以爲君。謁曰、今若是迕而與季子國、季子猶不受也。請無與子而與弟、弟兄迭爲君、而致國乎季子。皆曰諾。故諸爲君者皆輕死爲勇、飲食必祝曰、天苟有吳國、尚速有悔於予身。故謁也死、餘祭也立。餘祭也死、夷昧也立。夷昧也死、則國宜之季子者也。季子使而亡焉。僚者長庶也。即之。季子使而反、至、而君之爾。闔廬曰、先君之所以不與子國、而與弟者、凡爲季子故也。將從先君之命與、則國宜之季子者也。如不從先君之命與、則我宜立者也。僚惡得爲君乎。於是使專諸刺僚、而致國乎季子。季子不受、曰、爾弑吾君、吾受爾國、是吾與爾爲篡也。爾殺吾兄、吾又殺爾、是父子兄弟相殺、終身無已也。去之延陵、終身不入吳國。故君子以其不受爲義、以其不殺爲仁。賢季子、則吳何以有君有大夫。以季子爲臣、則宜有君者也。札者何。吳季子之名也。春秋賢者不名、此何以名。許夷狄者不壹而足也。季子者所賢也、曷爲不足乎季子。許人臣者必使臣、許人子者必使子也。

は、僚を壽夢の「長庶」とするが、餘昧の「長庶」であることを誤ったものとなる。

吳世家

二十五年、王壽夢卒。壽夢有子四人、長曰諸樊、次曰餘祭、次曰餘昧、次曰季札。季札賢、而壽夢欲立之、季札讓不可、於是乃立長子諸樊、攝行事當國。

十三年、王諸樊卒。有命授弟餘祭。

十七年、王餘祭卒、弟餘昧立。

四年、王餘昧卒、欲授弟季札。季札讓、逃去。於是吳人曰、先王有命、兄卒弟代立、必致季子。季子今逃位、則王餘昧後立。今卒、其子當代。乃立王餘昧之子僚爲王。

公子光者、王諸樊之子也。

は『公羊』に據りつつ、僚を壽夢の「長庶」とする部分を用いず、闔廬・僚をそれぞれ諸樊・餘昧の子とする。人表は吳世家に従っている。

十二諸侯年表に掲載されない諸侯については、人表は一部しか採録しない。

(15) 杞 31 下 04-9 隱公・31 下 07-9 釐公・33 下 03-8 愨公・33 下 12-8 釐公（哀公*⁸）
のみが採録される。杞世家

悼公十二年卒、子隱公乞立。七月、隱公弟遂弑隱公自立、是爲釐公。釐公十九年卒、
子潛公維立。…。十六年、潛公弟闕路弑潛公代立、是爲哀公。

は、この間の公位継承の異常を伝える。

(16) 越 30 上 09-8 允常：越世家に見える。

杞はなお杞世家に系譜・在位年代が見え、越は越世家に系譜が見えるが、次の (17)
邾・(18) 莒・(19) 滕・(20) 薛について、『史記』は世家を立てず、人表はもっぱら『春
秋經』『左傳』に據っている。

(17) 邾 18 上 08-6 邾儀父：『春秋經』隱元「三月、公及邾儀父盟于蔑」に見え、「盟」
の初見である。『史記』はこれを引用しない。

23 上 04-5 邾文公*⁹：邾文公は『左傳』文十三にその卒が見えるが、『史記』はこれ
を引用しない。

23 上 09-5 邾子貜且：『左傳』文十四

晉趙盾以諸侯之師八百乘、納捷菑于邾。邾人辭曰、齊出貜且長。宣子曰、辭順而
弗從、不祥。乃還。

に見えるが

晉使趙盾以車八百乘平周亂而立匡王。（晉世家）

八 趙盾以車八百乘納捷菑、平王室。（晉表）

はこれを節略し、貜且を省略している。

30 下 04-8 邾嚴公：『左傳』

邾莊公與夷射姑飲酒、私出。闔乞肉焉、奪之杖以敲之。（定二）

三年春二月辛卯、邾子在門臺、臨廷。闔以餅水沃廷、邾子望見之、怒。闔曰、夷
射姑旋焉。命執之。弗得、滋怒、自投于牀、廢于鑪炭、爛、遂卒。先葬以車五乘、
殉五人。莊公卞急而好潔、故及是。（定三）

に横死のことが見えるが、『史記』はこれを引用しない。

31 上 15-8 邾悼公：『人表考』卷八は隱公の誤とする。邾隱公は『左傳』定十五に見
える。後掲の莒郊公・滕悼公・薛襄公とともに召陵の會への参加を以て採録されたも

のである。

(18) 莒 28上 06-8 莒子庚輿・31上 12-8 莒郊公は『左傳』昭十四(528BC)「秋八月、莒著丘公卒、郊公不憾、國人弗順、欲立著丘公之弟庚輿」に初見するが、『史記』には見えない。

(19) 滕 31上 09-8 滕悼公は『春秋經』昭二十八に見える。

(20) 薛 31下 07-8 薛襄子(薛襄公*¹⁰)は『春秋經』定十二に見える。

その他、系譜資料に關わるものとして、以下の事例がある。

(21) 韓氏 31下 03-7 韓悼子は原注に「宣子子」とある。人表の下文に 34上 10-5 韓康子(貞子子)・34下 07-5 韓武子(康子子)があることから、『人表考』卷七は悼子を貞子の誤とする。『史記』韓世家

宣子卒、子貞子代立。貞子徙居平陽。貞子卒、子簡子代。簡子卒、子莊子代。莊子卒、子康子代。

は、宣子・貞子・簡子・莊子・康子を列し、貞子は『左傳』昭二(540BC)「夏四月、韓須如齊逆女。(杜注「須、韓起子」)」の韓須に當たる(『索隱』韓世家「系本作平子、名須、宣子子也」)。さらに韓世家「晉定公十五年(497BC)、宣子與趙簡子侵伐范・中行氏」は、范中行之亂に韓宣子が關與したとするが、『左傳』昭二十八(514BC)「秋、晉韓宣子卒」・定十三(497BC)「冬十一月、荀躒・韓不信・魏曼多奉公以伐范氏・中行氏」によれば、韓宣子は514BCにすでに卒しており、范中行之亂に關與したのは、韓不信(韓簡子)である。(『左傳』昭三十二 510BC「冬十一月、晉魏舒・韓不信如京師、合諸侯之大夫于狄泉、尋盟、且令城成周。…韓簡子臨之、以爲成命」より韓不信の諡が簡子であることが確認される)。韓世家の年代觀には問題があるが、一方、人表も、簡子・莊子の二代が脱落しており、このことは、『集解』韓世家「徐廣曰、史記多無簡子・莊子、而云貞子生康子。班氏亦同」にすでに指摘されている。『史記』の多くのテキストが簡子・莊子を缺いていたというものであり、古今人表はこのようなテキストの『史記』に據った上で、韓宣子が范中行之亂に關與したのち卒し、貞子ついで康子が立ったとしているのである。

(22) 孔子祖先 17下 09-3 宋正考父*¹¹は、『左傳』昭七「及正考父佐戴・武・宣」およびそれを引用した孔子世家に見える。正考父および 18下 08-3 宋孔父(原注「大

金子)・18上01-5宋大金(原注「考父子」)・23上15-3宋方叔(原注「嘉子」)・23下09-4宋伯夏は、『毛詩正義』商頌/那

世本云、宋潛公生弗甫何、弗甫何生宋父、宋父生正考甫、正考甫生孔父嘉、爲宋司馬華督殺之、而絕其世。其子木金父降爲士。木金父生祁父、祁父生防叔、爲華氏所偏、奔魯、爲防大夫、故曰防叔。防叔生伯夏、伯夏生叔梁紇、叔梁紇生仲尼、則正考甫是孔子七世之祖、故云孔子之先也。

の正考甫・孔父嘉・木金父・防叔・伯夏に相當し、同様の系譜史料に由來するものであろうが、人表は祁父に相當する一代を缺き、宋孔父・宋方叔の原注が誤っている。

人表が独自の系譜資料を參用し、ことに續柄について『史記』との異同が散見することが確認された。とはいえ、人表には編纂・傳承段階における誤寫の可能性が一般的に伏在し、これらの異同を獨自資料に由來するものとただちに斷定することはできない。なにより、『竹書紀年』*¹²や清華簡『楚居』*¹³のような『史記』系譜との甚だしい相違は認められない。

三

以下では、系譜資料に關連する王侯などを除く人表の登場人物の出所を考證する。

001*¹⁴平王東遷 17上08-5秦襄公・17上12-06晉文侯・17下03-7鄭武公・17上14-9申侯は、17下04-9平王の東遷に關連する。

秦襄公・申侯については、『史記』秦本紀

西戎犬戎與申侯伐周、殺幽王驪山下。而秦襄公將兵救周、戰甚力、有功。

などに平王との關係が見え、人表も『史記』を踏まえたものと見てさしつかえない。

晉文侯・鄭武公の東遷への關與は『左傳』にうかがえるが、『史記』は、

文侯十年、周幽王無道、犬戎殺幽王、周東徙。而秦襄公始列爲諸侯。(晉世家)

二歲、犬戎殺幽王於驪山下、并殺桓公。鄭人共立其子掘突、是爲武公。(鄭世家)

の如く、そのことを意圖的に無視している*¹⁵。對するに『漢書』は、

子襄公時、幽王爲犬戎所敗、平王東遷雒邑。襄公將兵救周有功、賜受郊・鄆之地、列爲諸侯。(地理志)

と、秦襄公については『史記』をそのまま踏襲する一方で、

後三年、幽王敗、(威)〔桓〕公死、其子武公與平王東遷、卒定虢・會之地、右雒左(沛)〔沛〕、食漆、洧焉。(地理志)

と、鄭については武公の平王東遷への關與を明示する。『史記』の記述を基本的に踏襲しつつ、『左傳』その他の情報を附加し、あるいはそれらに基づき『史記』の記述を一部修正するといった人表の基本的な姿勢がここにもうかがわれるわけである。

17上11-5 文子は、藝文志に『漢書』藝文志/諸子/道家に「文子九篇。老子弟子、與孔子並時、而稱周平王問、似依託者也」と見え、藝文志の藍本たる劉歆『七略』に由來する。

17上15-5 辛有は、『左傳』僖二十二「初、平王之東遷也、辛有適伊川」に見えるが、『史記』はこれを引用しない。

17上15-6 趙叔帶が晉文侯の後に置かれているのは、『史記』趙世家「奄父生叔帶。叔帶之時、周幽王無道、去周如晉、事晉文侯、始建趙氏于晉國」に據る。

003 晉の内亂 17下09-8 潘父は『左傳』桓二およびそれを引用する晉世家・晉表に見える。

008 魯隱公 18上08-6 邾儀父は隱元「公及邾儀父盟于蔑」に、18下02-8 宰咺は隱元「天王使宰咺來歸惠公仲子之賵」に、18上07-7 展亡駭は隱二「司空無駭入極」、に見えるが、魯世家はこれらを引用しない。

18上08-5 臧釐伯は、『左傳』隱五「五年春、公將如棠觀魚者。臧僖伯諫曰、…公曰、吾將略地焉。遂往陳魚而觀之。僖伯稱疾不從。書曰、公矢魚于棠。非禮也。且言遠地也」にその言論が見えるが、『史記』魯世家「隱公五年、觀漁於棠」・魯表「五 公觀魚于棠、君子譏之」はこれを節略し、臧釐伯を省略する。

一方、18上08-9 公子翬につき、魯世家は『左傳』隱十一の記述を潤色している。

<p>『左傳』隱十一 羽父請殺桓公、將以求大宰。 公曰、爲其少故也、吾將授之矣。使營菟裘、吾將老焉。 羽父懼、反譖公于桓公、而請弑之。</p>	<p>魯世家 十一年冬、公子揮諂謂隱公曰、百姓便君、君其遂立。吾請爲君殺子允、君以我爲相。隱公曰、有先君命。吾爲允少、故攝代。今允長矣、吾方營菟裘之地而老焉、以授子允政。 揮懼子允聞而反誅之、乃反譖隱公於子允曰、隱公欲遂立、去子、子其圖之。請爲子殺隱公。子允許諾。</p>
---	--

<p>公之爲公子也、與鄭人戰于狐壤、止焉。鄭人囚諸尹氏、賂尹氏、而禱於其主鍾巫、遂與尹氏歸、而立其主。十一月、公祭鍾巫、齊于社圃、館于蕩氏。壬辰、羽父使賊弑公子爲氏、立桓公、而討爲氏、有死者。不書葬、不成喪也。</p>	<p>十一月、隱公祭鍾巫、齊于社圃、館于蕩氏。揮使人殺隱公于蕩氏、而立子允爲君、是爲桓公。</p>
---	---

このように、『史記』は『左傳』の各章に對し、(1) 引用しない、(2) 節略、(3) 節略しない、さらに潤色、といった三つの姿勢を使い分けている。(1) は無論のこと、(2) のほとんどにおいて、『左傳』の登場人物は『史記』では省略される。人表は、『史記』が載せない(1)(2)の人物を掲げ、かれらが登場する『左傳』の章を讀み手に想起させることによって、『史記』以上に密度の高い歴史記述を暗示するのである。

010 鄭嚴公 18上 11-6 穎考叔・18上 15-6 鄭公子呂・18上 13-8 叔段は、『左傳』隱元に見える。鄭世家はこれを節略し、公子呂(子封)を省略している。

<p>『左傳』隱元 初、鄭武公娶于申、曰武姜、生莊公及共叔段。莊公寤生、驚姜氏、故名曰寤生、遂惡之。愛共叔段、欲立之。亟請於武公、公弗許。及莊公即位、爲之請制。公曰、制、嚴邑也。虢叔死焉、佗邑唯命。請京、使居之、謂之京城大叔。祭仲曰、都城過百雉、國之害也。先王之制、大都不過參國之一、中五之一、小九之一。今京不度、非制也。君將不堪。公曰、姜氏欲之、焉辟害。對曰、…公曰、…既而大叔命西鄙・北鄙貳於己。公子呂曰、…公曰、…大叔又收貳以爲己邑、至于廩延。子封曰、…公曰、…大叔完聚、繕甲兵、具卒乘、將襲鄭、夫人將啟之。公聞其期、曰、可矣。命子封帥車二百乘以伐京。京叛大叔段、段入于鄆、公伐諸鄆。五月辛丑、大叔出奔共。…遂寘姜氏于城穎、而誓之曰、不及黃泉、無相見也。既而悔之。穎考叔爲穎谷封人、聞之、有獻於公、公賜之食、食舍肉。公問之、對曰、小人有母、皆嘗小人之食矣、未嘗君之羹、請以遺之。公曰、爾有母遺、擊我獨無。穎考叔曰、敢問何謂也。公語之故、且告之悔。對曰、君何患焉。若闕地及泉、隧而相見、其誰曰不然。公從之。公入而賦、大隧之中、其樂也融融。姜出而賦、大隧之外、其樂也洩洩。遂爲母子如初。君子曰、穎考叔、純孝也。愛其母、施及莊公。詩曰、孝子不匱、永錫爾類。其是之謂乎。</p>	<p>鄭世家 莊公元年、封弟段於京、號太叔。祭仲曰、京大於國、非所以封庶也。 莊公曰、武姜欲之、我弗敢奪也。 段至京、繕治甲兵、與其母武姜謀襲鄭。二十二年、段果襲鄭、武姜爲內應。莊公發兵伐段、段走。伐京、京人畔段、段出走鄆。鄆潰、段出奔共。 於是莊公遷其母武姜於城穎、誓言曰、不至黃泉、毋相見也。居歲餘、已悔思母。穎谷之考叔有獻於公、公賜食。考叔曰、臣有母、請君食賜臣母。 莊公曰、我甚思母、惡負盟、奈何。 考叔曰、穿地至黃泉、則相見矣。 於是遂從之、見母。</p>
--	---

011 衛州吁の亂 18上 12-5 石碯・18上 14-9 公子州吁は、『左傳』隱三およびそれを引用した衛世家に見える。

012 宋殤公 18下 08-3 宋孔父・18下 08-8 華督は、『左傳』桓二およびそれを引用した宋世家に見える。

18下 07-4 臧哀伯は、『左傳』桓二

夏四月、取郟大鼎于宋。戊申、納于大廟、非禮也。臧哀伯諫曰、…

にその言論が見えるが、『史記』魯世家「二年、以宋之路鼎入於太廟、君子譏之」・魯表「二 宋賂以鼎、入於太廟、君子譏之」はこれを節略し、臧哀伯を省略している。上掲【008 魯隱公】臧釐伯の事例と同様である。

013 宋司徒皇父・031 齊襄公 19上 15-4 王子成父・18上 13-7 宋司徒皇父・18下 01-7 司空牛父・18下 03-7 公子穀生・18下 05-7 彫班・19上 12-9 長狄僑如は『左傳』文十一に見える。魯世家は下線部を省略するので、司空牛父・公子穀生・彫班が見えなくなっている。

<p>『左傳』文十一 冬十月甲午、敗狄于鹹、獲長狄僑如。富父終甥椿其喉以戈、殺之、埋其首於子駒之門、以命宣伯。 初、宋武公之世、鄭瞞伐宋。司徒皇父帥師禦之、<u>彫班御皇父充石、公子穀甥爲右、司空牛父駟乘、以敗狄于長丘、獲長狄緣斯、皇父之二子死焉。</u> <u>宋公於是以門賞彫班、使食其征、謂之彫門。</u> 晉之滅潞也、獲僑如之弟焚如。齊襄公之二年、鄭瞞伐齊、齊王子成父獲其弟榮如、埋其首於周首之北門。衛人獲其季弟簡如、鄭瞞由是遂亡。</p>	<p>魯世家 十一年十月甲午、魯敗翟于鹹、獲長翟僑如、富父終甥春其喉以戈、殺之、埋其首於子駒之門、以命宣伯。 初、宋武公之世、鄭瞞伐宋、司徒皇父帥師禦之、以敗翟于長丘、獲長翟緣斯。 晉之滅潞、獲僑如弟焚如。齊惠公二年、鄭瞞伐齊、齊王子城父獲其弟榮如、埋其首於北門。衛人獲其季弟簡如。鄭瞞由是遂亡。</p>
--	---

なお、『左傳』の宋武公・齊襄公には問題がある。まず、宋世家「昭公四年（616BC）、宋敗長翟緣斯於長丘」・宋表「四 敗長翟長丘」は、長丘の戦を宋昭公四年に繋げるが、これは『左傳』文十一の「宋武公之世」を失念して、魯文公十一年を宋紀年に換算しただけの単純な錯誤である。一方、人表が18下 05-8 宋殤公の近くに18上 13-7 宋司徒皇父を置くのは錯誤としては説明できない。あるいは人表の據った『左傳』が「宋殤公之世」に作っていたものであろう。ついで、『左傳』の「齊襄公之二年」を魯世家は「齊惠公二年」に作り、齊表「二 王子成父敗長翟」も齊惠公二年に繋げる。『史記』の據った『左傳』が「惠公」に作っていたものであろう。一方、人表は19上 15-4 王子成父・

19 上 12-9 長狄僑如を 19 下 09-9 齊襄公の近くに置いており、『左傳』に従ったものとなる。

015 曹嚴公 18 下 10-5 魯施父は、『左傳』桓九

冬、曹太子來朝。賓之以上卿、禮也。享曹太子、初獻、樂奏而歎。施父曰、曹太子其有憂乎、非歎所也。

に見えるが、『史記』はこれを引用しない。

017 魯桓公 18 下 09-9 夫人文姜・18 下 11-9 彭生は、『左傳』桓十八およびそれを引用した魯世家に見える。

018 芮伯 18 下 02-9 芮伯は、『左傳』桓三「芮伯萬之母芮姜惡芮伯之多寵人也、故逐之、出居于魏」に初見するが、『史記』はこれを引用しない。

021 楚武王 19 上 05-4 隨季良・19 上 02-5 鬬伯比・19 上 04-5 熊率且比・19 上 07-6 薳章・19 上 07-7 隨少師は、『左傳』桓六、18 下 07-5 鄧曼は莊四に見える。楚世家は桓六・桓八・莊四の年次と楚伐隨に關する地の文は用いつつも、言論は一切用いず、武王稱王の説話を創作している。

<p>『左傳』 (桓六 706BC) 楚武王侵隨、使薳章求成焉。軍於瑕以待之。隨人使少師董成。鬬伯比言于楚子曰、…熊率且比曰、…鬬伯比曰、…王毀軍而納少師。少師歸、請追楚師、隨侯將許之。季梁止之曰、…公曰、…對曰、…隨侯懼而修政、楚不敢伐。 (桓八 704BC) 隨少師有寵。楚鬬伯比曰、…夏、楚子合諸侯于沈鹿。黃・隨不會、使薳章讓黃。楚子伐隨、軍於漢・淮之間。季梁請下之、…少師謂隨侯曰、…隨侯禦之、望楚師。季梁曰、…少師曰、…弗從。戰于速杞、隨師敗績。隨侯逸、鬬丹獲其戎車、與其戎右少師。秋、隨及楚平。楚子將不許、鬬伯比曰、…乃盟而還。 (莊四 690BC) 四年春王正月、楚武王荆尸、授師子焉、以伐隨、將齊、入告夫人鄧曼曰、…鄧曼歎曰、…王遂行、卒於楸木之下。令尹鬬祁、莫敖屈重除道、梁嗇、營軍臨隨。隨人懼、行成。莫敖以王命入盟隨侯、且請爲會於漢汭、而還。濟漢而後發喪。</p>	<p>楚世家 三十五年 (706BC)、楚伐隨。隨曰、我無罪。楚曰、我蠻夷也。今諸侯皆爲叛相侵、或相殺。我有敝甲、欲以觀中國之政、請王室尊吾號。隨人爲之周、請尊楚、王室不聽、還報楚。 三十七年 (704BC)、楚熊通怒曰、吾先鬻熊、文王之師也、蚤終。成王舉我先公、乃以子男田令居楚、蠻夷皆率服、而王不加位、我自尊耳。乃自立爲武王、與隨人盟而去。於是始開濮地而有之。 五十一年 (690BC)、周召隨侯、數以立楚爲王。楚怒、以隨背己、伐隨。武王卒師中而兵罷。</p>
---	---

對するに、楚表「三十五 侵隨、隨爲善政、得止」「三十七 伐隨、弗拔、但盟、罷兵」「五十一 王伐隨、夫人心動、王卒軍中」は『左傳』を踏まえた記述に改めている。鄧曼を「夫人」とする。

19上 05-6 觀丁父は哀十七「觀丁父、都俘也、武王以爲軍率、是以克州・蓼、服隨・唐、大啟群蠻」、19上 05-7 楚瑕丘（屈瑕*¹⁶）は桓十一「楚屈瑕將盟貳・軫」に見えるが、楚世家はこれらを引用しない。

022 魯嚴公 19上 11-4 魯申繻が、19上 11-7 魯嚴公と同じ行にあるのは、『左傳』桓六（706BC）

九月丁卯、子同生。以大子生之禮舉之、接以大牢、卜士負之、士妻食之、公與文姜・宗婦命之。公問名於申繻。對曰、…公曰、是其生也、與吾同物、命之曰同。
に基づく。魯世家「六年、夫人生子、與桓公同日、故名曰同。同長、爲太子」はこれを節略し、申繻を省略する。

19上 11-8 夫人哀姜は、『左傳』閔二およびそれを引用する魯世家に見える。

023 虞公 18下 15-7 虞公・19上 02-7 虞叔は、『左傳』桓十に見えるが、『史記』はこれを引用しない。

024 鄭厲公 19上 08-5 鄭祭足は、『左傳』桓十一およびそれを引用する鄭世家に見える。「祭足」は『左傳』隱三・隱五・桓五に見えるが、『史記』は「祭仲」のみを用いる。

<p>『左傳』桓十一 夏、鄭莊公卒。初、祭封人仲足有寵於莊公、莊公使爲卿。爲公娶鄧曼、生昭公。故祭仲立之。 宋雍氏女於鄭莊公、曰雍姑、生厲公。雍氏宗有寵於宋莊公、故誘祭仲而執之、曰、不立突、將死。亦執厲公而求賂焉。祭仲與宋人盟、以厲公歸而立之。</p>	<p>鄭世家 四十三年、鄭莊公卒。初、祭仲甚有寵於莊公、莊公使爲卿。公使娶鄧女、生太子忽、故祭仲立之、是爲昭公。 莊公又娶宋雍氏女、生厲公突。雍氏有寵於宋。宋莊公聞祭仲之立忽、乃使人誘召祭仲而執之、曰、不立突、將死。亦執突以求賂焉。祭仲許宋、與宋盟。以突歸、立之。</p>
--	--

026 鄭昭公 19下 08-7 高渠彌は、『左傳』桓十七およびそれを引用する鄭世家に見える。

027 王子克 19下 07-5 辛甲（辛伯*¹⁷）・19下 15-7 王子克・19下 06-8 周公黑肩は『左傳』桓十八およびそれを引用する周本紀に見える。

028 楚文王 19上 14-5 騶甥・19上 15-5 聃甥・19下 03-5 養甥・19上 14-6 鄧祁侯は、『左傳』莊六

楚文王伐申。過鄧。鄧祁侯曰、吾甥也。止而享之。騶甥・聃甥・養甥請殺楚子。鄧侯弗許。

に見える。楚世家「文王二年、伐申過鄧、鄧人曰、楚王易取、鄧侯不許也」・楚表「二伐申、過鄧、鄧人曰、楚可取、鄧侯不許」は鄧祁侯を鄧侯に作り、騶甥・聃甥・養甥を「鄧人」にまとめている。

19上 13-4 楚保申は『說苑』正諫「荆文王得如黃之狗、箇籛之嬪、以畋於雲夢、三月不反。得舟之姬、淫期年不聽朝。保申諫曰、…」に見える。

19下 08-6 潘和（卞和*¹⁸）は、『史記』鄒陽列傳「昔卞和獻寶、楚王刖之」に見え、『韓非子』和氏

楚人和氏得玉璞楚山中、奉而獻之厲王、厲王使玉人相之、玉人曰、石也。王以和爲誑、而刖其左足。及厲王薨、武王即位、和又奉其璞而獻之武王、武王使玉人相之、又曰、石也。王又以和爲誑、而刖其右足。武王薨、文王即位、和乃抱其璞而哭於楚山之下、三日三夜、泣盡而繼之以血。王聞之、使人問其故、曰、天下之刖者多矣、子奚哭之悲也。和曰、吾非悲刖也、悲夫寶玉而題之以石、貞士而名之以誑、此吾所以悲也。王乃使玉人理其璞而得寶焉、遂命曰和氏之璧。

の「和氏」である。これらの説話を楚世家は引用しない。人表において『左傳』以外の出典が想定される人物は、『史記』には見えないことが一般的である。以下では特に注記しない。

029 衛惠公 18下 12-3 衛太子伋・18下 14-3 公子壽および19下 06-6 左公子泄・19下 13-7 右公子職は、『左傳』桓十六およびこれを引用する衛世家に見える。衛世家は説明的記述を加えている。人表は『左傳』の「急子」を用いず、衛世家の「太子伋」を用いる。「太子伋」の方が衛宣公の廢太子という本章の主題をより明確に伝えるものと判断したものであろう。

<p>『左傳』桓十六 初、衛宣公烝於夷姜、生急子、屬諸右公子。爲之娶於齊而美、公取之。生壽及朔。屬壽於左公子。夷姜縊。宣姜與公子朔構急子。</p>	<p>衛世家 十八年、初、宣公愛夫人夷姜、夷姜生子伋、以爲太子、而令右公子傅之。右公子爲太子取齊女、未入室、而宣公見所欲爲太子婦者好、說而自取之、更爲太子取他女。宣公得齊女、生子壽・子朔、令左公子傅之。太子伋母死、宣公正夫人與朔共讒惡太子伋。</p>
---	---

<p>公使諸齊。使盜待諸莘、將殺之。壽子告之、使行。不可、曰、棄父之命、惡用子矣。有無父之國則可也。及行、飲以酒。壽子載其旌以先、盜殺之。急子至曰、我之求也、此何罪。請殺我乎。又殺之。</p> <p>二公子故怨惠公。十一月、左公子洩・右公子職立公子黔牟。惠公奔齊。</p>	<p>宣公自以其奪太子妻也、心惡太子、欲廢之。及聞其惡、大怒、乃使太子伋於齊而令盜遮界上殺之、與太子白旄、而告界盜見持白旄者殺之。且行、子朔之兄壽、太子異母弟也、知朔之惡太子而君欲殺之、乃謂太子曰、界盜見太子白旄、即殺太子、太子可毋行。太子曰、逆父命求生、不可。遂行。壽見太子不止、乃盜其白旄而先馳至界。界盜見其驗、即殺之。壽已死、而太子伋又至、謂盜曰、所當殺乃我也。盜并殺太子伋、以報宣公。宣公乃以子朔爲太子。十九年、宣公卒、太子朔立、是爲惠公。</p> <p>左右公子不平朔之立也、惠公四年、左右公子怨惠公之讒殺前太子伋而代立、乃作亂、攻惠公、立太子伋之弟黔牟爲君、惠公奔齊。</p>
--	--

031 齊襄公 19下 09-4 齊寺人費・19下 11-5 石之紛如・19下 09-8 連稱・19下 11-8 管至父・19下 13-8 雍人廩・19下 12-9 公子亡知は、『左傳』 莊八に見える。齊世家は「寺人費」を「主屨者莠」に作り、石之紛如を省略する。また『左傳』の「雍廩」を齊世家は「雍林人」に作るが、人表は「雍人廩」とする。

<p>【左傳】 (莊八) 齊侯使連稱・管至父戍葵丘。瓜時而往、曰、及瓜而代。期戍、公問不至。請代、弗許。故謀作亂。僖公之母弟曰夷仲年、生公孫無知、有寵於僖公、衣服禮秩如適。襄公緇之。二人因之以作亂。 連稱有從妹在公宮、無寵、使問公、曰、捷、吾以汝爲夫人。冬十二月、齊侯游于姑棼、遂田于貝丘。見大豕、從者曰、公子彭生也。公怒曰、彭生敢見。射之、豕人立而啼。公懼、墜于車、傷足、喪屨。反、誅屨於徒人費。弗得、鞭之、見血。走出、遇賊于門、劫而束之。 費曰、我奚御哉。袒而示之背、信之。費請先入、伏公而出、鬪、死于門中。石之紛如死于階下。遂入、殺孟陽于牀。曰、非君也、不類。見公之足于戶下、遂弑之、而立無知。… 初、公孫無知虐于雍廩。(莊九) 九年春、雍廩殺無知。</p>	<p>齊世家 十二年、初、襄公使連稱・管至父戍葵丘、瓜時而往、及瓜而代。往戍一歲、卒瓜時而公弗爲發代。或爲請代、公弗許。故此二人怒、因公孫無知謀作亂。 連稱有從妹在公宮、無寵、使之問襄公、曰、事成以女爲無知夫人。冬十二月、襄公游姑棼、遂獵沛丘。見豕、從者曰、彭生。公怒、射之、豕人立而啼。公懼、墜車傷足、失屨。反而鞭主屨者莠三百。莠出宮。而無知・連稱・管至父等聞公傷、乃遂率其眾襲宮。逢主屨莠、莠曰、且無入驚宮、驚宮未易入也。無知弗信、莠示之創、乃信之。待宮外、令莠先入。莠先入、即匿襄公戶間。良久、無知等恐、遂入宮。莠反與宮中及公之幸臣攻無知等、不勝、皆死。無知入宮、求公不得。或見人足於戶間、發視、乃襄公、遂弑之、而無知自立爲齊君。 桓公元年春、齊君無知游於雍林。雍林人嘗有怨無知、及其往游、雍林人襲殺無知、</p>
--	---

20上 02-7 紀侯・20上 03-7 紀季は、『左傳』 莊四「紀侯不能下齊、以與紀季。夏、紀侯大去其國、違齊難也」に見える。齊世家「八年、伐紀、紀遷去其邑」は紀侯・紀季を省略する。

032 齊桓公 20上 03-2 管仲* 19・20上 02-3 鮑叔牙・20上 05-3 召忽・20上 08-3 隰朋・20上 03-4 高傒・20上 12-4 賓須亡および 19下 15-6 齊公子糾は、『左傳』

初、襄公立、無常。鮑叔牙曰、君使民慢、亂將作矣。奉公子小白出奔莒。亂作、管夷吾、召忽奉公子糾來奔。(莊八)

管仲請囚、鮑叔受之、及堂阜而稅之。歸而以告曰、管夷吾治於高僂、使相可也。公從之。(莊九)

齊桓、衛姬之子也、有寵於僖。有鮑叔牙・賓須無・隰朋以爲輔佐、(昭十三)
およびそれらを踏まえた齊世家に見える。20上10-3 甯戚は、

唯能用管夷吾・甯戚・隰朋・賓胥無・鮑叔牙之屬而伯功立。(『國語』齊語)

其相曰夷吾。大夫曰甯戚・隰朋・賓胥無・鮑叔牙、用此五子者何功、(『管子』大匡)

では桓公の代表的功臣に列せられているが、『左傳』には見えず、『史記』においても鄒陽列傳「故百里奚乞食於路、繆公委之以政。甯戚飯牛車下、而桓公任之以國」に見えるのみで、管仲らとは並列されていない。

20上07-7 寺人貂・20上09-7 易牙・20上10-7 常之巫・20上14-7 衛公子開方は、『呂氏春秋』知接

管仲有疾。桓公往問之曰、仲父之疾病矣、將何以教寡人。管仲曰、齊鄙人有諺曰、居者無載、行者無理。今臣將有遠行、胡可以問。桓公曰、願仲父之無讓也。管仲對曰、願君之遠易牙・豎刀・常之巫・衛公子啟方。…

に據るものであろう。齊世家

管仲病、桓公問曰、群臣誰可相者。管仲曰、知臣莫如君。公曰、易牙如何。對曰、殺子以適君、非人情、不可。公曰、開方如何。對曰、倍親以適君、非人情、難近。公曰、豎刀如何。對曰、自宮以適君、非人情、難親。管仲死、而桓公不用管仲言、卒近用三子、三子專權。

は『呂氏春秋』の類話だが、常之巫を缺く。人表が『呂氏春秋』の「衛公子啟方」を「衛公子開方」に作るのは、あるいは齊世家に従ったものであろう。寺人貂・易牙は『左傳』僖十七に見え、齊世家もこれを引用するが、「寺人貂」を「豎刀」に作る。實のところ、「寺人貂」は『左傳』にしか見えない。人表は『左傳』を用いて『呂氏春秋』の「豎刀」を改めているのである。

<p>『左傳』僖十七 公與管仲屬孝公於宋襄公、以爲太子。雍巫有寵於衛共姬、因寺人貂以薦羞於公、亦有寵、公許之立武孟。管仲卒、五公子皆求立。冬十月乙亥、齊桓公卒。易牙入、與寺人貂因內寵以殺羣吏、而立公子無虧。孝公奔宋。</p>	<p>齊世家 桓公與管仲屬孝公於宋襄公、以爲太子。雍巫有寵於衛共姬、因宦者豎刀以厚獻於桓公、亦有寵、桓公許之立無詭。管仲卒、五公子皆求立。冬十月乙亥、齊桓公卒。易牙入、與豎刀因內寵殺羣吏、而立公子無詭爲君。太子昭奔宋。</p>
--	---

20 上 14-4 麥丘人は、

齊桓公逐白鹿、至麥丘之邦、遇人、曰、何謂者也。對曰、臣、麥丘之邦人。…（『韓詩外傳』卷十）

桓公田、至於麥丘、見麥丘邑人、…（『新序』雜事四）

に、20 下 01-4 輪邊は、『莊子』天道「桓公讀書於堂上、輪扁斲輪於堂下、釋椎鑿而上、問桓公曰、…」に、20 下 04-4 平陵老は、『說苑』貴德「桓公之平陵、見家人有年老而自養者、…」に、20 下 06-4 愚公は、『說苑』政理

齊桓公出獵、逐鹿而走入山谷之中、見一老公而問之曰、是爲何谷。對曰、爲愚公之谷。…

に、20 上 05-7 齊伯氏は『論語』憲問

或問子產。子曰、惠人也。問子西。曰、彼哉。彼哉。問管仲。曰、人也。奪伯氏駢邑三百、飯疏食、沒齒、無怨言。

に、19 下 15-8 鮒里乙は、『荀子』宥坐「管仲誅付里乙」に見える。

033 魯公孫隱 『人表考』卷六は、20 上 03-6 魯公孫隱を、『左傳』莊十「夏六月、齊師・宋師次于郎。公子偃曰、…」の公子偃とする。魯世家はこれを引用しない。

035 宋愨公 20 上 12-3 宋仇牧・20 上 05-5 蕭叔大心・20 上 07-5 石祁子・20 上 05-8 南宮萬・20 上 07-8 子游・20 上 08-8 猛獲・20 上 09-8 南宮牛は、『左傳』莊十二に見える。宋世家はこれを節略し、蕭叔大心・石祁子・猛獲を省略している。

<p>『左傳』莊十二 十二年秋、宋萬弑閔公于蒙澤。遇仇牧于門、批而殺之。遇大宰督于東宮之西、又殺之。立子游。羣公子奔蕭。公子御說奔亳。南宮牛・猛獲帥師圍亳。 冬十月、蕭叔大心及戴・武・宣・穆・莊之族以曹師伐之。殺南宮牛于師、殺子游于宋、立桓公。</p>	<p>宋世家 十一年秋、…萬有力、病此言、遂以局殺潛公于蒙澤。大夫仇牧聞之、以兵造公門。萬搏牧、牧齒著門闔死。因殺太宰華督、乃更立公子游爲君。諸公子奔蕭、公子禦說奔亳。萬弟南宮牛將兵圍亳。 冬、蕭及宋之諸公子共擊殺南宮牛、弑宋新君游而立潛公弟禦說、是爲桓公。</p>
--	---

<p>猛獲奔衛。南宮萬奔陳、以乘車輦其母、一日而至。宋人請猛獲于衛、衛人欲勿與、石祁子曰、不可。天下之惡一也、惡於宋而保於我、保之何補。得一夫而失一國、與惡而棄好、非謀也。衛人歸之。亦請南宮萬于陳、以賂。陳人使婦人飲之酒、而以犀革裹之。比及宋、手足皆見。宋人皆醢之。</p>	<p>宋萬奔陳。宋人請以賂陳。陳人使婦人飲之醇酒、以革裹之、歸宋。宋人醢萬也。</p>
---	---

036 魯曹劌 20 上 15-3 魯曹劌は、『公羊』 莊十三 (681BC)

[經] 冬、公會齊侯盟于柯。[傳] 何以不日。易也。其易奈何。桓之盟不日、其會不致、信之也。其不日何以始乎此。莊公將會乎桓、曹子進曰、君之意何如。莊公曰、寡人之生、則不若死矣。曹子曰、然則君請當其君、臣請當其臣。莊公曰、諾。於是會乎桓。莊公升壇、曹子手劍而從之。管子進曰、君何求乎。曹子曰、城壞壓竟、君不圖與。管子曰、然則君將何求。曹子曰、願請汶陽之田。管子顧曰、君許諾。桓公曰、諾。曹子請盟、桓公下與之盟。已盟、曹子擲劍而去之。要盟可犯、而桓公不欺、曹子可讎、而桓公不怨、桓公之信著乎天下、自柯之盟始焉。

に據る。『公羊』は「曹子」、『史記』齊表・齊世家・魯世家・刺客列傳は「曹沫」に作るが、人表は『左傳』に従って「曹劌」を用いている。

037 鄭子嬰齊 20 上 10-5 原繁・20 上 14-8 傅瑕は、『左傳』 莊十四に見える。鄭世家の記述はかなり改變されており、加えて「原繁」を「伯父原」、「傅假」を「甫假」に作る。

<p>『左傳』 莊十四 鄭厲公自櫟侵鄭、及大陵、獲傅瑕。傅瑕曰、苟舍我、吾請納君。與之盟而赦之。</p> <p>六月甲子、傅瑕殺鄭子及其二子、而納厲公。初、內蛇與外蛇鬪於鄭南門中、內蛇死。六年而厲公入。…厲公入、遂殺傅瑕。使謂原繁曰、傅瑕貳、周有常刑、既伏其罪矣。納我而無二心者、吾皆許之上大夫之事、吾願與伯父圖之。且寡人出、伯父無裏言、入、又不念寡人、寡人憾焉。對曰、先君桓公命我先人典司宗祏。社稷有主、而外其心、其何貳如之。苟主社稷、國內之民、其誰不為臣。臣無二心、天之制也。子儀在位十四年矣、而謀召君者、庸非貳乎。莊公之子猶有八人、若皆以官爵行賂勸貳而可以濟事、君其若之何。臣聞命矣。乃縊而死。</p>	<p>鄭世家 十四年、故鄭亡厲公突在櫟者使人誘劫鄭大夫甫假、要以求入。假曰、舍我、我為君殺鄭子而入君。厲公與盟、乃舍之。</p> <p>六月甲子、假殺鄭子及其二子而迎厲公突、突自櫟復入即位。初、內蛇與外蛇鬪於鄭南門中、內蛇死。居六年、厲公果復入。入而讓其伯父原曰、我亡國外居、伯父無意入我、亦甚矣。原曰、事君無二心、人臣之職也。原知罪矣。遂自殺。厲公於是謂甫假曰、子之事君有二心矣。遂誅之。假曰、重德不報、誠然哉。</p>
--	---

039 楚文王卒 20下 05-3 楚弼拳は、『左傳』 莊十九

春、楚子禦之、大敗於津。還、鬻拳弗納。遂伐黃、敗黃師于蹇陵。還、及湫、有疾。

夏六月庚申、卒。鬻拳葬諸夕室、亦自殺也、而葬於經皇。

に見えるが、楚世家はこれを引用しない。

20下 09-5 息媯・20下 09-7 息侯は『左傳』 莊十に見え、蔡世家は「息媯」を「息夫人」に作る。

<p>『左傳』 莊十 蔡哀侯娶于陳、息侯亦娶焉。息媯將歸、過蔡。蔡侯曰、吾媯也。止而見之、弗賓。息侯聞之、怒、使謂楚文王曰、伐我、吾求救於蔡而伐之。楚子從之。秋九月、楚敗蔡師于莘、以蔡侯獻舞歸。</p>	<p>蔡世家 初、哀侯娶陳、息侯亦娶陳。息夫人將歸、過蔡、蔡侯不敬。息侯怒、請楚文王、來伐我、我求救於蔡、蔡必來、楚因擊之、可以有功。楚文王從之、虜蔡哀侯以歸。哀侯留九歲、死於楚。凡立二十年卒。</p>
--	--

楚表「六 息夫人、陳女、過蔡、蔡不禮、惡之。楚伐蔡、獲哀侯以歸」にも同じく「息夫人」が見える。

息媯が楚弼拳の近くにあるのは、『左傳』 莊十四

蔡哀侯爲莘故、繩息媯以語楚子。楚子如息、以食入享、遂滅息。以息媯歸、生堵敖及成王焉、

に見えるように、文王が息媯を娶ったからだが、楚世家・蔡世家・十二諸侯年表ともにこれを引用しない。

040 王子頹の亂 20下 06-8 王子頹・20下 08-8 蔦國・20下 10-8 邊柏は、『左傳』 莊十九に見えるが、周本紀はこれを節略して蔦國を省略している。20下 12-5 虢叔は『左傳』 莊二十・二十一に見えるが、周本紀は「虢君」に作る。一方で、燕世家

(莊公)十六年、與宋・衛共伐周惠王、惠王出奔溫、立惠王弟穰爲周王。

および燕表「十六 伐王、王奔溫、立子穰」「十七 鄭執我仲父」は、『左傳』の燕を北燕と判断する。20下 10-6 燕嚴侯がこの位置にあるのは、人表が燕世家に従ったものである。

<p>『左傳』 (莊十九) 初、王姚嬖于莊王、生子頹。子頹有寵、 蒞國爲之師。及惠王即位、取蒞國之圃以爲囿。 邊伯之宮近於王宮、王取之。王奪子禽・祝跪 與詹父田、而收膳夫之秩、故蒞國・邊伯・石速・ 詹父・子禽・祝跪作亂、因蘇氏。秋、五大夫 奉子頹以伐王、不克、出奔溫。蘇子奉子頹以 奔衛。衛師・燕師伐周。冬、立子頹。 (莊二十) 二十年春、鄭伯和王室、不克。執燕 仲父。夏、鄭伯遂以王歸、王處於櫟。 …冬、王子頹享五大夫、樂及徧舞。鄭伯聞之、 見號叔、曰、… (莊二十一) 二十一年春、胥命于弭。夏、同伐 王城。鄭伯將王自圉門入、號叔自北門入、殺 王子頹及五大夫。</p>	<p>周本紀 惠王二年。初、莊王嬖姬姚、生子穰、穰有寵。 及惠王即位、奪其大臣園以爲囿、故大夫邊伯 等五人作亂、 謀召燕・衛師、伐惠王。惠王奔溫、已居鄭之櫟。 立釐王弟穰爲王。樂及徧舞、鄭・號君怒。 四年、鄭與號君伐殺王穰、復入惠王。</p>
--	---

041 陳公子完 20 下 08-4 陳公子完・20 上 05-6 顓孫・21 上 01-8 陳太子禦寇は、『左傳』
 莊二十二に見えるが、田世家では顓孫が省略されている。

<p>『左傳』 莊十二 十二年春、陳人殺其太子御寇。陳公子完與顓 孫奔齊。顓孫自齊來奔。</p>	<p>田世家 宣公十一年、殺其太子禦寇。禦寇與完相愛、恐 禍及己、完故奔齊。</p>
--	--

042 鄭文公 20 下 13-7 鄭高克・20 下 15-7 公孫素は、『詩序』鄭風/清人

清人、刺文公也。高克好利而不顧其君、文公惡而欲遠之不能。使高克將兵而禦狄
 于竟、陳其師旅、翱翔河上。久而不召、眾散而歸、高克奔陳。公子素惡高克進之
 不以禮、文公退之不以道、危國亡師之本、故作是詩也。

に見える。21 上 02-6 彊鉏は、『左傳』 莊十六

鄭伯自櫟入、緩告于楚。秋、楚伐鄭、及櫟、爲不禮故也。鄭伯治與於雍糾之亂者、
 九月、殺公子闞、別強鉏。

に見えるが、鄭世家はこれを引用しない。

043 魯禦孫 21 上 01-5 魯禦孫は、『左傳』 莊二十四

二十四年春、刻其柁、皆非禮也。御孫諫曰、…秋、哀姜至、公使宗婦觀、用幣、
 非禮也。御孫曰、…

に見えるが、魯世家はこれを引用しない。

044 齊桓公の霸業 21 上 05-5 召伯廖*²⁰ は、『左傳』 莊二十七 (667BC) 「王使召伯
 廖賜齊侯命、且請伐衛、以其立子頹也」に見えるが、周本紀「惠王十年、賜齊桓公爲伯」・
 周表「十 賜齊侯命」は召伯廖を省略する。

21 上 06-4 楚屈完・21 上 02-7 陳轅濤塗・21 上 04-7 楚申侯は『左傳』僖四に見えるが、齊世家はこれを節略し、申侯を省略している。

<p>『左傳』僖四 四年春、齊侯以諸侯之師侵蔡。蔡潰、遂伐楚。楚子使與師言曰、…管仲對曰、…對曰、…師進、次于陘。夏、楚子使屈完如師。師退、次于召陵。齊侯陳諸侯之師、與屈完乘而觀之。齊侯曰、…對曰、…齊侯曰、…對曰、…屈完及諸侯盟。 陳轅濤塗謂鄭申侯曰、師出於陳、鄭之間、國必甚病。若出於東方、觀兵於東夷、循海而歸、其可也。申侯曰、善。濤塗以告齊侯、許之。申侯見曰、師老矣。若出於東方而遇敵、懼不可用也。若出於陳・鄭之間、共其資糧扉屨、其可也。齊侯說、與之虎牢。執轅濤塗。 秋、伐陳、討不忠也。</p>	<p>齊世家 三十年春、齊桓公率諸侯伐蔡、蔡潰。遂伐楚。楚成王與師問曰、…管仲對曰、…楚王曰、…齊師進次于陘。夏、楚王使屈完將兵扞齊、齊師退次召陵。桓公矜屈完以其眾。屈完曰、…乃與屈完盟而去。 過陳、陳袁濤塗詐齊、令出東方、覺。 秋、齊伐陳。</p>
---	---

21 上 03-3 宰孔は『左傳』僖九およびそれを引用した齊世家・晉世家・齊表に見える。

045 虢滅亡の豫言 20 下 12-4 虢史嚚・20 下 15-4 周内史過は、『左傳』莊三十二

秋七月、有神降于莘。惠王問諸內史過曰、是何故也。對曰、…神居莘六月、虢公使祝應・宗區・史嚚享焉。神賜之土田。史嚚曰、…

に見えるが、『史記』はこれを引用しない。

046 魯の内亂 21 上 05-3 魯公子季友・21 上 06-7 魯公子般・21 上 04-8 魯公子牙・21 上 06-8 圉人犂・21 上 08-8 公子慶父は『左傳』莊三十二に、21 上 09-3 魯公子奚斯・21 上 10-8 卜疇は閔二に見え、それらを引用した魯世家にも見える。21 上 07-5 齊中孫湫は、『左傳』閔元「冬、齊仲孫湫來省難」に見えるが、『史記』は引用しない。

047 衛の滅亡 21 下 01-7 史華龍滑は、『左傳』閔二

冬十二月、狄人伐衛。衛懿公好鶴、鶴有乘軒者。將戰、國人受甲者皆曰、使鶴、鶴實有祿位、余焉能戰。公與石祁子玦、與甯莊子矢、使守、曰、以此贊國、擇利而爲之。與夫人繡衣、曰、聽於二子。渠孔御戎、子伯爲右、黃夷前驅、孔嬰齊殿。及狄人戰于熒澤、衛師敗績、遂滅衛。衛侯不去其旗、是以甚敗。狄人囚史華龍滑與禮孔、以逐衛人。二人曰、我、大史也、實掌其祭。不先、國不可得也。乃先之。至、則告守曰、不可待也。夜與國人出。狄入衛、遂從之、又敗諸河。

に見えるが、衛世家

懿公即位、好鶴、淫樂奢侈。九年、翟伐衛、衛懿公欲發兵、兵或畔。大臣言曰、

君好鶴、鶴可令擊翟。翟於是遂入、殺懿公。

および衛表「翟伐我。公好鶴、士不戰、滅我國」はこれを節略し、史華龍滑を省略する。

21 上 11-5 許夫人は、閔二

初、惠公之即位也少、齊人使昭伯烝於宣姜、不可、強之。生齊子・戴公・文公、宋桓夫人、許穆夫人。

に見えるが、衛世家「更立黔牟之弟昭伯頑之子申爲君、是爲戴公」は戴公にしか言及しない。

21 上 13-3 衛弘賁は、『呂氏春秋』忠廉

翟人攻衛、其民曰、君之所予位祿者、鶴也。所貴富者、宮人也。君使宮人與鶴戰、余焉能戰。遂潰而去。翟人至、及懿公於榮澤、殺之、盡食其肉、獨捨其肝。弘演至、報使於肝、畢、呼天而啼、盡哀而止、曰、臣請爲襮。因自殺、先出其腹實、內懿公之肝。桓公聞之曰、衛之亡也、以爲無道也。今有臣若此、不可不存。於是復立衛於楚丘。

に見える。

048 晉獻公 21 下 02-5 史蘇は、『國語』晉語一「獻公ト伐驪戎、史蘇占之、曰、…」に、21 下 03-8 優施は、晉語一「公之優曰施、通於驪姬。…」に見える。

21 下 06-4 申生・21 下 03-7 奚齊・21 下 04-7 卓子・21 下 04-8 梁五・21 下 05-8 東關五・21 下 02-9 晉驪姬は、『左傳』莊二十八

晉獻公娶于賈、無子。烝於齊姜、生秦穆夫人及太子申生。又娶二女於戎、大戎狐姬生重耳、小戎子生夷吾。晉伐驪戎、驪戎男女以驪姬。歸、生奚齊、其娣生卓子。驪姬嬖、欲立其子、賂外嬖梁五與東關嬖五、使言於公曰、曲沃、君之宗也。蒲與二屈、君之疆也。不可以無主。宗邑無主、則民不威。疆場無主、則啟戎心。戎之生心、民慢其政、國之患也。若使太子主曲沃、而重耳・夷吾主蒲與屈、則可以威民而懼戎、且旌君伐。使俱曰、狄之廣莫、於晉爲都。晉之啟土、不亦宜乎。晉侯說之。夏、使太子居曲沃、重耳居蒲城、夷吾居屈。羣公子皆鄙、唯二姬之子在絳。二五卒與驪姬譖羣公子而立奚齊、晉人謂之二五耦。

に見える。晉世家

十二年、驪姬生奚齊。獻公有意廢太子、乃曰、曲沃吾先祖宗廟所在、而蒲邊秦、

屈邊翟、不使諸子居之、我懼焉。於是使太子申生居曲沃、公子重耳居蒲、公子夷吾居屈。獻公與驪姬子奚齊居絳。晉國以此知太子不立也。太子申生、其母齊桓公女也、曰齊姜、早死。申生同母女弟爲秦穆公夫人。重耳母、翟之狐氏女也。夷吾母、重耳母女弟也。獻公子八人、而太子申生・重耳・夷吾皆有賢行。及得驪姬、乃遠此三子。

はこれを踏まえた記述だが、梁五・東關五が省略されている。卓子は、晉世家の下文に「二十五年、…驪姬弟生悼子」とあり、独自の紀年資料を根據に獻公十二年から省いたものである。

21上15-4 卜偃・21下01-4 辛廖・21上15-6 趙夙・21下02-6 畢萬・21下04-6 士蔿は、『左傳』閔元およびそれを引用した晉世家に見える。

21下07-7 趙孟（原注「夙子、生衰」）は、『史記』趙世家「夙生共孟」の「共孟」である。

21下03-4 梁餘子養・21下05-4 罕夷・21下07-4 狐突・21上13-5 先丹木・21上15-5 羊舌大夫は、『左傳』閔二

晉侯使太子申生伐東山皋落氏。…太子帥師、公衣之偏衣、佩之金玦。狐突御戎、先友爲右。梁餘子養御罕夷、先丹木爲右。羊舌大夫爲尉。…太子將戰、狐突諫曰、…

に見えるが、晉世家

十七年、晉侯使太子申生伐東山。…太子帥師、公衣之偏衣、佩之金玦。里克謝病、不從太子。太子遂伐東山。

はこれを節略し、この五人を省略している。

21下05-6 臣猛足（晉猛足*²¹）は、『國語』晉語一「蒸于武公、公稱疾不與、使奚齊蒞事。猛足乃言於太子曰、…」に見える。

21下01-3 荀息は、『左傳』僖二に、21下07-3 宮之奇・21下07-6 井伯・21下07-8 虞公・21下10-8 虢公は、僖五に見え、それらを引用した晉世家にも見える。

049 秦穆公 21下10-3 百里奚・21下14-4 公孫枝は『左傳』僖十三

冬、晉薦饑、使乞糶于秦。秦伯謂子桑、與諸乎。對曰、重施而報、君將何求。重施而不報、其民必攜、攜而討焉、無眾、必敗。謂百里、與諸乎。對曰、天災流行、

國家代有、救災恤鄰、道也。行道、有福。丕鄭之子豹在秦、請伐晉。秦伯曰、其君是惡、其民何罪。秦於是乎輸粟于晉、自雍及絳相繼、命之曰汎舟之役。

を踏まえた秦本紀

晉旱、來請粟。丕豹說繆公勿與、因其饑而伐之。繆公問公孫支、支曰、饑饉更事耳、不可不與。問百里傒、傒曰、夷吾得罪於君、其百姓何罪。於是用百里傒・公孫支言、卒與之粟。以船漕車轉、自雍相望至絳。

に見える。「百里奚」「公孫枝」を『左傳』は「百里」「子桑」に作る。『左傳』には「百里奚」の稱謂は見えない。

21 下 12-4 秦繆夫人は僖十五に、22 上 03-4 蹇叔は僖三十三に、21 下 14-3 奄息・22 上 01-3 中行・22 上 03-3 鍼虎は文六に見え、それらを引用した秦本紀にも見える。

22 上 08-4 卜徒父は『左傳』僖十五「故秦伯伐晉。卜徒父筮之、…」に見えるが、秦本紀はこれを引用しない。

22 上 04-4 燭之武は、『左傳』僖三十

九月甲午、晉侯・秦伯圍鄭、以其無禮於晉、且貳於楚也。晉軍函陵、秦軍汜南。佚之狐言於鄭伯曰、國危矣。若使燭之武見秦君、師必退。公從之。辭曰、臣之壯也、猶不如人、今老矣、無能爲也已。公曰、吾不能早用子、今急而求子、是寡人之過也。然鄭亡、子亦有不利焉。許之。夜、縋而出、見秦伯曰、秦・晉圍鄭、鄭既知亡矣。若亡鄭而有益於君、敢以煩執事。越國以鄙遠、君知其難也、焉用亡鄭以陪鄰。鄰之厚、君之薄也。若舍鄭以爲東道主、行李之往來、共其乏困、君亦無所害。且君嘗爲晉君賜矣、許君焦・瑕、朝濟而夕設版焉、君之所知也。夫晉、何厭之有。既東封鄭、又欲肆其西封、不闕秦、將焉取之。闕秦以利晉、唯君圖之。秦伯說、與鄭人盟、使杞子・逢孫・揚孫戍之、乃還。

に見えるが、『史記』

三十年、繆公助晉文公圍鄭。鄭使人言繆公曰、亡鄭厚晉、於晉而得矣、而秦未有利。晉之彊、秦之憂也。繆公乃罷兵歸。(秦本紀)

七年、晉文公・秦繆公共圍鄭、以其無禮於文公亡過時、及城濮時鄭助楚也。…晉曰、必得鄭君而甘心焉。鄭恐、乃間令使謂秦繆公曰、亡鄭厚晉、於晉得矣、而秦未爲利。君何不解鄭、得爲東道交。秦伯說、罷兵。(晉世家)

四十三年、晉文公與秦穆公共圍鄭、討其助楚攻晉者、及文公過時之無禮也。…
晉文公曰、必欲一見鄭君、辱之而去。鄭人患之、乃使人私於秦曰、破鄭益晉、非
秦之利也。秦兵罷。(鄭世家)

はいずれも燭之武の名を記さない。

22上 02-5 皇武子は、『左傳』僖三十三

三十三年春、秦師過周北門、左右免胄而下、超乘者三百乘。王孫滿尚幼、觀之、
言於王曰、秦師輕而無禮、必敗。輕則寡謀、無禮則脫。入險而脫、又不能謀、能
無敗乎。及滑、鄭商人弦高將市於周、遇之、以乘韋先牛十二犒師、曰、寡君聞吾
子將步師出於敝邑、敢犒從者、不腆敝邑、爲從者之淹、居則具一日之積、行則備
一夕之衛。且使遽告于鄭。鄭穆公使視客館、則束載、厲兵、秣馬矣。使皇武子辭焉、
曰、吾子淹久於敝邑、唯是脯資餼牽竭矣、爲吾子之將行也。鄭之有原圃、猶秦之
有具囿也。吾子取其麋鹿、以閒敝邑、若何。杞子奔齊、逢孫・揚孫奔宋。孟明曰、
鄭有備矣、不可冀也。攻之不克、圍之不繼、吾其還也。滅滑而還。

に見えるが、

三十三年春、秦兵遂東、更晉地、過周北門。周王孫滿曰、秦師無禮、不敗何待。
兵至滑、鄭販賣賈人弦高、持十二牛將賣之周、見秦兵、恐死虜、因獻其牛、曰、
聞大國將誅鄭、鄭君謹修守禦備、使臣以牛十二勞軍士。秦三將軍相謂曰、將襲鄭、
鄭今已覺之、往無及已。滅滑。滑、晉之邊邑也。(秦本紀)

繆公元年春、秦繆公使三將將兵欲襲鄭、至滑、逢鄭賈人弦高詐以十二牛勞軍、
故秦兵不至而還、(鄭世家)

はこれを節略し、皇武子を省略している。

22上 01-4 繇余は、秦本紀「戎王使由余於秦。…」に見える。

22上 11-4 禽息は『韓詩外傳』佚文

韓詩外傳曰、禽息、秦人、知百里奚之賢、薦之於穆公、爲私而加刑焉。公後知
百里之賢、乃召禽息謝之。禽息對曰、臣聞忠臣進賢不私顯、烈士憂國不喪志、奚
陷刑、臣之罪也。乃對使者以首觸楹而死、以上卿之禮葬之。(『文選』卷五十五/
陸士衡演連珠五十首注)

韓詩外傳曰、禽息、秦大夫、薦百里奚不見納。繆公出、當車以頭擊闌、腦乃精出、

曰、臣生無補於國、不如死也。繆公感寤而用百里奚、秦以大化。(『後漢書』朱穆傳注)

禽息、秦大夫、薦百里奚而不見納。繆公出、當車以頭擊闌、腦乃播出、曰、臣生無補於國、不如死也。繆公感寤、而用百里奚、秦以大化。見韓詩外傳。(『後漢書』孟嘗傳注)

に見える。

22 上 12-4 王廖は、『韓詩外傳』卷九

傳曰、昔戎將由余使秦。秦繆公問以得失之要、對曰、古有國者、未嘗不以恭儉也、失國者、未嘗不以驕奢也。由余因論五帝三王之所以衰、及至布衣之所以亡、繆公然之。於是告內史王繆曰、…

に見える。

051 楚圍許 21 下 06-5 楚逢伯・21 下 13-7 許釐公は、『左傳』僖六

秋、楚子圍許、以救鄭。諸侯救許。乃還。冬、蔡穆侯將許僖公以見楚子於武城。…楚子問諸逢伯、…

に見える。これを節略した楚世家「十八年、成王以兵北伐許、許君肉袒謝、乃釋之」・楚表「十八 伐許、許君肉袒謝、楚從之」は、「許僖公」を「許君」に作り、逢伯を省略している。

052 鄭子華 21 下 13-8 鄭子華は『左傳』僖七「鄭伯使大子華聽命於會」に見えるが、『史記』はこれを引用しない。

053 衛文公 21 下 08-5 衛甯嚴子は、『左傳』僖十九「秋、衛人伐邢、以報菟圃之役。於是衛大旱、卜有事於山川、不吉。甯莊子曰、…」に見えるが、衛世家はこれを引用しない。

054 宋襄公・蔡嚴侯 21 下 03-3 宋公子目夷は、『左傳』僖八およびそれを引いた宋世家に見える。

22 上 06-4 內史叔興は、『左傳』僖十六

春、隕石于宋、五、隕星也。六鷁退飛、過宋都、風也。周內史叔興聘于宋、宋襄公問焉、…

に見えるが、宋世家「襄公七年、宋地貫星如雨、與雨偕下。六鷁退蜚、風疾也」・宋表

「七隕五石。六鷁退飛、過我都」は、「周内史叔興」以下を省略する。

055 王子帯の亂 21 下 10-5 富辰・22 上 03-8 惠后・22 上 03-9 王子帯は、『左傳』僖二十四およびそれを引用する周本紀に見える。

056 晉惠公 21 下 11-5 晉冀芮・22 上 07-7 里克は『左傳』僖九に、21 下 13-5 慶鄭・22 上 09-7 虢射は僖十四に見え、それらを引用する晉世家にも見える。

21 下 14-5 韓簡は、『左傳』僖十五「九月、晉侯逆秦師、使韓簡視師、…」 「及惠公在秦、曰、先君若從史蘇之占、吾不及此夫。韓簡侍、曰…」の韓の戦に關する記述に見えるが、晉世家はこれらを省略し、また僖十五「梁由靡御韓簡、虢射爲右、輅秦伯、將止之」を晉世家は「更令梁繇靡御、虢射爲右、輅秦繆公」に作る。

22 上 05-6 梁卜招父・22 上 06-8 梁伯は、僖十七「惠公之在梁也、梁伯妻之、梁嬴孕過期、卜招父與其子卜之、…」に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

057 衛成公 22 上 09-6 衛元咺・22 上 13-6 叔武は、『左傳』僖二十八

二十八年春、晉侯將伐曹、假道于衛、衛人弗許。還、自南河濟。侵曹、伐衛。正月戊申、取五鹿。…衛侯請盟、晉人弗許。衛侯欲與楚、國人不欲、故出其君以說于晉。衛侯出居于襄牛。…衛侯聞楚師敗、懼、出奔楚、遂適陳、使元咺奉叔武以受盟。

に見えるが、これを踏まえた衛世家

成公三年、晉欲假道於衛救宋、成公不許。晉更從南河度、救宋。徵師於衛、衛大夫欲許、成公不肯。大夫元咺攻成公、成公出奔。晉文公重耳伐衛、分其地予宋、討前過無禮及不救宋患也。衛成公遂出奔陳。

に叔武は見えない。

22 上 15-2 甯武子・22 上 15-6 鍼嚴子は、僖二十八「衛侯與元咺訟、甯武子爲輔、鍼莊子爲坐、士榮爲大士。…」に見えるが、衛世家はこれを引用しない。

058 齊孝公 22 下 06-8 齊公子無詭は、『左傳』僖十七およびそれを引用する齊世家に見える。

059 晉文公 22 下 01-3 狐偃・22 下 02-3 趙衰・22 下 04-4 魏犢・22 下 08-4 賈佗は、『左傳』昭十三およびそれを引用する晉世家に見える。

『左傳』昭十三 生十七年、有士五人、有先大夫子餘・子犯、以爲腹心。有魏犢・賈佗、以爲股肱。	晉世家 年十七、有賢士五人。曰趙衰。狐偃咎犯、文公舅也。賈佗。先軫。魏武子。
--	---

『左傳』の「子餘」「子犯」を晉世家は「趙衰」「狐偃」に、晉世家の「魏武子」を『左傳』は「魏犢」に作る。人表には字・諡を諱にあらためることが頻見する。

22下 06-4 顛頡・22下 07-4 胥臣（司空季子）は、『左傳』僖二十三「從者狐偃、趙衰、顛頡、魏武子、司空季子」などに見えるが、晉世家には見えない。

22下 02-4 夫人姜氏は僖二十三

及齊、齊桓公妻之、有馬二十乘。公子安之、從者以爲不可。將行、謀於桑下。蠶姜在其上、以告姜氏。…

に見え、晉世家

至齊、齊桓公厚禮、而以宗女妻之、有馬二十乘、重耳安之。重耳至齊二歲而桓公卒、會豎刀等爲內亂、齊孝公之立、諸侯兵數至。留齊凡五歲。重耳愛齊女、母去心。趙衰・咎犯乃於桑下謀行。齊女侍者在桑上聞之、以告其主。…

は「齊女」に作る。

22上 04-5 鰲負（鰲負羈*²²）・22上 05-5 羈妻は、僖二十三

及曹、曹共公聞其駢脅、欲觀其裸。浴、薄而觀之。僖負羈之妻曰、吾觀晉公子之從者、皆足以相國。若以相、夫子必反其國。反其國、必得志於諸侯。得志於諸侯而誅無禮、曹其首也。子盍蚤自貳焉。乃饋盤飧、寘璧焉。公子受飧、反璧。

に見えるが、

過曹、曹共公不禮、欲觀重耳駢脅。曹大夫鰲負羈曰、晉公子賢、又同姓、窮來過我、柰何不禮。共公不從其謀。負羈乃私遺重耳食、置璧其下。重耳受其食、還其璧。（晉世家）

共公十六年、初、晉公子重耳其亡過曹、曹君無禮、欲觀其駢脅。鰲負羈諫、不聽、私善於重耳。（曹世家）

十六 重耳過、無禮、僖負羈私善。（曹表）

はこれを節略し、羈妻を省略している。

21下 15-5 鄭叔詹は僖二十三「及鄭、鄭文公亦不禮焉。叔詹諫曰、…」に見え、鄭表

「三十六 重耳過、無禮、叔詹諫」は同じく「叔詹」に作るが、晉世家「過鄭、鄭文公弗禮。鄭叔瞻諫其君曰、…」は「叔瞻」に作る。

22 下 05-5 寺人披は僖二十四

呂・卻畏偪、將焚公宮而弑晉侯。寺人披請見、公使讓之、且辭焉、曰、…

に見えるが、晉世家

懷公故大臣呂省・卻芮本不附文公、文公立、恐誅、乃欲與其徒謀燒公宮、殺文公。

文公不知。始嘗欲殺文公宦者履鞮知其謀、欲以告文公、解前罪、求見文公。文公

不見、使人讓曰、…

は、「宦者履鞮」に作る。

22 下 12-4 豎頭須は、僖二十四「初、晉侯之豎頭須、守藏者也。…」に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

22 下 05-3 衰妻は僖二十四およびそれを引用する趙世家に見える。

22 下 06-3 介子推・22 下 08-3 推母は僖二十四およびそれを引用する晉世家に見える。

22 下 04-6 倉葛は、僖二十五「陽樊不服、圍之。蒼葛呼曰、…」に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

22 下 11-3 卻穀・22 下 14-3 荀林父・23 上 01-3 先軫は、僖二十七およびそれを引用する晉世家に見える。22 下 01-5 欒悼子は文五「晉趙成子・欒貞子・霍伯・臼季皆卒」(杜注「貞子、欒枝、下軍帥也」)の「欒貞子」*23、僖二十七の欒枝である。

<p>『左傳』 僖二十七 於是乎蒐于被廬、作三軍。謀元帥。趙衰曰、… 及使卻穀將中軍、卻縠佐之。使狐偃將上軍、讓 於狐毛而佐之。命趙衰爲卿、讓於欒枝、先軫。 使欒枝將下軍、先軫佐之。荀林父御戎、魏犢 爲右。</p>	<p>晉世家 於是晉作三軍。趙衰舉卻穀將中軍、卻縠佐之。 使狐偃將上軍、狐毛佐之、命趙衰爲卿。欒枝 將下軍、先軫佐之。荀林父御戎、魏犢爲右。</p>
---	--

22 下 12-3 舟之僑は僖二十八「殺顛頡以徇于師、立舟之僑以爲戎右」に見えるが、晉世家には見えない。

22 上 10-5 楚子玉・22 上 12-5 鬬宜申・22 上 14-5 成大心は、僖二十八

初、楚子玉自爲瓊弁玉纓、未之服也。先戰、夢河神謂己曰、畀余、余賜女孟諸之麋。

弗致也。大心與子西使榮黃諫、弗聽。…

に見えるが、『史記』はこれを引用しない。ちなみに子西が鬪宜申の字であることは、
文十

初、楚范巫喬似謂成王與子玉・子西曰、三君皆將強死。城濮之役、王思之、故使
止子玉曰、毋死。不及。止子西、子西縊而縣絕、王使適至、遂止之、使爲商公。
沿漢泝江、將入郢。王在渚宮、下、見之。懼而辭曰、臣免於死、又有讒言、謂臣
將逃、臣歸死於司敗也。王使爲工尹、又與子家謀弑穆王。穆王聞之。五月、殺鬪
宜申及仲歸。

によって知られるが、この章は人表に反映されていない。人表編纂に際して、賈逵『春
秋左氏解詁』が利用されていたと考えられるが、同書には、

王子克 莊王弟子儀也。(『集解』周本紀)

欒貞子霍伯 欒貞子、欒枝也。霍伯、先且居也。(『集解』晉世家)

子餘 子餘、趙衰。(『集解』楚世家)

孟懿子 懿子、仲孫何忌。(『集解』魯世家)

など、諱・字・諡に関する注釋があったことが知られる。人表も同様の賈逵注を利用
した可能性がある。

22 上 06-5 曹豎侯孺は僖二十八

晉侯有疾、曹伯之豎侯孺貨筮史、使曰以曹爲解、齊桓公爲會而封異姓、今君爲會
而滅同姓。曹叔振鐸、文之昭也。先君唐叔、武之穆也。且合諸侯而滅兄弟、非禮也。
與衛偕命、而不與偕復、非信也。同罪異罰、非刑也。禮以行義、信以守禮、刑以
正邪。舍此三者、君將若之何。公說、復曹伯、

に見えるが、曹世家

晉文公重耳伐曹、虜共公以歸、令軍毋入釐負羈之宗族閭。或說晉文公曰、昔齊桓
公會諸侯、復異姓。今君囚曹君、滅同姓、何以令於諸侯。晉乃復歸共公。

はこれを節略し、豎侯孺を省略している。

22 下 11-4 董因は『國語』晉語四「董因迎公於河、…」に、22 下 03-5 晉李離は『韓
詩外傳』卷二およびそれを引用する循吏列傳に見える。

061 鄭繆公 22 下 05-7 鄭子臧・23 上 10-4 石癸は、『左傳』宣三

文公報鄭子之妃、曰陳媯、生子華・子臧。子臧得罪而出。誘子華而殺之南里、使

盜殺子臧於陳・宋之間。又娶于江、生公子士。朝于楚、楚人酖之、及葉而死。又娶于蘇、生子瑕・子俞彌。俞彌早卒。洩駕惡瑕、文公亦惡之、故不立也。公逐羣公子、公子蘭奔晉、從晉文公伐鄭。石癸曰、吾聞姬、媯耦、其子孫必蕃。媯、吉人也、后稷之元妃也。今公子蘭、媯甥也、天或啟之、必將爲君、其後必蕃、先納之、可以亢寵。與孔將鉏・侯宣多納之、盟于大宮而立之。以與晉平。穆公有疾、曰、蘭死、吾其死乎。吾所以生也。刈蘭而卒。

に見えるが、鄭世家

初、鄭文公有三夫人、寵子五人、皆以罪蚤死。公怒、溉逐群公子。子蘭奔晉、從晉文公圍鄭。時蘭事晉文公甚謹、愛幸之、乃私於晉、以求入鄭爲太子。…晉文公欲入蘭爲太子、以告鄭。鄭大夫石癸曰、吾聞媯姓乃后稷之元妃、其後當有興者。子蘭母、其後也。且夫人子盡已死、餘庶子無如蘭賢。今圍急、晉以爲請、利孰大焉。遂許晉、與盟、而卒立子蘭爲太子、晉兵乃罷去。

はこれを節略し、子臧を省略している。

22 下 09-6 石臯は、『左傳』襄十一「鄭人使良霄、大宰石臯如楚」に見えるが、鄭世家はこれを引用しない。

062 齊國嚴子 22 下 14-4 齊國嚴子は、『左傳』僖三十三「齊國莊子來聘」に見えるが、魯世家はこれを引用しない。

063 楚成王 22 上 13-9 潘崇は『左傳』文元およびそれを引用する楚世家に見える。

064 周内史叔服 23 上 01-4 周内史叔服は、『左傳』文元「王使内史叔服來會葬」に見えるが、魯世家はこれを引用しない。

065 魯文公 23 上 04-7 夏父不忌は、『左傳』文二「秋八月丁卯、大事于大廟、躋僖公。逆祀也。於是夏父弗忌爲宗伯」に見えるが、魯世家はこれを引用しない。

066 晉秦交戰 23 上 10-3 鄭弦高は『左傳』僖三十三およびそれを引用する秦本紀・鄭世家に見える。

23 上 04-4 孟明視・23 上 06-4 西乞術は『左傳』僖三十三およびそれを引用する晉世家・鄭表に見える。

23 上 02-3 狼曠は、彭衙の戦に關わる『左傳』文二

戰於穀也、晉梁弘御戎、萊駒爲右。戰之明日、晉襄公縛秦囚、使萊駒以戈斬之。

囚呼、萊駒失戈、狼躡取戈以斬囚、禽之以從公乘、遂以爲右。…

に見えるが、秦本紀・晉世家・晉表・秦表の彭衙の戦に關わる記述には引用されない。

23上 06-3 甯羸は、『左傳』文五「晉陽處父聘于衛、反過甯、甯羸從之、及溫而還。…」に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

24上 11-5 公子雍・23上 04-3 陽處父・23上 11-7 狐射姑は『左傳』文六およびそれを引用する晉世家に見える。なお、晉世家は「狐射姑」を用いず、もっぱら「賈季」を用いる。

23上 07-3 輿駢は『左傳』文六「賈季奔狄。宣子使輿駢送其帑。…」に、24上 09-5 箕鄭は『左傳』文九「三月甲戌、晉人殺箕鄭父・士穀・蒯得」に見えるが、晉世家はこれらを引用しない。

23上 08-4 士會・23上 09-4 繞朝は『左傳』文十三

晉人患秦之用士會也、夏、六卿相見於諸浮。…乃使魏壽餘僞以魏叛者以誘士會、執其帑於晉、使夜逸。請自歸于秦、秦伯許之。履士會之足于朝。秦伯師于河西、魏人在東。壽餘曰、請東人之能與夫二三有司言者、吾與之先。使士會、士會辭曰、晉人、虎狼也、若背其言、臣死、妻子爲戮、無益於君、不可悔也。秦伯曰、若背其言、所不歸爾帑者、有如河。乃行。繞朝贈之以策、曰、子無謂秦無人、吾謀適不用也。既濟、魏人譟而還。秦人歸其帑、其處者爲劉氏。

に見えるが、

晉人患隨會在秦爲亂、乃使魏讎餘詳反、合謀會、詐而得會、會遂歸晉。(秦本紀)

七年、晉六卿患隨會之在秦、常爲晉亂、乃詳令魏壽餘反晉降秦。秦使隨會之魏、因執會以歸晉。(晉世家)

七 得隨會。(晉表)

七 晉詐得隨會。(秦表)

はこれを節略し、繞朝を省略している。

23上 09-7 胥申父は、『左傳』宣元「晉人討不用命者、放胥申父于衛、而立胥克。先辛奔齊」に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

068 魯公孫敖 23上 13-5 魯公孫敖は、『春秋經』文十四「九月甲申、公孫敖卒于齊」に見えるが、魯世家はこれを引用しない。

069 單伯 23上 14-6 單伯は、『左傳』文十四「冬、單伯如齊、請子叔姬、齊人執之。又執子叔姬」に見えるが、『史記』はこれを引用しない。

070 宋昭公 23下 04-3 樂豫は『左傳』文七

夏四月、宋成公卒。於是公子成爲右師、公孫友左師、樂豫爲司馬、鱗矐爲司徒、公子蕩爲司城、華御事爲司寇。昭公將去羣公子、樂豫曰、…不聽。穆・襄之族率國人以攻公、殺公孫固・公孫鄭于公宮。六卿和公室、樂豫舍司馬、以讓公子卬。昭公即位而葬。

に見えるが、

十七年、成公卒。成公弟禦殺太子及大司馬公孫固而自立爲君。宋人共殺君禦而立成公少子杵臼、是爲昭公。(宋世家)

十七 公孫固殺成公。(宋表)

は、昭公即位に關して全く獨自の經緯を記し、樂豫も登場しない。

23上 07-5 宋子哀は、『左傳』文十四

宋高哀爲蕭封人、以爲卿、不義宋公而出、遂來奔。

に見えるが、宋世家はこれを引用しない。

23上 12-4 公孫壽・23上 14-4 蕩意諸は、『左傳』文十六

宋公子鮑禮於國人、宋饑、竭其粟而貸之。年自七十以上、無不饋詒也、時加羞珍異。無日不數於六卿之門。國之材人、無不事也、親自桓以下、無不恤也。公子鮑美而艷、襄夫人欲通之、而不可、乃助之施。昭公無道、國人奉公子鮑以因夫人。於是華元爲右師、公孫友爲左師、華耦爲司馬、鱗鱻爲司徒、蕩意諸爲司城、公子朝爲司寇。初、司城蕩卒、公孫壽辭司城、請使意諸爲之。…冬、十一月甲寅、宋昭公將田孟諸、未至、夫人王姬使帥甸攻而殺之。蕩意諸死之。…文公即位、使母弟須爲司城。華耦卒、而使蕩虺爲司馬。

に見えるが、

九年、昭公無道、國人不附。昭公弟鮑革賢而下士。先、襄公夫人欲通於公子鮑、不可、乃助之施於國、因大夫華元爲右師。昭公出獵、夫人王姬使衛伯攻殺昭公杵臼。弟鮑革立、是爲文公。(宋世家)

九 襄夫人使衛伯殺昭公。弟鮑立。(宋表)

は、これを節略し、公孫壽・蕩意諸を省略している。

072 魯宣公 23 下 03-4 卜楚丘は、『左傳』文十八

十八年春、齊侯戒師期、而有疾、醫曰、不及秋、將死。公聞之、卜、曰、尚無及期。惠伯令龜、卜楚丘占之、曰、齊侯不及期、非疾也。君亦不聞。令龜有咎。二月丁丑、公薨。

に見えるが、魯世家はこれを引用しない。

23 上 13-3 叔仲惠伯・23 下 01-4 公冉務人は、文十八

文公二妃。敬嬴生宣公。敬嬴嬖、而私事襄仲。宣公長、而屬諸襄仲。襄仲欲立之、叔仲不可。仲見于齊侯而請之。齊侯新立、而欲親魯、許之。冬十月、仲殺惡及視、而立宣公。…仲以君命召惠伯、其宰公冉務人止之曰、入必死。叔仲曰、死君命可也。公冉務人曰、若君命、可死。非君命、何聽。弗聽、乃入、殺而埋之馬矢之中。公冉務人奉其帑以奔蔡、既而復叔仲氏。

に見えるが、魯世家

文公有二妃。長妃齊女爲哀姜、生子惡及視。次妃敬嬴、嬖愛、生子倭。倭私事襄仲、襄仲欲立之、叔仲曰不可。襄仲請齊惠公、惠公新立、欲親魯、許之。冬十月、襄仲殺子惡及視而立倭、是爲宣公。

はこれを節略し、公冉務人を省略している。

23 上 15-6 魯叔孫得臣は、『春秋經』文十八「秋、公子遂・叔孫得臣如齊」（『左傳』「秋、襄仲・莊叔如齊、惠公立故、且拜葬也」）に見えるが、魯世家はこれを引用しない。

073 齊懿公 23 下 01-8 邴歎・23 下 03-8 閻職は、『左傳』文十八およびそれを引用する齊世家・齊表に見える。齊世家は「邴歎」を「丙戎」、「閻職」を「庸職」に作る。

074 晉靈公 23 下 06-3 董狐・23 下 05-4 晉趙盾・23 下 08-4 鉅麇・23 下 05-8 晉趙穿は、『左傳』宣二およびそれを引用する晉世家に見える。

23 下 06-5 靈輒・23 下 07-5 祁彌明は宣二

秋九月、晉侯飲趙盾酒、伏甲將攻之。其右提彌明知之、趨登曰、臣侍君宴、過三爵、非禮也。遂扶以下。公嗾夫獒焉、明搏而殺之。盾曰、棄人用犬、雖猛何爲。鬪且出、提彌明死之。初、宣子田于首山、舍于翳桑、見靈輒餓、問其病。曰、不食三日矣。食之、舍其半。問之、曰、宦三年矣、未知母之存否、今近焉、請以遺之。使盡之、

而爲之簞食與肉、寘諸橐以與之。既而與爲公介、倒戟以禦公徒、而免之。問何故。
對曰、翳桑之餓人也。問其名居、不告而退、遂自亡也。

の、靈輒（餓人）・提彌明（趙盾の右）に當たるが、晉世家

初、盾常田首山、見桑下有餓人。餓人、示眯明也。盾與之食、食其半。問其故、曰、
宣三年、未知母之存不、願遺母。盾義之、益與之飯肉。已而爲晉宰夫、趙盾弗復
知也。九月、晉靈公飲趙盾酒、伏甲將攻盾。公宰示眯明知之、恐盾醉不能起、而
進曰、君賜臣、觴三行可以罷。欲以去趙盾、令先、母及難。盾既去、靈公伏士未會、
先縱鬻狗名敖。明爲盾搏殺狗。盾曰、棄人用狗、雖猛何爲。然不知明之爲陰德也。
已而靈公縱伏士出逐趙盾、示眯明反擊靈公之伏士、伏士不能進、而竟脫盾。盾問
其故、曰、我桑下餓人。問其名、弗告。明亦因亡去。

では、餓人が示眯明であり、靈輒は登場しない。

24 上 03-7 翟豐舒は、『左傳』文七

狄侵我西鄙、公使告于晉。趙宣子使因賈季問酈舒、且讓之。酈舒問於賈季曰、趙衰、
趙盾孰賢。對曰、趙衰、冬日之日也。趙盾、夏日之日也。

に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

076 鄭靈公 24 下 02-4 鄭公子弃疾（鄭公子去疾*²⁴）・23 下 15-8 公子歸生*²⁵・24 上
02-8 子公は、『左傳』宣四およびそれを引用する鄭世家に見える。

077 楚嚴王 24 上 02-4 王孫滿は、『左傳』宣三およびそれを引用する楚世家に見える。
23 下 14-3 令尹子文・24 上 04-3 楚薳賈・23 下 13-4 鬬伯比・24 上 04-4 箴尹克黃・23
下 11-5 鄭子良（楚子良*²⁶）・24 上 07-8 楚子越は、『左傳』宣四

初、楚司馬子良生子越椒。子文曰、…及令尹子文卒、鬬般爲令尹、子越爲司馬。
蒍賈爲工正、譖子揚而殺之、子越爲令尹、已爲司馬。子越又惡之、乃以若敖氏之族、
圍伯嬴於轅陽而殺之、遂處烝野、將攻王。…初、若敖娶於邲、生鬬伯比。若敖卒、
從其母畜於邲、淫於邲子之、生子文焉。…其孫箴尹克黃、使於齊、還及宋、聞亂。

に見えるが、

九年、相若敖氏。人或讒之王、恐誅、反攻王、王擊滅若敖氏之族。（楚世家）

九 若敖氏爲亂、滅之。（楚表）

は、これを節略している。

24 上 06-3 申叔時は『左傳』宣十一およびそれを引用する楚世家に見える。

24 上 09-3 孫叔敖・24 上 09-4 五參・24 上 15-4 樂伯・24 上 01-6 逢大夫は『左傳』宣十二「嬖人伍參欲戰。令尹孫叔敖弗欲」「楚許伯御樂伯」「逢大夫與其二子乘」など邲の戦に關わる記述に見えるが、

六月、至河。聞楚已服鄭、鄭伯肉袒與盟而去、荀林父欲還。先穀曰、凡來救鄭、不至不可、將率離心。卒度河。楚已服鄭、欲飲馬于河爲名而去。楚與晉軍大戰。鄭新附楚、畏之、反助楚攻晉。晉軍敗、走河、爭度、船中人指甚眾。楚虜我將智罃。
(晉世家)

夏六月、晉救鄭、與楚戰、大敗晉師河上、遂至衡雍而歸。(楚世家)

三 救鄭、爲楚所敗河上。(晉表)

は、邲の戦の記述を節略し、これらの人物を省略する。ちなみに『史記』は孫叔敖を循吏列傳に列している。

23 下 13-5 士貞子*²⁷は、『左傳』宣十二「秋、晉師歸、桓子請死、晉侯欲許之。士貞子諫曰、…」に見えるが、晉世家「歸而林父曰、臣爲督將、軍敗當誅、請死。景公欲許之。隨會曰、…」は士貞子を隨會に改變する。

24 上 08-6 申舟は『左傳』宣十四

楚子使申舟聘于齊、曰、無假道于宋。亦使公子馮聘于晉、不假道于鄭。申舟以孟諸之役惡宋、曰、鄭昭、宋讐、晉使不害、我則必死。王曰、殺女、我伐之。見犀而行。及宋、宋人止之。華元曰、過我而不假道、鄙我也。鄙我、亡也。殺其使者、必伐我。伐我、亦亡也。亡一也。乃殺之。楚子聞之、投袂而起、屨及於塗皇、劍及於寢門之外、車及於蒲胥之市。秋九月、楚子圍宋。

に見えるが、

二十年、圍宋、以殺楚使也。(楚世家)

十六年、楚使過宋、宋有前仇、執楚使。九月、楚莊王圍宋。(宋世家)

十九 圍宋、爲殺使者。(楚表)

十六 殺楚使者、楚圍我。(宋表)

は、申舟を匿名化している。

24 上 05-5 晉解揚は、『左傳』宣十五およびそれを引用する晉世家・鄭世家・晉表・

鄭表に見える。

24 上 10-4 陳應は、『潜夫論』慎微

楚莊・齊威、始有荒淫之行、削弱之敗、幾於亂亡。中能感悟、勤恤民事、勞積苦思、孜孜不怠。夫出陳應、爵命管蘇、召卽墨、烹阿大夫、故能中興、強霸諸侯、當時尊顯、後世見思、傳爲令名、載在圖籍。

に、24 上 12-4 申公申培は、『呂氏春秋』至忠「荆莊哀王獵於雲夢、射隨兕、中之。申公子培劫王而奪之。…」に、24 上 09-7 少師慶は、『說苑』至公「楚莊王之時、太子車立於茅門之内、少師慶逐之、…」に、24 上 11-7 士蠶は、『國語』楚語上「莊王使士蠶傅太子箴」に、24 下 01-4 優孟は『史記』滑稽列傳に見える。

24 上 06-4 魏顆は『左傳』宣十五

秋七月、秦桓公伐晉、次于輔氏。壬午、晉侯治兵于稷、以略狄土、立黎侯而還。及雒、魏顆敗秦師于輔氏、獲杜回、秦之力人也。

に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

24 上 07-5 荀尹（荀庚*²⁸）は『春秋』成三（588BC）「冬十一月、晉侯使荀庚來聘、且尋盟」に初見するが、『史記』には見えない。

079 王子伯廖 24 上 02-5 王子伯廖は『左傳』宣六（603BC）

鄭公子曼滿與王子伯廖語、欲爲卿。伯廖告人曰、無德而貪、其在周易豐之離、弗過之矣。間一歲、鄭人殺之。

に見えるが、鄭世家はこれを引用しない。

082 陳靈公 23 下 15-5 泄冶・23 下 15-9 夏姬・24 上 01-9 孔寧・24 上 02-9 儀行父は『左傳』宣十およびそれを引用する陳世家に見える。

084 晉先穀 24 上 05-8 晉先穀は、『左傳』宣十三およびそれを引用する晉世家に見える。

085 孔達 24 上 01-5 孔達は、『左傳』宣十四「十四年春、孔達縊而死」に見えるが、衛世家はこれを引用しない。

086 王札子 24 上 03-6 王札子・24 上 05-7 召伯・24 上 08-7 毛伯は、『春秋經』宣十五「王札子殺召伯・毛伯」に見えるが、周本紀はこれを引用しない。

087 魯公孫歸父 24 上 05-6 魯公子歸生（魯公孫歸父*²⁹）は、『左傳』宣十八（591BC）

およびそれを引用する魯世家に見える。

088 楚共王 24 下 01-5 楚鄖公鍾儀は、『左傳』成七「鄭共仲・侯羽軍楚師、囚鄖公鍾儀、獻諸晉」に見えるが、『史記』には見えない。

24 下 05-4 子反・24 下 05-8 穀陽豎は、『左傳』成十六およびそれを引用する晉世家・楚世家に見える。「穀陽豎」を楚世家は「豎陽穀」に作る。

089 鞏の戦 24 下 14-7 衛孫良夫*³⁰は『左傳』成二「衛侯使孫良夫・石稷・甯相・向禽將侵齊」およびそれに基づく衛世家「孫良夫救魯伐齊」に見える。25 上 01-7 中叔于奚は成二「新築人仲叔于奚救孫桓子」に見えるが、衛世家はこれを引用しない。

25 上 01-4 臧宣叔は成二「孫桓子還於新築、不入、遂如晉乞師。臧宣叔亦如晉乞師。皆主郤獻子」に見えるが、魯世家「夏、公與晉郤克敗齊頃公於鞞、齊復歸我侵地」はこれを引用せず、

十年春、齊伐魯・衛。魯・衛大夫如晉請師、皆因郤克。(齊世家)

魯告急衛、衛與魯皆因郤克告急於晉。(晉世家)

では匿名化されている。

24 下 07-5 晉郤克・24 下 13-4 范文子・24 下 09-4 逢丑父は、成二およびそれを引用する齊世家に見える。

24 下 09-5 辟司徒妻は、成二

齊侯見保者、曰、勉之。齊師敗矣。辟女子。女子曰、君免乎。曰、免矣。曰、銳司徒免乎。曰、免矣。曰、苟君與吾父免矣、可若何。乃奔。齊侯以爲有禮。既而問之、辟司徒之妻也。予之石帚。

に見えるが、齊世家はこれを省略する。

24 下 11-4 賓媚人は、成二

齊侯使賓媚人賂以紀甗、玉磬與地。不可、則聽客之所爲。賓媚人致賂、晉人不可、曰、必以蕭同叔子爲質、而使齊之封內盡東其畝。對曰、…

に見えるが、

齊侯請以寶器謝、不聽。必得笑克者蕭桐叔子、令齊東畝。對曰、… (齊世家)

頃公獻寶器以求平、不聽。郤克曰、必得蕭桐姪子爲質。齊使曰、… (晉世家)

では匿名化されている。

27 上 03-2 范武子は、『左傳』宣十七

范武子將老、召文子曰、變乎、吾聞之、喜怒以類者鮮、易者實多。詩曰、君子如怒、亂庶遄沮、君子如祉、亂庶遄已。君子之喜怒、以已亂也。弗已者、必益之。郤子其或者欲已亂於齊乎。不然、余懼其益之也。余將老、使郤子逞其志、庶有彘乎。爾從二三子、唯敬。乃請老。郤獻子爲政。

に見える。晉世家「魏文子請老休、辟郤克、克執政」はこれを踏まえるが、「范武子」を「魏文子」に誤っている。

090 荀罃 24 下 13-5 荀罃・24 下 15-5 鄭賈人は、『左傳』成三「荀罃之在楚也、鄭賈人有將竇諸褚中以出」に見えるが、晉世家には引用されない。

091 伯宗 25 上 02-5 伯宗は、『左傳』成五およびそれを引用する晉世家・晉表に見える。

25 上 03-5 伯宗妻は、成十五

晉三郤害伯宗、譖而殺之、及欒弗忌。伯州犂奔楚。韓獻子曰、郤氏其不免乎。善人、天地之紀也、而驟絕之、不亡何待。初、伯宗每朝、其妻必戒之曰、盜憎主人、民惡其上。子好直言、必及於難。

に見えるが、

五年、三郤讒伯宗、殺之。伯宗以好直諫得此禍、國人以是不附厲公。(晉世家)

五 三郤讒伯宗、殺之、伯宗好直諫。(晉表)

では省略されている。

092 吳壽夢 24 下 14-6 申公巫臣は、『左傳』成七およびそれを引用する吳世家に見える。

093 趙氏誅 25 上 04-4 韓獻子厥・25 上 08-4 程嬰・25 上 12-4 公孫杵臼・25 上 08-6 趙朔・25 上 04-8 屠顔賈は、趙世家の趙氏孤兒の一節に登場する。25 上 09-4 羊舌は晉の大夫の氏であり、関係者と思われるが出典などは不明である。

094 晉景公 25 上 05-5 秦醫緩・25 上 07-5 桑田巫は、『左傳』成十

晉侯夢大厲、被髮及地、搏膺而踊曰、殺余孫、不義。余得請於帝矣。壞大門及寢門而入。公懼、入于室、又壞戶。公覺、召桑田巫。巫言如夢。公曰、何如。曰、不食新矣。公疾病、求醫于秦。秦伯使醫緩爲之。…

に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

095 周晉爭田 25 上 15-4 劉康公・25 下 02-4 單襄公は、『左傳』成十一「晉郤至與周爭鄆田、王命劉康公・單襄公訟諸晉」に見えるが、周本紀・晉世家はこれを引用しない。

096 呂相 25 上 09-5 呂相は、『左傳』成十三およびそれを引用する晉世家に見える。

097 鄭公子班 24 下 13-8 鄭公子班は、『左傳』成十およびそれを引用する鄭世家に見える。

098 曹成公 25 上 02-3 曹劌時は、『左傳』成十三「曹人使公子負芻守、使公子欣時逆曹伯之喪」に見えるが、曹世家はこれを引用しない。

099 王孫閱 25 上 02-6 王孫閱は、『國語』周語中「簡王八年、魯成公來朝、使叔孫僑如先聘且告。見王孫說、與之語」に見える。

100 宋共公卒 25 上 08-8 宋蕩子は、『左傳』成十五

葬宋共公。於是華元爲右師、魚石爲左師、蕩澤爲司馬、…蕩澤弱公室、殺公子肥。華元曰、…乃出奔晉。…魚石自止華元于河上。請討、許之、乃反。使華喜・公孫師帥國人攻蕩氏、殺子山。

の蕩澤である*³¹。宋世家

十三年、共公卒。華元爲右師、魚石爲左師。司馬唐山攻殺太子肥、欲殺華元、華元奔晉、魚石止之、至河乃還、誅唐山。乃立共公少子成、是爲平公。

は蕩澤（字・子山）を「唐山」に作る。

101 鄢陵の戰 25 下 04-4 苗賁皇・26 上 03-4 鄭唐（唐苟*³²）・26 上 05-4 楚工尹襄・25 上 11-5 郟至・25 上 15-5 姚句耳・25 下 03-5 呂錡・25 下 04-5 養由基・25 下 06-5 叔山舟は、『左傳』成十六「苗賁皇在晉侯之」「石首御鄭成公、唐苟爲右」「楚子使工尹襄問之以弓」「范文子不欲戰。郟至曰、…」「鄭人聞有晉師、使告于楚、姚句耳與往」「呂錡夢射月」「王召養由基、與之兩矢、使射呂錡、中項、伏弢」「叔山冉謂養由基曰、…」など鄢陵の戰に關する記述に見えるが、

六年春、鄭倍晉與楚盟、晉怒。欒書曰、不可以當吾世而失諸侯。乃發兵。厲公自將、五月度河。聞楚兵來救、范文子請公欲還。郟至曰、發兵誅逆、見疆辟之、無以令諸侯。遂與戰。癸巳、射中楚共王目、楚兵敗於鄢陵。（晉世家）

共王十六年、晉伐鄭。鄭告急、共王救鄭。與晉兵戰鄢陵、晉敗楚、射中共王目。

(楚世家)

などの節略された記述では、これらの人物が全く見えなくなっている。

25 上 12-7 叔孫僑如・25 上 14-7 公子偃・25 下 06-4 叔嬰齊（子叔聲伯）は、成十六
宣伯使告郤犨曰、…九月、晉人執季文子于莒丘。公還、待于鄆。使子叔聲伯請季
孫于晉、…乃許魯平、赦季孫。冬十月、出叔孫僑如而盟之、僑如奔齊。十二月、
季孫及郤犨盟于扈。歸、刺公子偃、召叔孫豹于齊而立之。

に見えるが、魯世家「十六年、宣伯告晉、欲誅季文子。文子有義、晉人弗許」はこれ
を節略し、公子偃・叔嬰齊を省略している。

102 晉厲公 25 上 10-6 郤犨・25 上 11-6 郤錡・25 上 13-6 中行偃・25 上 15-6 胥童・
25 下 01-6 欒書・25 下 02-6 羊魚（夷陽五*³³）・25 下 01-7 長魚矯は、『左傳』成十七に、
26 上 13-9 程鄭（程滑*³⁴）は、成十八に見えるが、晉世家はこれを節略し、郤犨・羊魚・
長魚矯・程鄭を省略している。

<p>(成十七) 晉厲公侈、多外嬖。反自鄆陵、欲盡去群大夫而立其左右。胥童以胥克之廢也、怨郤氏、而嬖於厲公。郤錡奪夷陽五田、五亦嬖於厲公。郤犨與長魚矯爭田、執而梏之、與其父母妻子同一轅。既、矯亦嬖於厲公。… 郤氏聞之、郤錡欲攻公、曰、… 壬午、胥童・夷羊五帥甲八百、將攻郤氏。長魚矯請無用眾、公使清沸魃助之、抽戈結枉、而僞訟者。三郤將謀於榭、矯以戈殺駒伯・苦成叔於其位。溫季曰、逃威也。遂趨。矯及諸其車、以戈殺之。皆尸諸朝。 胥童以甲劫欒書・中行偃於朝。… 公遊于匠麗氏、欒書・中行偃遂執公焉。 … 閏月乙卯晦、欒書、中行偃殺胥童。… (成十八) 十八年春王正月庚申、晉欒書・中行偃使程滑弑厲公、葬之于翼東門之外、以車一乘。</p>	<p>厲公多外嬖姬、歸、欲盡去群大夫而立諸姬兄弟。寵姬兄曰胥童、嘗與郤至有怨、… 郤錡欲攻公、曰、… 十二月壬午、公令胥童以兵八百人襲攻殺三郤。 胥童因以劫欒書、中行偃於朝、… 閏月乙卯、厲公游匠麗氏、欒書・中行偃以其黨襲捕厲公、囚之、殺胥童、而使人迎公子周于周而立之、是為悼公。 悼公元年正月庚申、欒書・中行偃弑厲公、葬之以一乘車。厲公囚六日死、死十日庚午、</p>
--	--

103 宋の内亂 25 下 08-4 宋華元・25 下 08-7 羊斟は、『左傳』宣二およびそれを引用する宋世家に見える。

25 下 05-6 向子*³⁵（向爲人*³⁶）・25 下 08-8 宋魚石・26 上 15-9 西鉏吾は、成十八
楚子辛、鄭皇辰侵城郟、取幽丘、同伐彭城、納宋魚石・向爲人・鱗朱・向帶・魚
府焉、以三百乘戍之而還。…宋人患之。西鉏吾曰、…

に見えるが、宋世家「平公三年、楚共王拔宋之彭城、以封宋左師魚石」はこれを節略し、

向子・西鉏吾を省略している。

104 齊の内亂 25 下 08-5 匡句須・25 下 12-5 鮑國・25 下 03-6 鮑嚴子牽・25 下 11-8 慶克・25 下 12-8 國佐は『左傳』成十八

齊慶克通于聲孟子、與婦人蒙衣乘輦而入于閔。鮑牽見之、以告國武子、…秋七月壬寅、別鮑牽而逐高無咎。無咎奔莒、高弱以盧叛。齊人來召鮑國而立之。初、鮑國去鮑氏而來爲施孝叔臣。施氏卜宰、匡句須吉。…

に見えるが、齊世家はこれを引用しない。

105 孟獻子 25 下 10-4 孟獻子・25 下 12-4 樂正求・25 下 14-4 牧中は、『孟子』萬章下「孟獻子、百乘之家也、有友五人焉。樂正裘・牧仲、其三人、則予忘之矣」に見える。孟獻子は『史記』に見えない。

106 晉悼公 26 上 11-4 張老・26 上 12-4 籍偃・26 上 01-5 韓亡忌は『左傳』成十八

使魏相・士魴・魏頡・趙武爲卿。荀家・荀會・欒黶・韓無忌爲公族大夫、使訓卿之子弟共儉孝弟。使士渥濁爲大傅、使修范武子之法。右行辛爲司空、使修士蔦之法。弁糾御戎、校正屬焉、使訓諸御知義。荀賓爲右、司士屬焉、使訓勇力之士時使。卿無共御、立軍尉以攝之。祁奚爲中軍尉、羊舌職佐之。魏絳爲司馬、張老爲候奄。鐸過寇爲上軍尉、籍偃爲之司馬、使訓卒乘、親以聽命。程鄭爲乘馬御、六驥屬焉、使訓群驥知禮。

に見えるが、晉世家「於是逐不臣者七人、修舊功、施德惠、收文公入時功臣後」はこれを節略する。

26 上 07-4 祁奚・26 上 08-4 羊舌職・25 下 13-5 晉解狐・25 下 15-5 祁午・26 上 03-5 銅鞮伯華（羊舌赤）は、襄三

祁奚請老、晉侯問嗣焉。稱解狐、其讎也、將立之而卒。又問焉、對曰、午也可。於是羊舌職死矣、晉侯曰、孰可以代之。對曰、赤也可。於是使祁午爲中軍尉、羊舌赤佐之。君子謂、祁奚於是能舉善矣、稱其讎不爲諂、立其子不爲比、舉其偏不爲黨。商書曰、無偏無黨、王道蕩蕩。其祁奚之謂矣。解狐得舉、祁午得位、伯華得官、建一官而三物成、能舉善也夫。唯善、故能舉其類。詩云、惟其有之、是以似之。祁奚有焉。

に見えるが、晉世家

悼公問群臣可用者、祁侯舉解狐。解狐、侯之仇。復問、舉其子祁午。君子曰、祁侯可謂不黨矣。外舉不隱仇、內舉不隱子。

はこれを節略し、羊舌職・銅鞮伯華を省略する。

26 上 10-4 魏絳・26 上 01-6 楊干は、『左傳』襄三およびそれを引用する晉世家・魏世家に見える。

26 上 13-4 汝齊は『左傳』襄二十六（547BC）「晉人執寧喜・北宮遺、使女齊以先歸」に初見するが、『史記』には見えない。

107 楚の頽勢 26 上 05-8 楚公子申は『左傳』襄二「楚公子申爲右司馬」に、25 下 14-6 鄭廖（鄧廖*³⁷）は襄三「吳人要而擊之、獲鄧廖」に、26 上 08-8 公子壬夫は襄五「楚人討陳叛故、曰、由令尹子辛實侵欲焉。乃殺之」に見えるが、楚世家はいずれも引用しない。

108 季文子 27 上 02-3 季文子は、『左傳』襄五およびそれを引用する魯世家・魯表に見える。

26 上 02-6 子服佗は、『國語』魯語上「季文子相宣・成、無衣帛之妾、無食粟之馬。仲孫它諫曰、…」に、26 上 08-5 魯匠慶は、『左傳』襄四「匠慶謂季文子曰、…」に見えるが、魯世家はいずれも引用しない。

109 子駟 26 上 14-8 子駟は『左傳』襄七「及鄆、子駟使賊夜弑僖公、而以瘡疾赴于諸侯」に見え、鄭表「五 子駟使賊夜殺釐公、詐以病卒赴諸侯」はこれを引用するが、鄭世家「子駟怒、使廚人藥殺釐公、赴諸侯曰、釐公暴病卒」は独自の記述を示す。

26 下 05-8 鄭尉止は襄十

初、子駟與尉止有爭、將禦諸侯之師、而黜其車。尉止獲、又與之爭。子駟抑尉止曰、爾車非禮也。遂弗使獻。初、子駟爲田洫、司氏・堵氏・侯氏・子師氏皆喪田焉。故五族聚群不逞之人、因公子之徒以作亂。於是子駟當國、子國爲司馬、子耳爲司空、子孔爲司徒。冬十月戊辰、尉止・司臣・侯晉・堵女父・子師僕帥賊以入、晨攻執政于西宮之朝、殺子駟・子國・子耳、劫鄭伯以如北宮。子孔知之、故不死。

に見えるが、鄭世家「三年、相子駟欲自立爲君、公子子孔使尉止殺相子駟而代之」はやはり独自の記述を示す。

111 偃陽攻略 26 上 04-6 叔梁紇・26 上 08-6 秦堇父・26 上 10-6 狄斯彌・26 下 03-4

向戌・26下13-7 福陽子は『左傳』襄十

晉荀偃・士匄請伐偃陽、而封宋向戌焉。…孟氏之臣秦董父輦重如役。偃陽人啟門、諸侯之士門焉。縣門發、郟人紇抉之、以出門者。狄麴彌建大車之輪、而蒙之以甲、以爲櫓、左執之、右拔戟、以成一隊。…五月庚寅、荀偃・士匄帥卒攻偃陽、親受矢石、甲午、滅之。…晉侯有閒、以偃陽子歸、獻于武宮、謂之夷俘。

に見えるが、『史記』はこれを引用しない。なお叔梁紇は孔子世家に見える。

26上15-4 宋子罕は襄六「夏、宋華弱來奔。司城子罕曰、…」に初見するが、『史記』には見えない。

113 士鞅 26上12-6 士鞅は、『左傳』襄十四

欒鍼曰、此役也、報欒之敗也、役又無功、晉之恥也、吾有二位於戎路、敢不恥乎、與士鞅馳秦師死焉、

に初見する。對秦戰の記述の一部だが、

十八年、晉悼公彊、數會諸侯、率以伐秦、敗秦軍。秦軍走、晉兵追之、遂渡涇、至棫林而還。(秦本紀)

十四年、晉使六卿率諸侯伐秦、度涇、大敗秦軍、至棫林而去。(晉世家)

十四 率諸侯大夫伐秦、敗棫林。(晉表)

十八 晉諸侯大夫伐我、敗棫林。(秦表)

は、この部分を省略する。

114 衛獻公出奔 26下10-7 孫文子・26下01-8 孫蒯は『左傳』襄十四「孫文子如戚、孫蒯入使。公飲之酒」に見えるが、衛世家「如宿。孫文子子數侍公飲」は孫蒯を「孫文子子」に作る。

26下07-5 衛大叔儀・26下09-5 公子鱄・26上14-6 尹公佗・26下01-6 庚公差・26下03-6 公孫丁は、襄十四「有大叔儀以守、有母弟鱄以出」「初、尹公佗學射於庚公差、庚公差學射於公孫丁」の衛獻公出奔に関する記述に見えるが、衛世家はこれらを省略する。

26下09-8 衛甯喜は襄二十「衛甯惠子疾、召悼子曰、…」に初見するが、衛世家はこれを引用しない。

26上10-5 衛柳壯は、『禮記』檀弓下「衛獻公出奔、反於衛、及郊、將班邑於從者而後入、柳莊曰、…」「衛有大史曰、柳莊寢疾、…」に見える。

115 范宣子 26 下 04-4 范宣子・26 下 08-6 姜戎駒支は、『左傳』襄十四

十四年春、吳告敗于晉。會于向、爲吳謀楚故也。范宣子數吳之不德也、以退吳人。
執莒公子務婁、以其通楚使也。將執戎子駒支、…

に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

26 下 05-6 無終子嘉父は、『左傳』襄四（569BC）「無終子嘉父使孟樂如晉、因魏莊子
納虎豹之皮、以請和諸戎」に見えるが、

悼公弟楊干亂行、魏絳戮其僕。悼公怒、或諫公、公卒賢絳、任之政、使和戎、
戎大親附。（晉世家）

四 魏絳説和戎、狄・狄朝晉。（晉表）

はこれを節略し、無終子嘉父を省略している。

116 齊晏桓子・楚子囊・鄭師慧 26 下 03-5 楚子囊は『左傳』襄十四「楚子囊還自伐吳、
卒」に、26 下 05-5 鄭師慧は襄十五「師慧過宋朝、將私焉」に、26 下 01-5 晏桓子は『左
傳』襄十七「齊晏桓子卒」に見えるが、『史記』はいずれも引用しない。

117 魯臧堅・宋華臣 27 上 04-7 魯臧堅は『左傳』襄十七「齊人獲臧堅」に見える。
魯の對齊戰に關する記述の一部だが、魯表「十七 齊伐我北鄙」・齊表「二十六 伐魯」
はこの部分を省略する。

27 上 06-7 宋華臣は襄十七「宋華閱卒、華臣弱舉比之室、…」に見えるが、宋世家は
これを引用しない。

118 欒盈出奔 27 上 10-2 晉叔向・27 上 12-2 向母・27 上 07-3 樂王鮒は、『左傳』襄
二十一「晉侯問叔向之罪於樂王鮒」「初、叔向之母妬叔虎之母美而不使」の欒盈出奔に
關する記述に見えるが、晉世家「六年、魯襄公朝晉。晉欒逞有罪、奔齊」は、これら
を省略する。

27 上 08-7 晉叔魚は『左傳』昭十三「七月丙寅、治兵于邾南、甲車四千乘。羊舌鮒攝
司馬、遂合諸侯于平丘」に初見するが、『史記』には見えない。

26 下 07-4 晉邢蒯は、襄二十一「知起・中行喜・州綽・邢蒯出奔齊」に見え、26 下
09-4 齊殖綽は、襄二十一「齊莊公朝、指殖綽・郭最曰、…」に見えるが、『史記』には
見えない。

27 上 04-6 魯國歸父（齊析歸父*³⁸）は、襄二十三「晉將嫁女于吳、齊侯使析歸父媵之、

以藩載欒盈及其士、納諸曲沃」に見えるが、

四年、齊莊公使欒盈聞入晉曲沃爲內應、以兵隨之、(齊世家)

八年、齊莊公微遣欒逞於曲沃、以兵隨之。(晉世家)

四 欲遣欒逞入曲沃伐晉、取朝歌。(齊表)

では省略されている。

26 下 15-4 齊杞梁・27 上 02-4 殖妻・27 上 03-4 華州は、襄二十三

齊侯還自晉、不入、遂襲莒、門于且于、傷股而退。明日將復戰、期于壽舒。杞殖・華還載甲夜入且于之隧、宿於莒郊。明日、先遇莒子於蒲侯氏、莒子重賂之、使無死、曰、請有盟。華周對曰、貪貨棄命、亦君所惡也。昏而受命、日未中而棄之、何以事君。莒子親鼓之、從而伐之、獲杞梁。莒人行成。齊侯歸、遇杞梁之妻於郊、使弔之。

に見えるが、齊世家はこれを引用しない。

27 上 02-5 晉陽罕 (晉陽畢*³⁹) は、『國語』晉語八「平公六年、箕遺及黃淵・嘉父作亂、不克而死。公遂逐群賊、謂陽畢曰、…」に見える。

119 邾庶其 26 下 03-8 朱庶其 (邾庶其*⁴⁰) は、『左傳』襄二十一「邾庶其以漆闔丘來奔」に見えるが、魯世家はこれを引用しない。

120 楚令尹子南 27 上 10-3 楚申叔豫・26 下 13-6 觀起・27 上 02-7 楚屈建・26 下 10-6 楚令尹子南は『左傳』襄二十二

楚觀起有寵於令尹子南、…復使薳子馮爲令尹、公子齷爲司馬、屈建爲莫敖。有寵於薳子者八人、皆無祿而多馬。他日朝、與申叔豫言、弗應而退。…

に見えるが、楚世家はこれを引用しない。

121 鄭游販 26 下 11-4 鄭游販は、『左傳』襄二十二「十二月、鄭游販將歸晉、…」に見えるが、鄭世家はこれを引用しない。

122 齊嚴公 27 上 10-7 齊崔杼・27 上 12-7 慶封は『左傳』襄二十五およびそれを引用する齊世家に見える。

27 下 03-3 陳文子・27 上 05-4 祝佗父・27 上 09-4 申蒯・27 下 01-5 饒蔑は、『左傳』襄二十五

武子筮之、遇困☱之大過☱。史皆曰、吉。示陳文子、文子曰、…祝佗父祭於高唐、

至、復命、不說弁而死於崔氏。申蒯、侍漁者、退謂其宰曰、爾以帑免、我將死。
其宰曰、免、是反子之義也。與之皆死。崔氏殺穢蔑于平陰。

の齊莊公弑殺に關する記述に見えるが、齊世家はこれらを省略する。

27 上 13-3 齊大史三人・27 下 01-3 南史氏は、襄二十五

大史書曰、崔杼弑其君。崔子殺之。其弟嗣書、而死者二人。其弟又書、乃舍之。
南史氏聞大史盡死、執簡以往。聞既書矣、乃還。

に見えるが、齊世家

齊太史書曰、崔杼弑莊公、崔杼殺之。其弟復書、崔杼復殺之。少弟復書、崔杼乃
舍之。

は「南史氏」以下を省略する。

27 上 13-7 慶嗣は、襄二十八

冬十月、慶封田于萊、陳無宇從。丙辰、文子使召之、請曰、無宇之母疾病、請歸。
慶季卜之、示之兆曰、死。奉龜而泣、乃使歸。慶嗣聞之、曰、禍將作矣。…

の慶封出奔に關する記述に見えるが、齊世家はこれを省略する。

27 上 10-4 陳不占は

韓詩外傳云、不占、陳不占也。齊人。崔杼弑莊公、陳不占聞君有難、將往赴之、
食則失哺、上車失軾。其僕曰、敵在數百里外、而懼怖如是、雖往其益乎。占曰、
死君之難、義也。無勇、私也。乃驅車而奔之、至公門之外、聞鼓戰之聲、遂駭而死。
君子謂不占無勇而能行義、可謂志士矣。（『文選』卷十八 / 馬季長長笛賦注）

齊崔杼弑莊公也、有陳不占者、聞君難、將赴之、比去、餐則失匕、上車失軾。
御者曰、怯如是、去有益乎。不占曰、死君、義也。無勇、私也。不以私害公。遂往、
聞戰鬪之聲、恐駭而死。人曰、不占可謂仁者之勇也。（『新序』義勇）

に見える。

123 鄭公孫夏 27 上 06-6 鄭公孫夏は、『春秋經』では襄二十五「冬、鄭公孫夏帥師
伐陳」が終見である。鄭世家には見えない。

124 楚康王 27 上 13-5 蘧奄は『左傳』襄二十五「楚蒍掩爲司馬」に初見するが、楚
世家に見えない。

27 上 07-8 巢牛臣は、襄二十五

十二月、吳子諸樊伐楚、以報舟師之役、門于巢。巢牛臣曰、吳王勇而輕、若啟之、將親門。我獲射之、必殪。是君也死、疆其少安。從之。吳子門焉、牛臣隱於短牆以射之、卒。

に見えるが、

十二 吳伐我、以報舟師之役、射殺吳王。(楚表)

十三 諸樊伐楚、迫巢門、傷射以薨。(吳表)

は、巢牛臣を省略する。

27 上 10-5 楚湫舉は襄二十六「椒舉娶於申公子牟」に見えるが、楚世家はこれを引用しない。

125 晉平公 27 上 14-5 趙武は、『左傳』襄二十五およびそれを引用する趙世家に見える。

28 上 04-5 劉定公は昭元「天王使劉定公勞趙孟於潁」に、27 下 06-6 秦醫和は、昭元「晉侯求醫於秦、秦伯使醫和視之」に見えるが、晉世家はいずれも引用しない。

27 下 04-6 晉亥唐は、『孟子』萬章下「晉平公之於亥唐也、…」に見える。

27 下 08-6 晉船人固來(晉船人固桑*41)は『新序』雜事一

晉平公畜西河、中流而歎曰、嗟乎。安得賢士與共此樂乎。船人固桑進對曰、…
に見える。

27 下 14-6 舟人清涓は、『太平御覽』卷六百二十四/治道部五/治世三

尸子曰、范獻子泛於河、大夫皆在。君曰、孰知欒氏之子。大夫莫答。舟人清涓舍楫答曰、君奚問欒氏之子。若修晉國之政、內得大夫、外不失百姓、雖欒氏之子、其若君何。若不修晉國之政、內不得大夫、而外失百姓、則舟中之人、皆欒氏子也。
君曰、善。

に見える。

126 晉秦講和 27 上 06-5 行人子員・27 上 09-5 子朱は、『左傳』襄二十六「春、秦伯之弟鍼如晉脩成、叔向命召行人子員。行人子朱曰、…」に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

127 宋伊戾 27 上 10-8 宋伊戾は、『左傳』襄二十六「大子痤美而很、合左師畏而惡之。寺人惠牆伊戾爲大子內師而無寵」に見えるが、宋世家はこれを引用しない。。

128 衛獻公歸國 27 上 13-4 衛右宰穀臣・27 下 01-4 厚成子は、『呂氏春秋』觀表「邠成子爲魯聘於晉、過衛、右宰穀臣止而觴之、…」に見えるが、衛世家には見えない。

129 季札 27 上 15-2 蘧伯玉・27 下 02-4 衛公子荊・27 下 04-2 鄭子産・27 下 04-7 齊陳桓子・27 下 06-2 晏平仲・27 下 02-2 吳季札は、『左傳』襄二十九およびそれを引用する吳世家に見える。

130 鄭子皮 27 下 04-5 鄭子皮は『左傳』襄二十九「鄭子展卒、子皮即位」に初見するが、鄭世家には見えない。

132 太子晉 27 下 09-2 太子晉は、『國語』周語下「靈王二十二年、穀・洛鬪、將毀王宮。王欲壅之、太子晉諫曰、…」に見える。

133 絳老人 27 下 04-4 絳老人・27 下 06-4 史趙・27 下 07-4 士文伯は、『左傳』襄三十

二月癸未、晉悼夫人食輿人之城杞者、絳縣人或年長矣、無子而往、與於食。有與疑年、使之年。曰、…師曠曰、…史趙曰、…士文伯曰、…

に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

135 鄭の大夫・衛北宮文子 27 下 09-4 鄭卑湛・27 下 13-4 行人子羽・27 下 15-4 馮簡子・28 上 02-4 子大叔・28 上 04-4 衛北宮文子は、『左傳』襄三十一

十二月、北宮文子相衛襄公以如楚、宋之盟故也。過鄭、…鄭國將有諸侯之事、子産乃問四國之爲於子羽、且使多爲辭令、與裨諶乘以適野、使謀可否、而告馮簡子使斷之、事成、乃授子大叔使行之、以應對賓客、是以鮮有敗事。北宮文子所謂有禮也。

に見えるが、鄭世家・衛世家ともにこれを引用しない。

136 鄭の内亂 28 上 07-5 公孫楚・28 上 09-5 公孫黑は、『左傳』昭元「鄭徐吾犯之妹美、公孫楚聘之矣、公孫黑又使強委禽焉。犯懼、告子産」に見えるが、鄭世家はこれを引用しない。

28 上 09-4 狐丘子林は、『呂氏春秋』下賢「子産相鄭、往見壺丘子林、與其弟子坐必以年、是倚其相於門也」に見える。

137 韓宣子 28 上 11-5 韓宣子厥につき、『人表考』卷五は、「韓宣子（厥子）」の原注が破損混入したものとする。韓宣子（韓起）の執政は、『左傳』昭二「二年春、晉侯

使韓宣子來聘、且告爲政」に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

138 北燕伯款 27 下 14-7 北燕伯款は、『春秋經』昭三「北燕伯款出奔齊」に見える。

139 叔孫豹 28 上 07-4 魯叔孫豹・28 上 09-9 魯豎牛・28 上 13-5 魯叔孫昭子は、『左傳』昭四「十二月癸丑、叔孫不食。乙卯、卒。牛立昭子而相之」に見えるが、魯世家はこれを引用しない。

140 宋寺人柳 28 上 07-9 宋寺人柳は『左傳』昭六「宋寺人柳有寵、大子佐惡之」に見えるが、宋世家はこれを引用しない。

141 晉趙景子 28 上 12-4 晉趙文子（晉趙景子*⁴²）は、『左傳』昭七「及子產適晉、趙景子問焉、曰、…」に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

142 魯謝息 28 上 03-6 魯謝息は、『左傳』昭七「晉人來治杞田、季孫將以成與之、謝息爲孟孫守、不可、曰、…」に見えるが、魯世家はこれを引用しない。

143 衛史鼂・師曠 28 下 06-5 衛史鼂は『左傳』昭七

衛襄公夫人姜氏無子、嬖人嬀始生孟縶。孔成子夢康叔謂己、立元、余使羈之孫圉與史苟相之。史朝亦夢康叔謂己、余將命而子苟與孔烝鉏之曾孫圉相元。史朝見成子、告之夢、夢協。晉韓宣子爲政聘于諸侯之歲、嬀始生子、名之曰元。孟縶之足不良能行。孔成子以周易筮之、曰、元尚享衛國、主其社稷。遇屯☵。又曰、余尚立縶、尚克嘉之。遇屯☵之比☱。以示史朝。史朝曰、元亨、又何疑焉。成子曰、非長之謂乎。對曰、康叔名之、可謂長矣。孟非人也、將不列於宗、不可謂長。且其繇曰、利建侯。嗣吉、何建。建非嗣也。二卦皆云、子其建之。康叔命之、二卦告之、筮襲於夢、武王所用也、弗從何爲。弱足者居。侯主社稷、臨祭祀、奉民人、事鬼神、從會朝、又焉得居。各以所利、不亦可乎。故孔成子立靈公。

に見える。衛世家

初、襄公有賤妾、幸之、有身、夢有人謂曰、我康叔也、令若子必有衛、名而子曰元。妾怪之、問孔成子。成子曰、康叔者、衛祖也。及生子、男也、以告襄公。襄公曰、天所置也。名之曰元。襄公夫人無子、於是乃立元爲嗣、是爲靈公。

はこれを踏まえた記述だが、史朝は省略されている。

28 下 09-5 師曠は昭八「八年春、石言于晉魏榆。晉侯問於師曠曰、…」に終見するが、晉世家はこれを引用しない。

144 仲尼 27 下 09-1 仲尼・28 上 14-4 孟釐子・28 下 02-4 孟懿子・28 下 04-4 南宮敬叔は『左傳』昭七およびそれを引用する孔子世家に見える。

27 下 12-2 左丘明は十二諸侯年表に見える。

27 下 14-2 顔淵 [01]・28 上 02-2 閔子騫 [02]・28 上 05-2 冉伯牛 [03]・28 上 08-2 仲弓 [04]・27 下 11-3 宰我 [07]・27 下 13-3 子貢 [08]・27 下 14-3 冉有 [05]・28 上 02-3 季路 [06]・28 上 04-3 子游 [09]・28 上 06-3 子夏 [10]・28 上 08-3 曾子 [12]・28 上 10-3 子張 [11]・28 上 12-3 曾皙 [19]・28 上 14-3 子賤 [14]・28 下 01-3 南容 [17]・28 下 04-3 公冶長 [16]・28 下 06-3 公西華 [28]・28 下 08-3 有若 [27]・28 下 09-3 漆彫啟 [23]・28 下 11-3 澹臺滅明 [13]・28 下 15-3 樊遲 [26]・29 上 01-3 巫馬期 [29]・29 上 03-3 司馬牛 [25]・29 上 05-3 子羔 [22]・29 上 06-3 原憲 [15]・29 上 07-3 顔路 [20]・29 上 08-3 商瞿 [21]・29 上 10-3 季次 [18]・29 上 11-3 公良(公良孺*⁴³) [46]・29 上 14-3 顔刻 [20] は仲尼弟子列傳に見えるが、序列 ([]: 傳の序列) が異なる。『孔子家語』七十二弟子解の如き独自の材料に據ったものかもしれない。

27 下 05-3 卞嚴子・27 下 08-3 臧文中は『論語』憲問

子路問成人。子曰、若臧武仲之知、公綽之不欲、卞莊子之勇、冉求之藝、文之以禮樂、亦可以爲成人矣。

に見える。

28 下 07-4 鄭子は、『左傳』昭十七「仲尼聞之、見於鄭子而學之」に見えるが、『史記』はこれを引用しない。

28 下 09-4 老子は孔子世家・老子韓非列傳に見える。

28 下 13-4 南榮疇は、『莊子』庚桑楚「南榮趨贏糧、七日七夜至老子之所」に見える。

29 上 05-4 公伯寮 [24]・29 上 07-4 公肩子 [51]・29 上 10-4 子石 [35]・29 上 13-4 隰成子(縣成*⁴⁴) [60] は仲尼弟子列傳に見える。

29 上 14-4 琴牢は、『左傳』昭二十「琴張聞宗魯死、將往弔之。仲尼曰、…」に見えるが、『史記』には見えない。

28 下 08-6 子鉏商は『左傳』哀十四およびそれを引用する孔子世家に見える。

28 下 10-6 周史大弢は、『莊子』則陽「仲尼問於大史大弢、伯常騫、狝韋曰、「夫衛靈公飲酒湛樂」・『漢書』藝文志/儒家「周史六弢六篇。惠・襄之間、或曰顯王時、或曰

孔子問焉」に見える。

28 下 13-6 蜎子・29 上 02-6 孝成子（老成子*⁴⁵）は、『漢書』藝文志 / 道家「蜎子十三篇。名淵、楚人、老子弟子」「老成子十八篇」に見える。

145 陳の滅亡 27 下 15-8 陳公子招は『左傳』昭八およびそれを引用する陳世家に見える。

146 周儋桓伯 28 上 03-8 周儋桓伯は、『左傳』昭九（533BC）「周甘人與晉閻嘉爭閻田。晉梁丙・張趯率陰戎伐潁。王使儋桓伯辭於晉、曰、…」に見えるが、『史記』はこれを引用しない。

148 魯南蒍 28 上 04-8 魯南蒍は、『左傳』昭十二（530BC）「季平子立而不禮於南蒍」に初見するが、魯世家には見えない。

149 楚靈王 28 下 01-5 楚薳罷・28 上 11-6 薳啟疆は『左傳』昭元「楚靈王即位、薳罷爲令尹、薳啟疆爲大宰」に見えるが、楚世家はこれを引用しない。

28 下 03-5 吳蹇由は、昭五

冬十月、楚子以諸侯及東夷伐吳、以報棘・櫟・麻之役。薳射以繁揚之師會於夏汭。越大夫常壽過帥師會楚子于瑣。聞吳師出、薳啟疆帥師從之、遽不設備、吳人敗諸鵠岸。楚子以駟至於羅汭。吳子使其弟蹇由犒師、楚人執之、將以繫鼓。王使問焉、曰、…乃弗殺。楚師濟於羅汭、沈尹赤會楚子、次於萊山。薳射帥繁揚之師先入南懷、楚師從之、及汝清。吳不可入。楚子遂觀兵於坻箕之山。是行也、吳早設備、楚無功而還、以蹇由歸。楚子懼吳、使沈尹射待命于巢、薳啟疆待命于雩婁、禮也。

に見えるが、吳世家「十一年、楚伐吳、至雩婁」・楚表「四 率諸侯伐吳」・吳表「十一 楚率諸侯伐我」はこれを節略し、蹇由を省略している。

28 下 02-6 申亡字は襄三十「楚公子圍殺大司馬蔣掩、而取其室。申無字曰、…」に初見し、昭七に

楚子之爲令尹也、爲王旌以田。芋尹無字斷之、曰、一國兩君、其誰堪之。及即位、爲章華之宮、納亡人以實之。無字之闖入焉。無字執之、有司弗與、曰、執人於王宮、其罪大矣。執而謁諸王。…

とあるが、楚表は「六 執芋尹亡人入章華」とあるのみで、「申無字」の稱謂は見えない。

28 上 15-6 左史倚相は、昭十二「左史倚相趨過、王曰、是良史也、…」に見える。楚

靈王乾谿の記述の一部だが、楚世家はこの部分を省略する。

28 下 04-6 申亥・28 下 01-9 楚公子比・28 下 04-9 觀従は、『左傳』昭十三およびそれを引用する楚世家に見える。

28 上 13-6 申子亶は、『國語』楚語上「左史倚相廷見申公子亶、…」に見える。

152 晉邢侯 28 上 12-9 晉邢侯・28 上 14-9 雍子は、『左傳』昭十四「晉邢侯與雍子爭鄙田」に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

154 鄭孔張 28 上 06-7 鄭孔張は、『左傳』昭十六「二月、晉韓起聘于鄭、鄭伯享之。子産戒曰、苟有位於朝、無有不共恪。孔張後至」に見える。韓起聘鄭に關わる記述の一部だが、鄭世家は「子産謂韓宣子曰、爲政必以德、毋忘所以立」のみを引用する。

155 荀吳 28 下 14-5 子服惠伯は、『左傳』昭十三「季孫猶在晉、子服惠伯私於中行穆子、曰、…」に見えるが、魯世家・晉世家はこれを引用しない。

28 下 12-5 屠蒯・29 上 01-5 荀吳は、『左傳』昭十七

晉侯使屠蒯如周、請有事於雒與三塗。…九月丁卯、晉荀吳帥師涉自棘津、使祭史先用牲于雒。陸渾人弗知、師從之。庚午、遂滅陸渾。

に見えるが、晉世家はこれを引用しない。

156 周原伯魯 28 上 08-7 周原伯魯は、『左傳』昭十八「秋、葬曹平公、往者見周原伯魯焉、與之語、不說學」に見えるが、周本紀はこれを引用しない。

158 宋衛陳鄭災 29 上 09-5 申須は、『左傳』昭十七「冬、有星孛于大辰、西及漢。申須曰、…」に見えるが、魯表「十七 正月朔、日蝕。彗星見辰」は「申須曰」以下を省略する。

29 上 03-5 裨竈・29 上 05-5 里析・29 上 07-5 梓愼は、昭十八

夏五月、火始昏見。丙子、風。梓愼曰、…戊寅、風甚。壬午、大甚。宋・衛・陳・鄭皆火。梓愼登大庭氏之庫以望之、曰、…數日皆來告火。裨竈曰、…子産曰、…遂不與、亦不復火。鄭之未災也、里析告子産曰、…

に見えるが、陳世家「十年、陳火」・衛世家「十一年、火」・宋世家「八年、宋火」・鄭世家「六年、鄭火、公欲禳之。子産曰、不如修德」・宋表「八 火」・衛表「十一 火」・陳表「十 火」・鄭表「六 火」はこれらを省略する。

159 許男 29 上 08-7 許男は、『春秋經』昭十九「夏五月戊辰、許世子止弑其君買。

…冬、葬許悼公」の許悼公であろうが、『史記』はこれを引用しない。

162 齊景公 29 下 02-5 司馬穰苴は『晏子春秋』雜上「公曰、移于司馬穰苴之家、…」に見え、『史記』は司馬穰苴列傳を立てている。

29 上 06-6 越石父は『晏子春秋』雜上

晏子之晉、至中牟、睹敝冠反裘負芻、息于塗側者、以爲君子也、使人問焉、曰、子何爲者也。對曰、我越石父者也、…

などに見え、類話が管晏列傳に見える。

29 上 11-5 林既は『說苑』善說「林既衣韋衣而朝齊景公、…」などに、29 上 13-5 北郭騷は『晏子春秋』雜上「齊有北郭騷者、…」などに、29 上 15-5 逢於何は『晏子春秋』諫下「景公成路寢之臺、逢于何遭喪、…」に、29 上 08-6 栢常騫は、『晏子春秋』諫上「無幾何、日暮、公西面望睹彗星、召栢常騫、使禳去之」などに、29 上 10-6 燕子于は『晏子春秋』雜上「燕之遊士、有浪子午者」に、29 上 04-6 齊虞人は、『左傳』昭二十「十二月、齊侯田于沛、招虞人以弓、不進」に、29 上 06-7 裔款・28 下 13-8 梁丘據は、同じく昭二十「齊侯疥、遂疢、期而不瘳。諸侯之賓問疾者多在。梁丘據與裔款言於公曰、…」に見えるが、『史記』はいずれも引用しない。

163 太子建 29 下 07-5 楚伍奢・29 下 09-5 伍尚・29 下 07-8 楚太子建は『左傳』昭二十およびそれを引用する楚世家・伍子胥列傳に見える。

164 王子朝の亂 28 下 06-6 晉籍談・28 下 02-8 樊頃子・28 下 04-8 司徒醜・28 下 06-8 子鼂・28 下 07-8 賁猛は、『左傳』昭二十二

王子朝・賓起有寵於景王、王與賓孟說之、欲立之。…王有心疾、乙丑、崩于榮錡氏。…丁巳、葬景王。王子朝因舊官・百工之喪職秩者、與靈・景之族以作亂。…壬戌、劉子奔揚、單子逆悼王于莊宮以歸。王子還夜取王以如莊宮。癸亥、單子出。王子還與召莊公謀、曰、不殺單旗、不捷。與之重盟、必來。背盟而克者多矣。從之。樊頃子曰、非言也、必不克。遂奉王以追單子、及領、大盟而復。…八月辛酉、司徒醜以王師敗績于前城。百工叛。…冬十月丁巳、晉籍談・荀躒帥九州之戎及焦・瑕・溫・原之師、以納王于王城。庚申、單子・劉盆以王師敗績于郊、前城人敗陸渾于社。十一月乙酉、王子猛卒。不成喪也。己丑、敬王即位、館于子旅氏。

に見えるが、周本紀

十年、景王愛子朝、欲立之、會崩、子丐之黨與爭立、國人立長子猛爲王、子朝攻殺猛。猛爲悼王。晉人攻子朝而立丐、是爲敬王。

はこれを節略し、籍談・樊頃子・司徒醜・賁猛を省略する。

29上 03-8 南宮極は、昭二十三「八月丁酉、南宮極震」に見えるが、周本紀はこれを引用しない。

165 雞父の戦 29上 07-8 胡子髡・29上 09-8 沈子逞・29上 11-8 陳夏齧は、『春秋經』昭二十三「戊辰、吳敗頓・胡・沈・蔡・陳・許之師於雞父。胡子髡・沈子逞滅、獲陳夏齧」に見える。29上 05-8 頓子は、『春秋經』僖二十五「納頓子于頓」などの「頓子」に據るものである。ところが、吳世家「八年、吳使公子光伐楚、敗楚師」・楚世家「吳使公子光伐楚」・楚表「十 吳伐敗我」・陳表「十五 吳敗我兵、取胡・沈」・吳表「八公子光敗楚」はこれらの人物を省略している。

167 魯昭公亡命 29下 12-5 魯師已・30上 01-5 子家羈・29上 13-8 魯季平子・29下 12-8 臧昭伯・29下 14-8 厚昭伯は、『左傳』昭二十五およびそれを引用する魯世家に見える。29下 03-8 季公烏・29下 05-8 公叔務人（公爲）・29下 08-8 寺人僚祖は、昭二十五

初、季公烏娶妻於齊鮑文子、…公若獻弓於公爲、且與之出射於外、而謀去季氏。

公爲告公果・公賁。公果・公賁使侍人僚祖告公。公寢、將以戈擊之、乃走。

の同じく昭公亡命に關する記述に見えるが、魯世家はこの部分を省略する。

168 宋樂大心 29上 15-8 宋樂大心は、『春秋經』昭二十五（517BC）

夏、叔詣會晉趙鞅・宋樂大心・衛北宮喜・鄭游吉・曹人・邾人・滕人・薛人・小邾人于黃父。

に見えるが、『史記』はこれを引用しない。

169 楚平王 30上 07-8 楚郟宛・29上 13-9 費亡極は、『左傳』昭二十七およびそれを引用する楚世家に見える。

171 吳王僚 29下 15-7 專諸は、『左傳』昭二十七およびそれを引用する吳世家・刺客列傳に見える。『左傳』は「專諸」を「鱒設諸」に作る。

172 魏獻子 29上 13-6 魏獻子・29下 01-6 司馬彌牟・29下 04-6 司馬篤・29下 06-6 魏戊・29下 08-6 智徐吾・29下 10-6 孟丙は、『左傳』昭二十八

夏六月、晉殺祁盈及楊食我。食我、祁盈之黨也、而助亂、故殺之。遂滅祁氏・羊舌氏。…秋、晉韓宣子卒、魏獻子爲政、分祁氏之田以爲七縣、分羊舌氏之田以爲三縣。司馬彌牟爲鄆大夫、賈辛爲祁大夫、司馬烏爲平陵大夫、魏戊爲梗陽大夫、知徐吾爲塗水大夫、韓固爲馬首大夫、孟丙爲孟大夫、樂霄爲銅鞮大夫、趙朝爲平陽大夫、僚安爲楊氏大夫。

に見えるが、

晉頃公之十二年、韓宣子老、魏獻子爲國政。晉宗室祁氏・羊舌氏相惡、六卿誅之、盡取其邑爲十縣、六卿各令其子爲之大夫。(魏世家)

は、魏獻子以外、

十二年、晉之宗家祁傒孫・叔嚮子、相惡於君。六卿欲弱公室、乃遂以法盡滅其族。而分其邑爲十縣、各令其子爲大夫。晉益弱、六卿皆大。(晉世家)

十二 六卿誅公族、分其邑。各使其子爲大夫。(晉表)

はすべての人物を匿名化している。

29 下 12-6 成鱒・29 下 15-6 閻沒・30 上 02-6 汝寬は、昭二十七

魏子謂成鱒、吾與戊也縣、人其以我爲黨乎。…冬、梗陽人有獄、魏戊不能斷、以獄上。其大宗賂以女樂、魏子將受之。魏戊謂閻沒・女寬曰、…

に見えるが、『史記』はこれを引用しない。

173 吳王闔廬・楚昭王 30 上 06-9 徐子章禹は、『春秋經』昭三十「冬十有二月、吳滅徐、徐子章羽奔楚」に見えるが、『史記』はこれを引用しない。

30 上 09-5 蔡墨は『左傳』昭三十二

夏、吳伐越。始用師於越也。史墨曰、不及四十年、越其有吳乎。越得歲而吳伐之、必受其凶。

に見えるが、吳世家「五年、伐越、敗之」は「史墨曰」以下を省略する。

30 下 12-8 唐成公は、定三

蔡昭侯爲兩佩與兩裘以如楚、獻一佩一裘於昭王。昭王服之、以享蔡侯。蔡侯亦服其一。子常欲之、弗與、三年止之。唐成公如楚、有兩肅爽馬、子常欲之、弗與、亦三年止之。唐人或相與謀、請代先從者、許之。飲先從者酒、醉之、竊馬而獻之子常。子常歸唐侯。自拘於司敗、曰、君以弄馬之故、隱君身、棄國家。群臣請相

夫人以償馬、必如之。唐侯曰、寡人之過也、二三子無辱。皆賞之。蔡人聞之、固請、而獻佩于子常。子常朝、見蔡侯之徒、命有司曰、蔡君之久也、官不共也。明日禮不畢、將死。蔡侯歸、及漢、執玉而沈、曰、余所有濟漢而南者、有若大川。蔡侯如晉、以其子元與其大夫之子爲質焉、而請伐楚。

に見えるが、

昭侯十年、朝楚昭王、持美裘二、獻其一於昭王而自衣其一。楚相子常欲之、不與。子常讒蔡侯、留之楚三年。蔡侯知之、乃獻其裘於子常。子常受之、乃言歸蔡侯。蔡侯歸而之晉、請與晉伐楚。(蔡世家)

九 蔡昭侯留三歲、得裘、故歸。(楚表)

十二 與子常裘、得歸、如晉、請伐楚。(蔡表)

はこれを節略し、唐成公を省略する。

30上 07-4 伍子胥・30上 11-5 楚史皇・30上 07-6 沈尹戌(左司馬戌)・30下 09-8 楚囊瓦・30上 02-9 吳夫槩は、『左傳』定四

伍員爲吳行人以謀楚。…冬、蔡侯・吳子・唐侯伐楚、舍舟于淮汭、自豫章與楚夾漢。左司馬戌謂子常曰、…史皇謂子常、…十一月庚午、二師陳于柏舉。闔廬之弟夫槩王晨請於闔廬曰、…五戰、及郢。

に見えるが、

十年冬、吳王闔廬・伍子胥・伯嚭與唐・蔡俱伐楚、楚大敗、吳兵遂入郢、辱平王之墓、以伍子胥故也。吳兵之來、楚使子常以兵迎之、夾漢水陣。吳伐敗子常、子常亡奔鄭。楚兵走、吳乘勝逐之、五戰及郢。(楚世家)

九年、吳王闔廬請伍子胥・孫武曰、始子之言郢未可入、今果如何。二子對曰、楚將子常貪、而唐・蔡皆怨之。王必欲大伐、必得唐、蔡乃可。闔廬從之、悉興師、與唐・蔡西伐楚、至於漢水。楚亦發兵拒吳、夾水陳。吳王闔廬弟夫槩欲戰、闔廬弗許。夫槩曰、王已屬臣兵、兵以利爲上、尚何待焉。遂以其部五千人襲冒楚、楚兵大敗、走。於是吳王遂縱兵追之。比至郢、五戰、楚五敗。(吳世家)

闔廬聽之、悉興師與唐、蔡伐楚、與楚夾漢水而陳。吳王之弟夫槩將兵請從、王不聽、遂以其屬五千人擊楚將子常。子常敗走、奔鄭。於是吳乘勝而前、五戰、遂至郢。(伍子胥列傳)

は、沈尹戌・史皇を省略する。

30 上 13-5 王孫由于・30 下 01-5 鑪金・30 上 04-6 楚司馬子期・30 上 15-6 員公辛・30 上 08-7 鍾建は、昭四

楚子涉睢、濟江、入于雲中。王寢、盜攻之、以戈擊王、王孫由于以背受之、中肩。王奔郢、鍾建負季半以從、由于徐蘇而從。郢公辛之弟懷將弑王、曰、平王殺吾父、我殺其子、不亦可乎。辛曰、君討臣、誰敢讎之。君命、天也、若死天命、將誰讎。詩曰、柔亦不茹、剛亦不吐。不侮矜寡、不畏彊禦。唯仁者能之。違彊陵弱、非勇也。乘人之約、非仁也。滅宗廢祀、非孝也。動無令名、非知也。必犯是、余將殺女。鬪辛與其弟巢以王奔隨。吳人從之、謂隨人曰、周之子孫在漢川者、楚實盡之。天誘其衷、致罰於楚、而君又竄之、周室何罪。君若顧報周室、施及寡人、以獎天衷、君之惠也。漢陽之田、君實有之。楚子在公宮之北、吳人在其南。子期似王、逃王、而已爲王、曰、以我與之、王必免。隨人卜與之、不吉、乃辭吳曰、以隨之辟小、而密邇於楚、楚實存之。世有盟誓、至于今未改。若難而棄之、何以事君。執事之患不唯一人。若鳩楚竟、敢不聽命。吳人乃退。鑪金初宦於子期氏、實與隨人要言。王使見、辭、曰、不敢以約爲利。王割子期之心以與隨人盟。

に見えるが、

昭王亡也至雲夢。雲夢不知其王也、射傷王。王走郢。郢公之弟懷曰、平王殺吾父、今我殺其子、不亦可乎。郢公止之、然恐其弑昭王、乃與王出奔隨。吳王聞昭王往、即進擊隨、謂隨人曰、周之子孫封於江漢之間者、楚盡滅之。欲殺昭王。王從臣子綦乃深匿王、自以爲王、謂隨人曰、以我予吳。隨人卜予吳、不吉、乃謝吳王曰、昭王亡、不在隨。吳請入自索之、隨不聽、吳亦罷去。(楚世家)

楚昭王亡出郢、奔郢。郢公弟欲弑昭王、昭王與郢公奔隨。(吳世家)

は王孫由于・鑪金・鍾建を省略する。

30 上 06-5 申包胥は定四およびそれを引用する楚世家に見える。

30 上 03-4 楚子西は、定五

吳師敗楚師于雍澁、秦師又敗吳師。吳師居麇、子期將焚之、子西曰、父兄親暴骨焉、不能收、又焚之、不可。子期曰、國亡矣。死者若有知也、可以歆舊祀、豈憚焚之。焚之、而又戰、吳師敗、又戰于公壻之谿。吳師大敗、吳子乃歸。

に見えるが、楚世家はこれを引用しない。

30下 04-6 王孫章（王孫賈・王孫圉*⁴⁶）は、定五「王賞鬪辛・王孫由于・王孫圉・鍾建・鬪巢・申包胥・王孫賈・宋木・鬪懷」に見えるが、楚世家はこれを引用しない。

30下 11-5 陳逢滑は、哀元

吳之入楚也、使召陳懷公。懷公朝國人而問焉、曰、欲與楚者右、欲與吳者左。陳人從田、無田從黨。逢滑當公而進、曰、…

に見えるが、陳世家「吳王夫差伐陳、取三邑而去」・陳表「八 吳伐我」はこれを省略する。

30上 05-4 公子闔（公子閭*⁴⁷）は、哀六およびそれを引用する楚世家に見える。

30上 04-5 吳孫武は、吳世家・伍子胥列傳に見えるほか、『史記』は孫子吳起列傳を立てている。

30下 06-6 楚石奢は、『呂氏春秋』高義「荆昭王之時、有士焉、曰石渚。…」・『韓詩外傳』卷二「楚昭王有士曰石奢、…」・『新序』節士「楚昭王有士曰石奢、…」および『史記』循吏列傳「石奢者、楚昭王相也。…」に見える。

30上 09-4 江上丈人は、『呂氏春秋』異寶

五員亡、荆急求之、…過於荆、至江上、欲涉、見一丈人、刺小船、方將漁、從而請焉。

に見え、『史記』伍子胥列傳はこれを引用する。

31上 03-4 觀射父・30上 12-8 鬪且は、『國語』楚語下「昭王問於觀射父、曰、…」「子期祀平王、祭以牛俎於王、王問於觀射父、曰、…」「鬪且廷見令尹子常、…」に見える。

30下 03-5 屠羊説は、『莊子』讓王「楚昭王失國、屠羊説走而從於昭王。…」に見える。

30下 07-5 莫敖大心・30下 09-5 蒙穀は、『戰國策』楚策一

昔者吳與楚戰於柏舉、兩御之間夫卒交。莫敖大心撫其御之手、顧而大息曰、…

吳與楚戰於柏舉、三戰入郢。君王身出、大夫悉屬、百姓離散。蒙穀給門於宮唐之上、舍鬪奔郢曰、…

に見える。

175 城成周 30上 09-6 衛彪僂・30上 13-6 萇弘・30下 04-7 宋中幾・30下 07-7 齊高張は、『左傳』定元

元年春王正月辛巳、晉魏舒合諸侯之大夫于狄泉、將以城成周。魏子蒞政。衛彪侯曰、
…宋仲幾不受功、曰、…齊高張後、不從諸侯。晉女叔寬曰、周萇弘・齊高張皆將
不免。…

に見えるが、周本紀「諸侯城周」・周表「十 晉使諸侯爲我築城」・晉表「二 率諸侯
爲周築城」はこれらを省略する。

176 邾嚴公 30 下 06-8 夷射姑は、『左傳』定二「邾莊公與夷射姑飲酒」に見えるが、『史
記』はこれを引用しない。

177 衛靈公 30 上 12-9 南子・30 上 14-9 蒯聵・30 下 02-9 宋朝は、『左傳』定十四お
よびそれを引用する衛世家に見える。

30 下 13-4 衛公子伋は、哀二およびそれを引用する衛世家に見える。

30 上 12-4 史魚は、『論語』衛靈公「子曰、直哉史魚。邦有道、如矢。邦無道、如矢」
に見える。

30 上 14-4 公叔文子・31 上 04-5 大夫選は、『論語』憲問「公叔文子之臣大夫僕、與文
子同升諸公」に見える。

30 下 02-4 中叔圉・30 下 04-4 祝佗・30 下 07-4 王孫賈は、『論語』憲問

子言衛靈公之無道也、康子曰、夫如是、奚而不喪。孔子曰、仲叔圉治賓客、祝鮀
治宗廟、王孫賈治軍旅。夫如是、奚其喪。

に見える。

30 下 13-5 司馬狗・30 下 04-9 彌子瑕・30 下 06-9 雍疸は、

衛靈公之時、彌子瑕有寵、於衛國。…遂去雍鉏、退彌子瑕、而用司空狗。（『韓
非子』難四）

衛靈公近雍疸・彌子瑕。…於是、因廢雍疸・彌子瑕、而立司空狗。（『戰國策』
趙策三）

に見える。『史記』老子韓非列傳「昔者彌子瑕見愛於衛君。…」は、『韓非子』說難を
引用したものである。

31 上 02-5 顔讎由は、『孟子』萬章上

萬章問曰、或謂孔子於衛主癰疽、於齊主侍人瘠環、有諸乎。孟子曰、否、不然也。
好事者爲之也。於衛主顔讎由。彌子之妻與子路之妻、兄弟也。彌子謂子路曰、孔

子主我、衛卿可得也。子路以告。孔子曰、有命。孔子進以禮、退以義、得之不得曰、有命。而主癰疽與侍人瘠環、是無義無命也。

に見える。

178 召陵の會 30 下 08-6 劉文公卷・31 上 11-8 許幼（許男*⁴⁸）・31 下 03-8 頓子・31 下 05-8 胡子・31 下 10-8 小邾子は、『春秋經』定四

三月、公會劉子・晉侯・宋公・蔡侯・衛侯・陳子・鄭伯・許男・曹伯・莒子・邾子・頓子・胡子・滕子・薛伯・杞伯・小邾子・齊國夏于召陵、侵楚。

の召陵の會に見えるが、周表「十四 與晉率諸侯侵楚」・晉表「六 周與我率諸侯侵楚」はこれらを省略する。

179 季氏 30 下 10-7 榮駕鵝は『左傳』定元

季孫使役如闕公氏、將溝焉。榮駕鵝曰、生不能事、死又離之、以自旌也。縱子忍之、後必或恥之。乃止。季孫問於榮駕鵝曰、吾欲爲君諡、使子孫知之。對曰、生弗能事、死又惡之、以自信也。將焉用之。乃止。

に見えるが、魯世家はこれを引用しない。

31 上 05-6 東野畢は、『荀子』哀公「定公問於顏淵曰、子亦聞東野畢之善馭乎」に見える。

31 上 01-6 公父文伯は、『左傳』哀三

夏五月辛卯、司鐸火。火踰公宮、桓・僖災、…公父文伯至、命校人駕乘車。…孔子在陳、聞火、曰、其桓・僖乎。…

に見えるが、孔子世家

夏、魯桓・釐廟燔、南宮敬叔救火。孔子在陳、聞之、曰、災必於桓・釐廟乎。已而果然。

は公父文伯を省略する。

30 下 09-4 公父文伯母は、『國語』魯語下の「季康子問於公父文伯之母曰、…」以下 8 章に見える。『史記』では平原君虞卿列傳

樓緩對曰、王亦聞夫公甫文伯母乎。公甫文伯仕於魯、病死、女子爲自殺於房中者二人。其母聞之、弗哭也。其相室曰、焉有子死而弗哭者乎。其母曰、孔子、賢人也、逐於魯、而是人不隨也。今死而婦人爲之自殺者二人、若是者必其於長者薄而於婦

人厚也。故從母言之、是爲賢母。從妻言之、是必不免爲妒妻。故其言一也、言者異則人心變矣。今臣新從秦來而言勿予、則非計也。言予之、恐王以臣爲爲秦也。故不敢對。使臣得爲大王計、不如予之。

に見える。

30 下 13-6 季康子・30 下 13-9 季桓子は、哀三

秋、季孫有疾、命正常曰、無死。南孺子之子、男也、則以告而立之。女也、則肥也可。季孫卒、康子即位。

に見えるが、孔子世家

秋、季桓子病、輦而見魯城、喟然歎曰、昔此國幾興矣、以吾獲罪於孔子、故不興也。

顧謂其嗣康子曰、我即死、若必相魯。相魯、必召仲尼。後數日、桓子卒、康子代立。

は独自の記述を示す。

182 孔子出奔 31 上 06-5 陳司城貞子・31 上 09-5 顔濁鄒は、『史記』孔子世家

定公十四年、孔子年五十六、由大司寇行攝相事、有喜色。…孔子遂行、宿乎屯。

…孔子遂適衛、主於子路妻兄顔濁鄒家。…孔子遂至陳、主於司城貞子家。歲餘、

吳王夫差伐陳、取三邑而去。趙鞅伐朝歌。楚圍蔡、蔡遷于吳。吳敗越王句踐會稽。

に見える。『孟子』萬章下

於衛主顔讎由。彌子之妻與子路之妻、兄弟也。…是時孔子當阨、主司城貞子、爲陳侯周臣。

は「顔濁鄒」を「顔讎由」に作る。

183 趙簡子 31 上 14-7 趙簡子・31 上 12-9 范吉射・31 下 01-9 中行寅は、『左傳』定十三およびそれを引用する晉世家・趙世家に見える。

31 下 09-5 董安于は、定十三・十四およびそれを引用する趙世家に見える。

31 上 13-5 郵亡卹は、『左傳』哀二「郵無恤御簡子」の鐵の戦に關わる記述に見えるが、

五十五年、范・中行反其君於晉、晉攻之急、來請粟。田乞欲爲亂、樹黨於逆臣、說景公曰、范・中行數有德於齊、不可不救。及使乞救而輸之粟。(齊世家)

八年、晉范・中行氏反晉、告急於鄭、鄭救之。晉伐鄭、敗鄭軍於鐵。(鄭世家)

五十五 輸范・中行氏粟。(齊表)

十九 趙鞅圍范・中行、鄭來救、我敗之。(晉表)

八 救范・中行氏、與趙鞅戰於鐵、敗我師。(鄭表)

はこの部分を省略する。

31 下 03-4 鳴犢・31 下 05-4 竇犢につき、孔子世家

孔子既不得用於衛、將西見趙簡子。至於河而聞竇鳴犢舜華之死也、…

の「竇鳴犢舜華」を『孔子家語』困誓は「竇犢・鳴犢及舜華」に作る。また、『史記集解』の引く徐廣説に「或作鳴鐸竇犢、又作竇犢鳴犢・舜華也」とある。

31 下 07-5 扁鵲は、趙世家「趙簡子疾、五日不知人、大夫皆懼。醫扁鵲視之」・扁鵲倉公列傳「簡子疾、五日不知人、大夫皆懼、於是召扁鵲」に見える。

31 上 14-6 周舍は、『韓詩外傳』卷七「趙簡子有臣曰周舍、立於門下、…」・『新序』雜事一「昔者、周舍事趙簡子、立趙簡子之門、…」および趙世家「趙簡子有臣曰周舍、…」に見える。

31 上 15-5 王良は、『孟子』滕文公下「昔者趙簡子使王良與嬖奚乘、終日而不獲一禽」に、31 下 02-5 栢樂は、『國語』晉語九「伯樂與尹鐸有怨」に、31 下 04-5 陽城胥渠は、『呂氏春秋』愛士「趙簡子有兩白騾而甚愛之。陽城胥渠處廣門之官、…」に、31 下 01-6 田果(田卑*⁴⁹)は『新序』義勇

佛肸以中牟叛、置鼎於庭、致士大夫曰、與我者受邑、不吾與者烹。大夫皆從之。

至於田卑、田卑、中牟之邑人也。

に、31 下 03-6 行人燭過は、『呂氏春秋』貴直「趙簡子攻衛附郭、…行人燭過免冑橫戈而進曰、…」・『韓非子』難二「趙簡子圍衛之郭郭、…行人燭過免冑而對曰、…」に見える。

185 越王句踐 31 下 11-4 大夫種は『左傳』哀元およびそれを引用する吳世家に見える

31 下 13-3 范蠡は『左傳』に見えない。『史記』越世家「越王謂范蠡曰、以不聽子故至於此、爲之奈何」は『國語』越語下「王召范蠡而問焉、曰、吾不用子之言、以至於此、爲之奈何」を引用するものだが、越世家では以下、もっぱら范蠡が登場する。

32 上 01-4 諸稽到は、『國語』吳語「越王許諾、乃命諸稽郢行成於吳、曰、…」に見え、31 下 13-4 后庸・32 上 04-4 苦成・32 上 06-4 臯如は、『國語』吳語

大夫舌庸乃進對曰、審賞則可以戰乎。王曰、聖。大夫苦成進對曰、審罰則可以戰乎。

王曰、猛。大夫種進對曰、審物則可以戰乎。王曰、辯。大夫蠡進對曰、審備則可以戰乎。王曰、巧。大夫皋如進對曰、審聲則可以戰乎。王曰、可矣。

に見える。

32 上 09-4 計然は『史記』貨殖列傳「昔者越王句踐困於會稽之上、乃用范蠡・計然。計然曰、…」に見える。

31 下 12-6 嚴先生は、『史記』越世家「朱公不得已而遣長子、爲一封書遺故所善莊生」に見える。

188 曹の滅亡 31 下 13-9 公孫疆は、『左傳』哀七とそれに対応する曹世家に見える。

189 陳轅頗 32 下 07-7 陳轅頗は、『左傳』哀十一「夏、陳轅頗出奔鄭」に見えるが、陳世家はこれを引用しない。

190 齊の内亂 31 上 07-7 齊國夏 32・上 07-7 高昭子・32 上 05-8 鮑牧・32 上 04-9 田乞は『左傳』哀六、32 上 14-5 大陸子方・32 上 08-8 田恆・32 上 11-8 諸御鞅・32 上 11-9 子我・32 上 13-9 子行は哀十四とそれぞれに対応する齊世家・田世家に見える。

31 上 10-7 桑掩胥は哀十一「桑掩胥御國子」の艾陵の戦に関わる記述に見えるが、齊表「齊簡公元年 魯與吳敗我」・吳表「十二 與魯敗齊」はこれを省略する。

32 上 08-5 隰斯彌は、『韓非子』説林上「隰斯彌見田成子、…」に見える。

191 白公勝の亂 32 上 09-3 葉公子高・32 上 10-5 市南熊宜僚・32 上 10-6 楚白公勝は、『左傳』哀十六とそれに対応する楚世家・伍子胥列傳に見える。

32 上 13-6 屈固は楚世家「惠王從者屈固負王亡走昭王夫人宮」・伍子胥列傳「石乞從者屈固負楚惠王亡走昭夫人之宮」に見えるが、『左傳』哀十六「石乞尹門。圉公陽穴宮、負王以如昭夫人之宮」は圉公陽に作る。

32 上 04-5 楚芋尹文・32 下 02-5 嚴善は『新序』義勇「芋尹文者、荆之歐鹿彘者也。司馬子期獵於雲夢、載旗之長拽地」「白公之難、楚人有莊善者」に、32 上 14-7 申鳴は、『韓詩外傳』卷十

楚有士曰申鳴、治園以養父母、孝聞於楚、王召之、申鳴辭不往。…其年、遇白公之亂、殺令尹子西、司馬子期、申鳴因以兵之衛。

に見える。

193 衛の内亂 32 下 01-7 孔文子・32 下 04-7 太叔疾は『左傳』哀十一とそれに対応

する孔子世家に見える。

32 下 04-8 渾良夫・32 下 08-8 孔悝・32 下 09-8 石乞・32 下 10-8 狐麇は哀十五とそれに対応する衛世家に見える。孔悝・石乞・狐麇は、仲尼弟子列傳にも見える。

32 上 13-8 衛太叔遺は、哀十六

衛侯占夢、嬖人求酒於大叔僖子、不得、與卜人比、而告公曰、君有大臣在西南隅、弗去、懼害。乃逐大叔遺。遺奔晉。

に見えるが、衛世家はこれを引用しない。

33 上 07-9 石國（石圃*⁵⁰）は、哀十八とそれに対応する衛世家に見える。

194 吳の滅亡 34 上 01-9 太宰嚭につき、吳世家「越王滅吳、誅太宰嚭、以爲不忠、而歸」は吳の滅亡の際に誅殺されたものとする。ところが、『左傳』には哀二十二の吳の滅亡ののち、哀二十四に

閏月、公如越、得太子適郢、將妻公而多與之地。公孫有山使告于季孫、季孫懼、使因太宰嚭而納賂焉、乃止。

と、太宰嚭が吳の滅亡後、越に仕えたことが見える。人表が太宰嚭を 33 下 12-9 吳王夫差の近くに置くのは、あるいは『史記』に従ったものであろう。

196 論語・檀弓 32 下 10-2 朱張・32 下 13-2 少連は『論語』微子「逸民、伯夷・叔齊・虞仲・夷逸・朱張・柳下惠・少連」に見える。少連は 33 上 14-3 大連とともに、『禮記』雜記下「孔子曰、少連・大連、善居喪、三日不怠、三月不解、期悲哀、三年憂、東夷之子也」にも見える。

32 下 08-3 達巷黨人は『論語』子罕「達巷黨人曰、…」およびそれを引用する孔子世家に見える。

33 上 09-3 孟之反は、『論語』雍也

子曰、孟之反不伐、奔而殿。將入門、策其馬、曰、非敢後也、馬不進也。

に見える。『左傳』哀十一「孟之側後入以爲殿、抽矢策其馬、曰、馬不進也」は「孟之側」に作る。郎の戦に関する記述だが、魯世家「十一年、齊伐魯」・孔子世家「其明年、冉有爲季氏將師、與齊戰於郎、克之」・魯表「十一 齊伐我」はこれを省略する。

33 下 03-3 顔丁・33 下 05-3 顔柳・33 下 07-3 周豊は、『禮記』檀弓下「顔丁善居喪、…」「孺子贛之喪、哀公欲設撥、問於有若、有若曰、其可也、君之三臣猶設之、顔柳曰、…」

「魯人有周豐也者、哀公執摯請見之、而曰不可、…」に見える。顔柳は、仲尼弟子列傳(31)「顔幸字子柳。少孔子四十六歳」である。

33下09-3 采桑羽を孫國仁『漢書人表略校』は、『莊子』大宗師「子桑戸・孟子反・子琴張、三人相與友、…」の「子桑戸」とする*⁵¹。

33下12-3 樂正子春は、『禮記』檀弓上「曾子寢疾、病、樂正子春坐於床下、…」に見える。

33下15-3 石讎は、『說苑』敬慎「石讎曰、「春秋有忽然而足以亡者、…」」に見える。

34上03-3 子服子は、「子服伯子」であり、32下03-6 檀弓・32下05-6 公儀中子とともに、『禮記』檀弓上

公儀仲子之喪、檀弓免焉。仲子舍其孫而立其子。檀弓曰、何居。我未之前聞也。

趨而就子服伯子於門右、曰、…

に見える。

34上07-3 惠子は『禮記』檀弓上「司寇惠子之喪、…」に見える。

34上10-3 公房皮につき『人表考』卷三は、『太平御覽』卷八百二十八/資産部三/屠「尸子曰、…又曰、宋人有公斂皮者、適市反、呼曰、公斂皮。屠者遽收其皮」の「公斂皮」とする説を擧げる。

32下06-4 儀封人は『論語』八佾「儀封人請見。…」に見える。

32下09-4 長沮・32下12-4 桀溺および32下14-4 丈人は『論語』微子「長沮・桀溺耦而耕、孔子過之、使子路問津焉。…」「子路從而後、遇丈人、以杖荷蓑」に見え、孔子世家はこれらを引用し、仲尼弟子列傳にも「子路喜從游、遇長沮・桀溺・荷蓑丈人」とある。

33上01-4 何蕢は、『論語』子路「子擊磬於衛。有荷蕢而過孔氏之門者、…」に、33上04-4 楚狂接輿は、『論語』微子「楚狂接輿歌而過孔子曰、…」に、33上09-4 師襄子は『韓詩外傳』卷五「孔子學鼓琴於師襄子而不進」に見え、孔子世家はこれらを引用する。

33上14-4 師己(師乙*⁵²)・33下01-4 賓牟賈は、『禮記』樂記「子贛見師乙而問焉、…」「賓牟賈侍坐於孔子、孔子與之言及樂」に見え、『史記』樂書はこれらを引用する。

33下03-4 公肩瑕および33下09-5 公輸般は、『禮記』檀弓下「季康子之母死、公輸

若方小、斂、般請以機封、將從之、公肩假曰、…」に見える。

33下 07-4 衛視夷につき、師古注に「即式夷也」とあり、『人表考』卷四は、『呂氏春秋』長利「戎夷違齊如魯、…」の「戎夷」とする。

33下 11-4 史留を、周壽昌『漢書注校補』卷十三は『漢書』藝文志/小學「史籀十五篇。周宣王太史作大篆十五篇、建武時亡六篇矣」の史籀とする。

31下 11-5 田饒は、『韓詩外傳』卷二「田饒事魯哀公而不見察、…」に見える。

31下 13-5 仇汜を、『人表考』卷五は『說苑』敬慎「魯有恭士、名曰机汜」の机汜とする。

31下 15-5 榮聲期は、『淮南子』主術「夫榮啟期一彈、而孔子三日樂、感于和」・齊俗「林類、榮啟期衣若縣衰而意不慊」に見える。

32下 04-5 魯太師は『論語』八佾「子語魯大師樂。…」に見え、孔子世家はこれを引用する。

32下 08-5 公明賈は、『論語』憲問「子問公叔文子於公明賈曰、…」に見え、32下 09-5 陳亢は、『論語』季氏「陳亢問於伯魚曰、…」に見える。

32下 12-5 子服景伯は、『論語』憲問「公伯寮愬子路於季孫。子服景伯以告、曰、…」に見え、仲尼弟子列傳はこれを引用する。

32下 15-5 林放は、『論語』八佾「林放問禮之本。…」および

季氏旅於泰山。子謂冉有曰、女弗能救與。對曰、不能。子曰、嗚呼。曾謂泰山、不如林放乎。

に見える。

33上 04-5 陳司敗は、『論語』述而「陳司敗問昭公知禮乎。…」に、33上 06-5 陳子禽は『論語』子張「陳子禽謂子貢曰、…」に見え、仲尼弟子列傳はこれらを引用する。

33上 08-5 陽膚は、『論語』子張「孟氏使陽膚爲士師、…」に、33上 09-5 尾生高は『論語』公冶長「子曰、「孰謂微生高直。…」に見える。

33上 13-5 申枨は、仲尼弟子列傳(57)の「申黨字周」である。『論語』公冶長「子曰、吾未見剛者。或對曰、申枨。子曰、枨也慾、焉得剛」に見える。

33上 14-5 師冕は、『論語』衛靈公「師冕見、…」に見える。

33下 03-5 南郭惠子は、『墨子』非儒「孔某乃恚、怒於景公與晏子、乃樹鳴夷子皮於

田常之門、告南郭惠子以所欲爲、歸於魯」・『荀子』法行「南郭惠子問於子貢曰、…」に見える。

33下 05-5 姑布子卿は『韓詩外傳』卷九「孔子出衛之東門、逆姑布子卿。…」に初見し、趙世家「異日、姑布子卿見簡子、簡子遍召諸子相之。…」にも見える。

33下 07-5 宋子韋は、宋世家

三十七年、楚惠王滅陳。熒惑守心。心、宋之分野也。景公憂之。司星子韋曰、可移於相。景公曰、相、吾之股肱。曰、可移於民。景公曰、君者待民。曰、可移於歲。景公曰、歲饑民困、吾誰爲君。子韋曰、天高聽卑。君有君人之言三、熒惑宜有動。於是候之、果徙三度。

に見える。

33下 11-5 離朱は、『莊子』駢拇「是故駢於明者、亂五色、淫文章、青黃黼黻之煌煌非乎。而離朱是已」に初見する。

33下 12-5 陳太宰喜・33下 14-5 吳行人儀は、『禮記』檀弓下「吳侵陳、斬祀殺厲、師還出竟、陳大宰嚭使於師、夫差謂行人儀曰、…」に見える。

32下 08-6 皋魚は、『韓詩外傳』卷九「孔子行、聞哭聲甚悲。孔子曰、驅。驅。前有賢者。至、則皋魚也。…」に見える。

32下 10-6 顔亡父・32下 13-6 顔隄倫・33上 01-6 顔夷は、『韓詩外傳』卷二

傳曰、孔子云、美哉。顔無父之御也。馬知後有輿而輕之、知上有人而愛之、馬親其正、而愛其事、如使馬能言、彼將必曰、樂哉。今日之騶也。至於顔淪少衰矣、馬知後有輿而輕之、知上有人而敬之、馬親其正、而敬其事、如使馬能言、彼將必曰、騶來。其人之使我也。至於顔夷而衰矣、馬知後有輿而重之、知上有人而畏之、馬親其正、而畏其事、如使馬能言、彼將必曰、騶來。騶來。女不騶、彼將殺女。故御馬有法矣、御民有道矣、法得則馬和而歡、道得則民安而集。詩曰、執轡如組、兩驂如舞。此之謂也。

に見える。

33上 04-6 陳弃疾・33上 06-6 工尹商陽・33上 09-6 齊禽敖・33上 13-6 餓者・33上 15-6 陳子亢・33下 03-6 陳尊己は、『禮記』檀弓下「工尹商陽、與陳棄疾、追吳師、…」「齊大饑、黔敖爲食於路、以待餓者而食之、有餓者、…」「陳子車死於衛、其妻與其家

大夫謀以殉葬、定而后陳子亢至、…」[陳乾昔寢疾、屬其兄弟、而命其子尊已、曰、…]に見える。

32 下 15-7 厥黨童子は、『論語』憲問「闕黨童子將命。…」に、33 上 04-7 革子成は『論語』顔淵「棘子成曰、…」に見える。

33 下 01-7 公之魚は、孔子世家

秋、季桓子病、輦而見魯城、喟然歎曰、昔此國幾興矣、以吾獲罪於孔子、故不興也。顧謂其嗣康子曰、我即死、若必相魯。相魯、必召仲尼。後數日、桓子卒、康子代立。已葬、欲召仲尼。公之魚曰、…

に見える。

33 下 07-7 宋桓魋は、『論語』述而「子曰、天生德於予、桓魋其如予何」に見え、孔子世家

孔子去曹適宋、與弟子習禮大樹下。宋司馬桓魋欲殺孔子、拔其樹。孔子去。弟子曰、可以速矣。孔子曰、天生德於予、桓魋其如予何。

はこれを引用する。一方で、宋世家「二十五年、孔子過宋、宋司馬桓魋惡之、欲殺孔子、孔子微服去」・宋表「二十五 孔子過宋、桓魋惡之」は、『孟子』萬章上「孔子不悅於魯衛、遭宋桓司馬將要而殺之、微服而過宋」に基づく。

33 下 08-7 匡人は、『論語』

子畏於匡。曰、文王既沒、文不在茲乎。天之將喪斯文也、後死者不得與於斯文也。天之未喪斯文也、匡人其如予何。(子罕)

子畏於匡、顔淵後。子曰、吾以女爲死矣。曰、子在、回何敢死。(先進)

に見え、孔子世家

將適陳、過匡、顔刻爲僕、以其策指之曰、昔吾入此、由彼缺也。匡人聞之、以爲魯之陽虎。陽虎嘗暴匡人、匡人於是遂止孔子。孔子狀類陽虎、拘焉五日、顔淵後、子曰、吾以汝爲死矣。顔淵曰、子在、回何敢死。匡人拘孔子益急、弟子懼。孔子曰、文王既沒、文不在茲乎。天之將喪斯文也、後死者不得與于斯文也。天之未喪斯文也、匡人其如予何。

は、これらを引用する。

33 上 01-8 原壤は、『論語』憲問「原壤夷俟。…」に、33 上 02-8 叔孫武叔は、『論語』

子張「叔孫武叔語大夫於朝、曰、…」 「叔孫武叔毀仲尼。…」に、33上04-8 衛公孫朝は、『論語』子張「衛公孫朝問於子貢曰、…」に、33上07-8 尾生晦は、『論語』憲問「微生畝謂孔子曰、…」に、33上12-8 互鄉童子は、『論語』述而「互鄉難與言、童子見、門人惑。…」に見える。

33上15-8 弗肸『論語』陽貨およびそれを引用する孔子世家に見える。

<p>『論語』陽貨 佛肸</p> <p>召、子欲往。子路曰、昔者由也聞諸夫子曰、親於其身爲不善者、君子不入也。佛肸以中牟畔、子之往也、如之何。子曰、然。有是言也。不曰堅乎、磨而不磷。不曰白乎、涅而不緇。吾豈匏瓜也哉。焉能繫而不食。</p>	<p>孔子世家 佛肸爲中牟宰。趙簡子攻范・中行、伐中牟。佛肸畔、使人召孔子。孔子欲往。子路曰、由聞諸夫子、其身親爲不善者、君子不入也。今佛肸親以中牟畔、子欲往、如之何。孔子曰、有是言也。不曰堅乎、磨而不磷。不曰白乎、涅而不淄。我豈匏瓜也哉、焉能繫而不食。</p>
---	---

33下04-8 公山不狃は『左傳』定五・定八・定十二およびそれを引用する孔子世家に見える。『論語』陽貨は「公山弗擾」に作るが、孔子世家は「公山不狃」に作る。

<p>『論語』陽貨 公山弗擾以費畔、召、子</p> <p>欲往。子路不說、曰、末之也已、何必公山氏之之也。 子曰、夫召我者而豈徒哉。如有用我者、吾其爲東周乎。</p>	<p>孔子世家 公山不狃以費畔季氏、使人召孔子。孔子循道彌久、溫溫無所試、莫能已用、曰、蓋周文武起豐鎬而王、今費雖小、儻庶幾乎。 欲往。子路不說、止孔子。 孔子曰、夫召我者豈徒哉。如用我、其爲東周乎。</p>
---	--

33上08-9 陽虎は、『左傳』では昭二十七「孟懿子・陽虎伐鄆、…」に初見し、孔子世家では

孔子要經、季氏饗士、孔子與往。陽虎緇曰、季氏饗士、非敢饗子也。孔子由是退。に初見する。

197 趙襄子 34上02-4 趙襄子・34上05-7 智伯・34上01-5 鄭鄙魁壘は『左傳』哀二十七

悼之四年、晉荀瑤帥師圍鄭、未至、鄭駟弘曰、知伯復而好勝、早下之、則可行也。乃先保南里以待之。知伯入南里、門于桔秩之門。鄭人俘鄙魁壘、賂之以知政、閉其口而死。將門、知伯謂趙孟、入之。對曰、主在此。知伯曰、惡而無勇、何以爲子。對曰、以能忍恥、庶無害趙宗乎。知伯不悛、趙襄子由是基知伯、遂喪之。知伯貪

而復、故韓・魏反而喪之。

に見える。これを改変した趙世家

晉出公十一年、知伯伐鄭。趙簡子疾、使太子毋卹將而圍鄭。知伯醉、以酒灌擊毋卹。毋卹群臣請死之。毋卹曰、君所以置毋卹、爲能忍詬。然亦愠知伯。知伯歸、因謂簡子、使廢毋卹、簡子不聽。毋卹由此怨知伯。

は、鄭鄴魁紮を省略する。

34 上 07-5 魏桓子・34 上 10-5 韓康子は、『戰國策』秦策四

昔者六晉之時、智氏最強、滅破范・中行、帥韓・魏以圍趙襄子於晉陽。決晉水以灌晉陽、城不沈者三板耳。智伯出行水、韓康子御、魏桓子驂乘。

に見え、『史記』魏世家がこれを引用する。

33 下 12-4 豫讓は『戰國策』趙策に見え、『史記』刺客列傳がこれを引用する。

33 下 13-4 青荊子は、『呂氏春秋』序意

趙襄子游於囿中、至於梁、馬卻不肯進、青荊爲參乘、襄子曰、進視梁下、類有人。青荊進視梁下。豫讓卻寢、佯爲死人、叱青荊曰、去。長者吾且有事。青荊曰、少而與子友、子且爲大事、而我言之、是失相與友之道。子將賊吾君、而我不言之、是失人臣之道。如我者惟死爲可。乃退而自殺。青荊非樂死也、重失人臣之節、惡廢交友之道也。青荊、豫讓可謂之友也。

に見える。

34 上 05-4 知過は、『戰國策』趙策一「張孟談因朝知伯而出、遇知過轅門之外。知過入見知伯曰、…」に見える。晉陽包圍戦に関わる記述だが、趙世家はこの部分を省略する。

34 上 13-5 高赫は『韓非子』難一「襄子圍於晉陽中、出圍、賞有功者五人、高赫爲賞首。…」に見える。趙世家は「高赫」を「高共」に作る。

34 上 15-5 原過は趙世家「原過從、後、至於王澤、見三人、自帶以上可見、自帶以下不可見。…」に見える。

34 下 02-5 任章は、『戰國策』魏策一「知伯索地於魏桓子、魏桓子弗予。任章曰、…」・『韓非子』説林上「智伯索地於魏宣子、魏宣子弗予、任章曰、…」に見える。

四

附表は前章で考證した人物の出所および年次を一覧したものである。『左傳』の年代的記述の存在する前722～前468年に繋がる人物に限り、さらにこの間に即位した王侯をその元年に置く。元年のわからないもの(*)は卒年に置く。また年次の確定しがたいものがほとんどである144仲尼および196論語・檀弓に屬する人物は除く。王侯以外の出所は史記・史記左傳・左傳・其他に分かつ。「史記」「左傳」はそれぞれ『史記』もしくは『左傳』に取材することが排他的に確言できるもの、「史記左傳」は雙方に見えるものである。「其他」の年次の確定できない事例については、關係する王侯の元年もしくは關係する事件の年次に便宜的に置くことにする。

表1は別表に基づき、王侯・史記・史記左傳・左傳・其他の10年ごとの人数およびその合計を示したものである。

まずは、合計に注目してみよう。表1に含まれない144仲尼の49人、196論語・檀弓の72人、および宋孔父・宋大金・宋方叔・宋伯夏の4人、あわせて125人の「孔子關係」は『史記』に見えるもの53人（「孔子甲」）、見えないもの72人（「孔子乙」）に分かれる。

圖1は、969人のうち王侯204人・史記23人・史記左傳215人・左傳320人・其他82人・孔子乙72人・孔子甲53人の割合を示したものである。

『史記』に由來するものは、「王侯」「史記」「孔子甲」であわせて29%、由來しないものは、「左傳」「其他」「孔子乙」であわせて

表1 人表の年代別人数

	王侯	史記	史記左傳	左傳	其他
720sBC	1	0	4	4	0
710	9	0	4	2	0
700	6	0	1	11	0
690	15	0	10	3	0
680	5	0	13	13	10
670	10	0	4	6	1
660	6	1	16	14	4
650	8	0	11	4	1
640	4	0	5	7	4
630	6	0	13	17	2
620	6	1	11	9	1
610	12	1	4	10	4
600	9	0	14	14	0
590	9	0	8	12	0
580	8	6	7	12	0
570	9	0	14	31	4
560	3	0	3	10	1
550	7	0	1	30	5
540	10	1	10	31	4
530	8	0	1	13	1
520	11	2	13	20	5
510	10	1	7	20	0
500	11	1	6	19	8
490	9	7	11	3	19
480	7	0	17	2	4
470	5	2	5	2	4
460	0	0	2	1	0
	204	23	219	316	82

て49%となる。また、『左傳』に由來するものは「史記左傳」「左傳」であわせて55%となる。人表は『史記』『左傳』の雙方を参照していたにちがいないが、「史記左傳」に屬するものについても、まずは『左傳』に據り、ごく一部について『史記』を參用したものと考えてさしつかない。

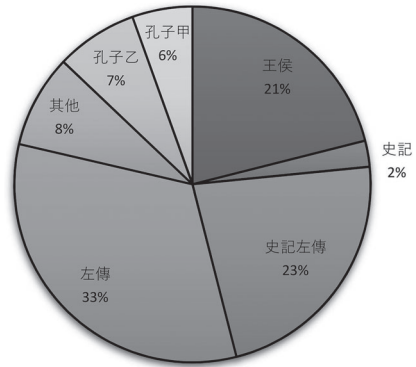


圖1 人表の原資料

人表は、『左傳』その他の材料に基づき、『史記』に見えない人物を大量に補っていることになる。これらの人物は、それに關連する記述を讀者に想起させることによって、『史記』の記述する春秋史の空白を充填することになる。

それでは、『史記』の春秋史はいかなるもので、人表はそれをどのように補充したのか。

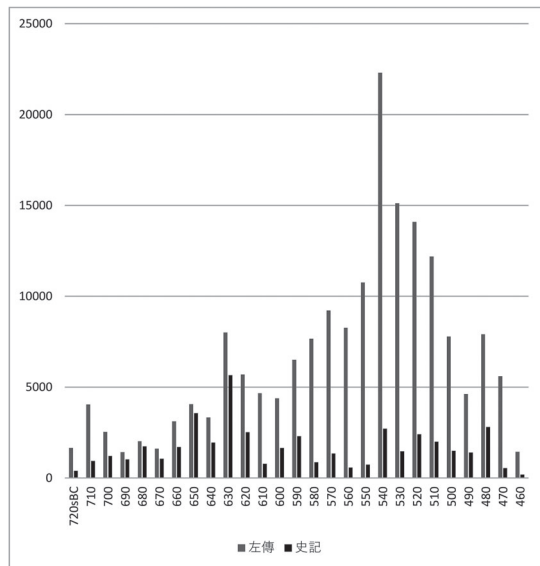


圖2 『左傳』『史記』の年代別字數

圖2は『左傳』および『史記』本紀・世家（周魯齊晉秦楚宋衛陳蔡曹鄭燕吳）春秋部分の10年ごとの字數を示したものである。

『左傳』179928字・『史記』45005字で全體として『左傳』は『史記』の4倍の字數を擁しているが、注目されるのは、前630年代までの字數である。『左傳』31763字:『史記』19231字で、『史記』は『左傳』に對し60.5%の字數となっている。

對するに前620年代以降は、『左傳』148165字:『史記』25774字で、『史記』は『左傳』に對し17.4%、前630年代以前に比べて『左傳』に對する記述の密度が4分の1に減殺されているのである。

この問題を『史記』に引き戻して考えてみよう。表2は『史記』本紀・世家において100字以上を擁する年次を示したものである。年次のあとの()内は字數と記述された主要な事件である。前620年代以降にしても、100字以上の字數を擁する年次は一貫して存在する。すなわち、『左傳』に對する記述密度の低さとは、一般的な簡略化ではなく、『左傳』から採録しない部分の増加を意味する。

表2 『史記』の100字以上の年次

720s	鄭莊公二十二年 722 (122 大叔段の亂)・宋穆公九年 720 (114 宋穆公卒)
710	魯隱公十一年 712 (139 魯隱公弑)・衛桓公十六年 719 (108 衛州吁の亂)
700	衛宣公十八年 701 (269 太子伋殺)・鄭莊公四十三年 701 (133 鄭莊公卒)
690	魯桓公十八年 694 (140 魯桓公殺)・齊襄公四年 694 (111 魯桓公殺)・鄭厲公四年 697 (153 鄭靈公奔)・鄭子廑元年 694 (169 鄭子廑殺)
680	齊襄公十二年 686 (251 齊襄公卒)・齊桓公元年 685 (494 齊桓公立)・齊桓公五年 681 (129 柯の盟)・宋湣公十一年 681 (159 宋湣公弑)・鄭子十四年 680 (161 鄭靈公復位)
670	陳宣公二十一年 672 (120 陳完奔齊)・鄭厲公五年 675 (105 王子頹の亂)
660	魯莊公三十二年 662 (338 魯莊公卒)・魯湣公二年 661 (250 魯湣公弑)・晉獻公十二年 665 (157 驪姫)・晉獻公十六年 661 (181 晉獻公作二軍)・晉獻公十七年 660 (218 太子申生伐東山)・衛懿公九年 660 (251 翟滅衛)
650	齊桓公三十年 656 (218 召陵の盟)・齊桓公三十五年 651 (312 葵丘の會)・晉獻公十九年 658 (143 驪姫)・晉獻公二十一年 656 (435 太子申生死)・晉獻公二十二年 655 (270 晉滅虞虢)・晉獻公二十六年 651 (495 晉獻公卒)・晉惠公元年 650 (429 晉惠公)・秦繆公五年 655 (326 百里奚)・秦繆公九年 651 (237 晉獻公卒)
640	周襄王三年 649 (101 叔帶)・齊桓公四十一年 645 (117 管仲隰朋卒)・齊桓公四十三年 643 (252 齊桓公卒)・齊孝公元年 642 (101 齊孝公立)・晉惠公五年 646 (100 晉饑)・晉惠公六年 645 (371 韓の戰)・秦繆公十五年 645 (325 韓の戰)
630	晉惠公十四年 637 (1424 公子重耳)・晉文公元年 636 (901 晉文公)・晉文公四年 633 (122 晉作三軍)・晉文公五年 632 (947 城濮の戰)・晉文公七年 630 (100 晉秦圍鄭)・楚成王三十九年 633 (122 城濮の戰)・宋襄公十三年 638 (213 泓の戰)・衛成公三年 632 (130 衛成公奔)・鄭文公三十七年 636 (126 王子帶の亂)・鄭文公四十三年 630 (271 晉秦圍鄭)
620	晉襄公元年 627 (180 穀の戰)・晉襄公七年 621 (188 晉襄公卒)・晉靈公元年 620 (189 令狐の戰)・秦繆公三十二年 628 (173 穀の戰)・秦繆公三十三年 627 (261 穀の戰)・秦繆公三十四年 626 (445 由余)・秦繆公三十六年 624 (139 王官の戰)・秦繆公三十九年 621 (139 穆公卒)・楚成王四十六年 626 (212 楚成王弑)
610	魯文公十一年 616 (118 長翟)・楚莊王三年 611 (159 三年不蜚不鳴)
600	魯文公十八年 609 (120 魯文公卒)・齊懿公四年 609 (144 齊懿公弑)・晉靈公十四年 607 (471 晉靈公弑)・楚莊王八年 606 (175 鼎の輕重)・鄭靈公元年 605 (184 鄭靈公弑)
590	晉景公三年 597 (191 郟の戰)・莊王十六年 598 (101 伐陳)・莊王十七年 597 (172 郟の戰)・陳成公元年 598 (171 楚莊王)・鄭襄公八年 597 (230 郟の戰)・鄭襄公十一年 594 (227 楚圍宋)
580	齊頃公十年 589 (286 鞏の戰)・晉景公十一年 589 (154 鞏の戰)
570	晉厲公六年 575 (138 鄆陵の戰)・晉厲公八年 573 (351 晉厲公弑)・晉悼公元年 572 (208 晉悼公立)
560	吳王諸樊元年 560 (100 讓位季札)
550	齊靈公二十八年 554 (143 齊莊公立)・衛獻公十八年 559 (143 衛獻公奔)
540	魯襄公三十一年 542 (111 魯昭公立)・齊莊公六年 548 (393 齊莊公弑)・齊景公元年 547 (158 崔杼死)・齊景公三年 545 (115 慶封出奔)・鄭簡公二十五年 541 (311 子產聘晉)・吳餘祭四年 544 (810 季札聘)
530	楚靈王三年 538 (225 申の會)・楚靈王十一年 530 (216 析父)・陳哀公三十四年 535 (228 楚滅陳)

520	楚靈王十二年 529 (1218 楚靈王弒)・楚平王二年 527 (106 太子建)・楚平王六年 523 (328 太子建)
510	魯昭公二十五年 517 (318 魯昭公出奔)・魯昭公二十六年 516 (107 魯昭公出奔)・魯昭公三十二年 510 (114 魯昭公卒)・齊景公三十二年 516 (146 彗星)・楚平王十年 519 (114 吳伐楚)・吳王僚九年 518 (140 伍子胥奔吳)・吳王僚十二年 515 (340 吳王僚弒)
500	楚昭王十年 506 (260 吳拔郢)・吳闔廬九年 506 (180 拔郢)・吳闔廬十年 505 (101 拔郢)
490	齊景公五十八年 490 (177 齊景公卒)・衛靈公四十二年 493 (151 衛出公立)・吳夫差二年 494 (230 伐越)
480	齊晏孺子元年 489 (308 齊悼公立)・齊簡公四年 481 (441 齊簡公弒)・楚昭王二十七年 489 (284 楚昭王卒)・衛出公十二年 481 (385 衛莊公立)・吳夫差七年 489 (126 伐齊)・吳夫差十一年 485 (163 伐齊)・吳夫差十四年 482 (169 黃池の會)
470	
460	魯哀公二十七年 468 (122 魯哀公出奔)

前章で考證したように、『史記』は『左傳』の各章に對し、(1) 引用しない、(2) 節略、(3) 節略しない、さらに潤色、といった三つの姿勢を使い分けている。その結果、(1) は無論のこと、(2) の登場人物のほとんどが『史記』には見えなくなっている。人表は、『史記』に見えない人物を大幅に補っているわけである。圖3は、表1に基づき人表の10年ごとの人数を示したものである。「左傳」「其他」がとりわけ前570年代以降につ

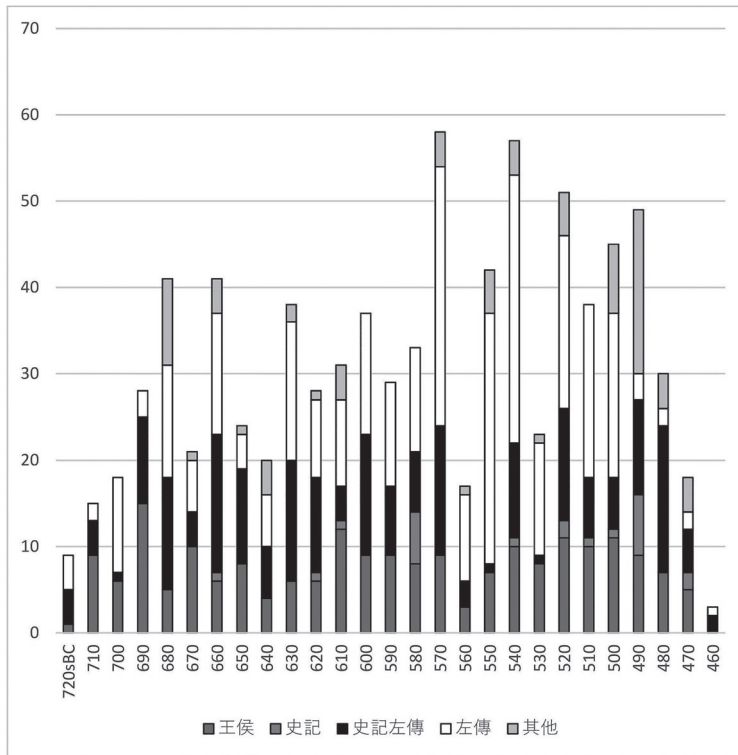


圖3 人表原資料の年代別人数

いて大きく補われていることが看取される。前 690・前 670・前 630 年代の補充も大きい。『史記』の字數については、前 630 年代以前が 19231 字、前 620 年代以降が 25774 字で 1:1.34、『左傳』については、31763 字：148165 字で 1：4.66、對するに表 1 に集計した人表の人數は、前 630 年代以前が 255 人、前 620 年代以降が 592 人で 1:2.32、「孔子關係」のうち、144 仲尼の 49 人、196 論語・檀弓の 72 人を前 620 年代以降に加えれば、255 人：713 人で 1：2.79 となる。

それでは、『左傳』から『史記』ついで人表における字數ないし人數の年代的分布の變化はどのように説明されるのか。

春秋史に對する『史記』の包括的認識を示すのが、十二諸侯年表の序である。

太史公讀春秋曆譜課、至周厲王、未嘗不廢書而歎也。曰、嗚呼、師摯見之矣。紂爲象箸而箕子唏。周道缺、詩人本之枉席、關雎作。仁義陵遲、鹿鳴刺焉。及至厲王、以惡聞其過、公卿懼誅而禍作、厲王遂奔于彘、亂自京師始、而共和行政焉。是後或力政、彊乘弱、興師不請天子。然挾王室之義、以討伐爲會盟主、政由五伯、諸侯恣行、淫侈不軌、賊臣篡子滋起矣。齊・晉・秦・楚其在成周微甚、封或百里或五十里。晉阻三河、齊負東海、楚介江淮、秦因雍州之固、四海迭興、更爲伯主、文武所褒大封、皆威而服焉。是以孔子明王道、干七十餘君、莫能用、故西觀周室、論史記舊聞、興於魯而次春秋、上記隱、下至哀之獲麟、約其辭文、去其煩重、以制義法、王道備、人事浹。七十子之徒口受其傳指、爲有所刺譏褒諱挹損之文辭不可以書見也。魯君子左丘明懼弟子人人異端、各安其意、失其眞、故因孔子史記具論其語、成左氏春秋。

ここでは (1) 厲王の出奔を契機とする周王朝の事實上の滅亡、(2) 「五伯」の迭興、(3) 孔子の『春秋』制作が語られる。『孟子』によって創出された春秋史認識を踏襲するものといつてよい* 53。

王朝・諸侯國の歴史に關わるのは「五伯」の部分である。これは、『左傳』の認識とはかなり異なる。『左傳』は晉文公以降の歴代晉侯が周王朝に認證された霸者の地位を一貫して保持したものとする。『左傳』の字數の増減は晉霸の推移に正しく對應する。

すなわち、前 630 年代まで増加、一旦減少に轉ずるものの、前 590 ～前 540 年代に増加、ふたたび減少に轉ずるものの、前 510 年代までは大きな値を維持する。これは踐土の盟（前 632）：晉文公の霸者認證、邲の戰（前 597）：對楚敗戰、宋の盟（前 546）：晉楚講和、召陵の會（前 506）：晉霸の一時的解體、といった事件を契機とする。前 540 ～前 510 年代に 63682 字、全體の實に 35.4% が費やされるのは、完成した晉霸がなぜわずか 40 年で解體したのかという問題に最大の關心があったからにほからない*⁵⁴。

『史記』は、「五伯」の「迭興」をいい、齊・晉・秦・楚を列擧する。齊桓公・晉文公・秦穆公・楚莊王を指すものである。「迭興」という表現に示唆されるように、「五伯」の霸權は特定の諸侯國に持續的に保持されるものではなく、一代限りの霸權が強國から強國へ移動することを含意する。續く孔子の『春秋』制作を必然化するものとして割り引いて考えねばならないが、「五伯」は軍事力にのみ依存するものとして、ことさら否定的に描かれている。これは『左傳』からうかがわれる春秋時代の晉霸の實態とは乖離しており、『孟子』の創出した歴史認識に全く従うものといってよい。

ところが、『史記』においても、春秋史の最も主要な資料は『左傳』であり、それが晉文公に始まる晉霸を主題とするものであったことは上述の如くである。前 620 年代以降の『左傳』の記述は晉霸の推移、すなわち會盟征伐朝聘といった晉を中心とする外交が記述の大きな部分を占め、そうした場面に登場する人物の言論が字數を押し上げる。ところがこうした『左傳』の主題は晉霸の持續を認めない『史記』とは噛み合わない。詳細については別稿に委ねるが、前 632 年の晉文公の霸者認證ののち、前 620 年代以降、晉霸のもとである意味日常化した會盟征伐朝聘の記述が増加するが、『史記』はこの部分があるいは引用せず、引用してもごく簡単に節略しているのである。たとえば、前 546 年の晉楚講和は、晉霸の推移にとって決定的に重要だったはずだが、『史記』はこれを全く無視している。そもそも王朝・諸侯國の個別的編年史である本紀・世家は、『左傳』の世界を移植するのに適切な形式ではなかったというべきかもしれない。

王朝・諸侯國に関する本紀・世家の字數が、前 620 年代以降、『左傳』と大きく乖離するのは以上のように説明できるが、『史記』の春秋史認識という場合、今一つ想起すべきは、孔子の歴史的 position 付けである。

『孟子』は孔子の『春秋』制作を三代の建國に比擬する。『左傳』にはこのような孔子聖人化はなお認められない。十二諸侯年表序が、「五伯」の次に孔子の『春秋』制作を置くのは、『孟子』に由来するものだが、こうした歴史認識は、孔子世家が諸侯國の世家の後に置かれていることにも反映されている。實のところ、孔子世家は7371字あり、圖2で用いた本紀・世家の春秋部分のうち、これを超えるのは晉世家の11040字だけである。圖4は、孔子世家の10年ごとの字數を本紀・世家の字數に加えたものである。

前630年代と同程度の字數が前480年代に出現する。春秋史を「五伯」ついで孔子の『春秋』制作の時代とする十二諸侯年表序の認識に對應するものにほかならない。

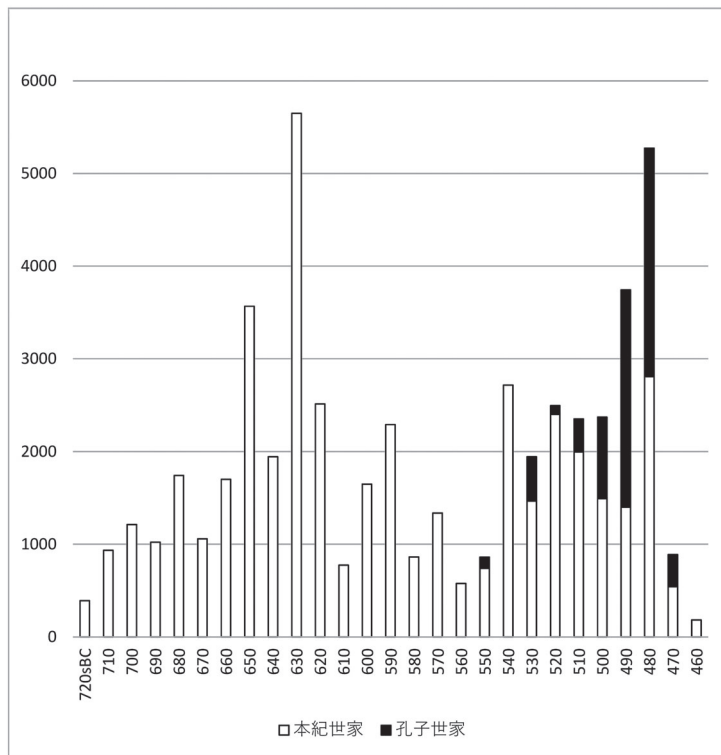


圖4 王侯本紀世家と孔子世家字數の分布

『史記』以後の春秋史に関する包括的認識を示すものとして注目されるのが、劉向「戰國策書錄」である。

敘曰、周室自文・武始興、崇道德、隆禮義、設辟雍泮宮庠序之教、陳禮樂弦歌移

風之化。敘人倫、正夫婦、天下莫不曉然。論孝悌之義、惇篤之行、故行義之道滿乎天下、卒致之刑錯四十餘年。遠方慕義、莫不賓服、雅頌歌詠、以思其德。下及康昭之後、雖有衰德、其綱紀尚明。及春秋時、已四五百載矣、然其餘業遺烈、流而未滅。五伯之起、尊事周室。五伯之後、時君雖無德、人臣輔其君者、若鄭之子產・晉之叔向・齊之晏嬰、挾君輔政、以竝立於中國、猶以義相支持、歌說以相感、聘覲以相交、期會以相一、盟誓以相救。天子之命、猶有所行。會享之國、猶有所恥。小國得有所依、百姓得有所息。故孔子曰、能以禮讓爲國乎何有。周之流化、豈不大哉。及春秋之後、眾賢輔國者既沒、而禮義衰矣。孔子雖論詩・書、定禮・樂、王道粲然分明、以匹夫無勢、化之者七十二人而已、皆天下之俊也、時君莫尚之。是以王道遂用不興。故曰、非威不立、非勢不行。

十二諸侯年表序と同様に、「五伯」が用いられているが、周王朝に奉仕する存在として、そのあり方は全く異なる。『孟子』が周王朝の實質的滅亡を示唆するものとした厲王・幽王もここには登場しない。さらに「五伯」ののち、鄭の子産・晉の叔向・齊の晏嬰といった賢大夫によって、「天子之命」はなお維持される。賢大夫の時代が終わって、孔子が登場することになる。一見して明らかなように、ここに示された春秋史認識は、『左傳』に基づくものにほかならない。「五伯」は実際には齊桓公・晉文公、降って晉悼公あたりを理念化したものであろう。晉悼公が卒するのが前558年、子産は前565～前522年、叔向は前559～前527年、晏嬰は前556～前516年に見える。ついで孔子は『左傳』昭七（前535）に初見し、哀十六（前479）に卒する。

司馬遷が『孟子』のある意味抽象的な「五伯」理解に拘束され、晉霸の推移を主題とする『左傳』を十分に活用し得なかったのに對し、劉向は『左傳』に即した「五伯」理解を達成することで、「五伯」と孔子の『春秋』制作の間に賢大夫の時代を見出したのである。

『左傳』は『史記』にすでに引用されているが、その内容が一般的な古典的教養として一定数の讀者に共有されるようになる契機は、劉向校書および劉歆による注釋學の開始である*⁵⁵。左氏學は劉歆より賈徽ついで賈逵に傳授される。賈逵『春秋左氏傳解詁』の出現は、『左傳』が一般的な受容を経ていたことを明示する*⁵⁶。

『左傳』に登場する人物の名を見て、ただちに關連の記述が想起されるようになれば、

人表は春秋史の暗喩的な「記述」となる。人表はとりわけ『左傳』を全面的に活用することによって、『史記』に見えない人物を大量に補い、その暗喩的な「記述」によって『史記』の克服を試みたのである。

一方で、『左傳』に見えず『史記』における新機軸であった孔子の歴史的 position は人表に踏襲された。144 仲尼の 49 人、196 論語・檀弓の 72 人の大きなまとまりは、それを視覚的に示している。この 121 人を孔子の活動した前 500～前 470 年代に均等に配分し、圖 3 に加えたものが圖 5 である。人表の春秋史における孔子の存在感があらためて確認される。『左傳』から『孟子』および『史記』を経て人表が到達した春秋史の姿を表象するものにほかならない。

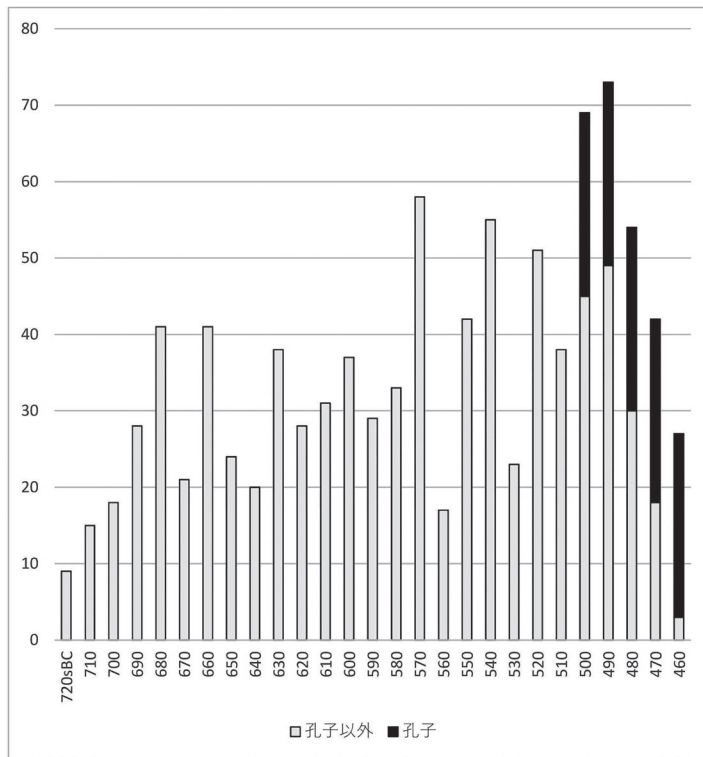


圖 5 人表孔子關係とそれ以外人數の年代別分布

注

- *1 吉本「『漢書』古今人表と春秋史」(『京都大學文學部研究紀要』57、2018)。
- *2 21 下 03-4 は百衲本『漢書』古今人表：21 葉裏 3 行 4 列を指す。以下同じ。
- *3 王侯の在位年代は基本的に『史記』十二諸侯年表に據る。
- *4 『漢書』地理志/潁川郡許縣「故國、姜姓、四嶽後、太叔所封、二十四世爲楚所滅」・沛郡公

丘縣「故滕國、周懿王子錯叔繡所封、三十一世爲齊所滅」・城陽國莒縣「故國、盈姓、三十世爲楚所滅。少昊後」・魯國驕縣「故邾國、曹姓、二十九世爲楚所滅」：許・滕・莒・邾は『史記』に世家が立てられていない。建國から滅亡までの世代數に關する記述は獨自の系譜資料の利用を示唆する。

- *5 金文については、吳鎮烽『商周青銅器銘文暨圖像集成』（上海古籍出版社、2012）の編號を記す。
- *6 李學勤主編『清華大學藏戰國竹簡（壹）』（中西書局、2012）。
- *7 吉本「史記戰國紀年考」（『立命館文學』556、1998）。
- *8 『人表考』卷八「案釐字誤、繹史謂當作哀公、是也」。
- *9 百衲本は「朱文公」に作る。上杉本（『漢書（國寶慶元本）』、朋友書店、1977）に従う。
- *10 『人表考』卷八「依繹史本、各本譌襄子」。
- *11 百衲本缺。上杉本により補う。
- *12 吉本「史記戰國紀年考」（『立命館文學』556、1998）。
- *13 熊罥～武王につき、『楚居』は楚世家と異なった系譜を提示する。

【楚世家】

【楚居】



- *14 前稿の番號を用いる。
- *15 吉本「周室東遷再考」（『京都大學文學部研究紀要』56、2017）。
- *16 『人表考』卷七「繹史本作楚屈瑕、各本譌作瑕丘」。
- *17 『人表考』卷五「翟教授曰、甲爲周文・武時太史。表已前列第三。此當是辛伯之譌、故與周公黑肩上下相隨」。
- *18 翟云升『校正古今人表』「潘和○未詳。或曰卽卞和」。
- *19 百衲本缺。上杉本により補う。
- *20 百衲本は21上044に「召伯」、21上055に「廖」。上杉本は21上044に「召伯」が無く、21上055を「召伯廖」に作る。
- *21 『人表考』卷六「臣乃晉字之譌」。
- *22 『人表考』卷五「依繹史本、各本無羈字」。
- *23 『人表考』卷五「案晉欒氏無悼子、此必貞子之譌」。
- *24 『人表考』卷四「案去亦作弃、與弃字形近音鄰、義竝得通、故遂以去爲弃」。
- *25 百衲本は「歸生」を缺く。上杉本により補う。
- *26 『人表考』卷五「疑此楚子良之誤、故與令尹子文・楚子越上下接近」。
- *27 『人表考』卷五に従う。百衲本は「士良子」、上杉本は「王貞子」に作る。
- *28 『人表考』卷五「案此是荀庚、轉寫字脫其半耳」。
- *29 『人表考』卷六「案此必魯公孫歸父之誤也」。
- *30 百衲本は「衛子良夫」に作る。上杉本に従う。
- *31 『人表考』卷八「案此成十五年左傳宋蕩澤子山也」。
- *32 『人表考』卷四「翟教授曰、左成十六鄆陵之戰、鄭唐苟爲成公右而戰死、故表列中上、傳寫脫苟字耳」。
- *33 『人表考』卷六「盧學士曰、此蓋左傳成十七年夷羊五也」。
- *34 『人表考』卷九「鄭字疑誤、當是弒管厲公之程滑也」。
- *35 百衲本は「向于」に作るが、上杉本「向子」に従う。

- *36 錢大昕『三史拾遺』卷二「未詳。攷是時宋有向爲人・向帶、亦當與魚石同在第八等、蓋別一人」とするが、魚石と同列である必要はない。成十八において魚石の次に列せられている向爲人を指すものと見てよからう。
- *37 『人表考』卷六「案鄭乃鄧之譌」。
- *38 『人表考』卷六「案釋史本無魯字、而國爲析之譌」。
- *39 『人表考』卷五「案罕乃畢字之譌」。
- *40 『人表考』卷八「案朱當作邾」。
- *41 『人表考』卷六「案來・乘二字皆與桑形近、俱轉寫誤」。
- *42 『人表考』卷四「前已書趙武、故釋史以此爲重出、然非也。表不列文子之子、則文當作景」。
- *43 『人表考』卷三「案表似脫孺字」。
- *44 翟云升『校正古今人表』第四「疑即縣成」。
- *45 『人表考』卷六「老成子」。
- *46 『人表考』卷六「案王孫章無其人、表與員公辛竝、必左定五年楚昭王功臣王孫賈也。章字譌。或云是王孫圉、亦見定五年傳及楚語下」。
- *47 『人表考』卷四「依釋史本、各本譌闔」。
- *48 『人表考』卷八「依釋史本、各本作許幼」。
- *49 『人表考』卷六「表與周舍・燭過竝列、疑果爲卑字之譌、皆趙簡子時事」。
- *50 『人表考』卷九「依釋史本、各本譌國」。
- *51 孫國仁『漢書人表略校』「仁按、莊子山木篇有子桑擘。釋文音戶。本又作琴。擘即零字。說文零或作琴。此名采桑羽、羽疑琴之壞字。又考莊子大宗師篇有子桑戶、與上釋文音合。俞師云、表有采桑羽、列春秋時、與子張・孟之反同在第三等。此云子桑戶・孟之反・子琴張三人相與友、疑采桑羽即子桑戶也」。
- *52 『人表考』卷四「師乙」。
- *53 吉本「『春秋時代』の出現」（『中國古代史論叢』10、印刷中）。
- *54 吉本「『左傳』と春秋史」（『京都大學文學部研究紀要』54、2015）。
- *55 『漢書』劉歆傳「及歆校祕書、見古文春秋左氏傳、歆大好之。時丞相史尹咸以能治左氏、與歆共校經傳。歆略從咸及丞相翟方進受、質問大義。初左氏傳多古字古言、學者傳訓故而已、及歆治左氏、引傳文以解經、轉相發明、由是章句義理備焉。歆亦湛靖有謀、父子俱好古、博見彊志、過絕於人。歆以爲左丘明好惡與聖人同、親見夫子、而公羊・穀梁在七十子後、傳聞之與親見之、其詳略不同。歆數以難向、向不能非問也、然猶自持其穀梁義。及歆親近、欲建立左氏春秋及毛詩、逸禮、古文尚書皆列於學官」。
- *56 『後漢書』賈逵傳「父徽、從劉歆受左氏春秋、兼習國語、周官、又受古文尚書於塗暉、學毛詩於謝曼卿、作左氏條例二十一篇。逵悉傳父業、弱冠能誦左氏傳及五經本文、以大夏侯尚書教授、雖爲古學、兼通五家穀梁之說。自爲兒童、常在太學、不通人間事。身長八尺二寸、諸儒爲之語曰、問事不休賈長頭。性愷悌、多智思、儻有大節。尤明左氏傳、國語、爲之解詁五十一篇、永平中、上疏獻之。顯宗重其書、寫藏祕館」。

附表

		王侯	史記	史記左傳	左傳	其他
722	隱元	魯隱公		010 穎考叔・叔段	008 邾儀父・宰咺・ 010 鄭公子呂	
721	2				008 展亡駭	
720	3			011 石碯・公子州吁		
719	4	周桓王・宋殤公				
718	5	衛宣公			008 臧釐伯	
717	6	晉哀侯				
716	7					
715	8	秦憲公				
714	9	蔡桓侯				
713	10					
712	11			008 公子翬		
711	桓元	魯桓公				
710	2	宋嚴公・燕宣侯		003 潘父・012 宋孔父・華督	012 臧哀伯	
709	3	晉小子侯			018 芮伯	
708	4					
707	5					
706	6	晉愨侯・陳厲公			021 隨季良・鬪伯比・熊率且比・蘧章・隨少師・022 魯申繻	
705	7					
704	8					
703	9	秦出公			015 魯施父	
702	10				023 虞公・虞叔	
701	11	曹嚴公		024 鄭祭足	021 楚瑕丘	
700	12	鄭厲公				
699	13	衛惠公・(陳莊公)				
698	14					
697	15	齊襄公・秦武公・燕桓侯				
696	16	周嚴王・衛公子黔牟・鄭昭公		029 衛太子伋・公子壽・左公子泄・右公子職		
695	17			026 高渠彌		
694	18	蔡哀侯・鄭子臯		017 夫人文姜・彭生・027 辛甲・王子克・周公黑肩		
693	莊元	魯莊公・鄭子嬰齊				
692	2	陳宣公				
691	3	宋愨公				
690	4	燕嚴公			021 鄧曼・031 紀侯・紀季	
689	5	楚文王				028 楚保申・潘和
688	6				028 騶甥・聃甥・養甥・鄧祁侯	

春秋人表考證

687	7					
686	8	齊公子亡知		031 連稱·管至父·雍人稟·032 管仲·鮑叔牙·召忽·齊公子糾	031 齊寺人費·石之紛如	
685	9	齊桓公		032 高傒		032 甯戚·麥丘人·輪邊·平陵老·愚公·齊伯氏·鮒里乙
684	10			039 息侯	033 魯公孫隱·039 息媯	
683	11					
682	12			035 宋仇牧·南宮萬·子游·南宮牛	035 蕭叔大心·石祁子·猛獲	
681	13	周釐王·宋桓公				036 魯曹劌
680	14				037 原繁·傅瑕	
679	15					
678	16	曲沃武公			042 彊鉏	
677	17	秦德公				
676	18	周惠王·晉獻公·楚杜敖				
675	19	秦宣公		040 王子頹·邊柏	039 楚弼拳·040 蔿國	
674	20	蔡繆侯			040 號叔	
673	21					
672	22	鄭文公		041 陳公子完·陳太子禦寇	041 顓孫	048 史蘇
671	23	楚成王				
670	24	曹釐公			043 魯禦孫	
669	25					
668	26	衛懿公				
667	27				044 召伯廖	
666	28			048 申生·奚齊·晉驪姬	048 梁五·東關五·卓子	048 優施
665	29	邾文公				
664	30					
663	31	秦成公				
662	32			046 魯公子季友·魯公子般·魯公子牙·圉人犖·公子慶父	045 號史囂·周內史過	
661	閔元	魯閔公·曹昭公	048 趙孟	048 卜偃·辛廖·趙夙·畢萬·士蔿	046 齊中孫湫	
660	2	衛戴公		022 夫人哀姜·046 魯公子奚斯·卜齋	047 史華龍滑·許夫人·048 梁餘子養·罕夷·狐突·先丹木·羊舌大夫	042 鄭高克·公孫素·047 衛弘賁
659	僖元	魯釐公·秦繆公·衛文公				
658	2			048 荀息		
657	3	燕襄公				

656	4			044 楚屈完・陳轅濤塗	044 楚申侯	048 臣猛足
655	5			048 宮之奇・井伯・虞公・虢公		
654	6				051 楚逢伯・許釐公	
653	7				052 鄭子華	
652	8	曹共公		054 宋公子目夷		
651	9	周襄王		044 宰孔・056 晉冀芮・里克		
650	10	晉景公・宋襄公				
649	11					
648	12					
647	13	陳繆公		049 百里奚・公孫枝		049 禽息
646	14			056 慶鄭・虢射		
645	15	蔡嚴侯		049 秦繆夫人	049 卜徒父・056 韓簡	
644	16				054 內史叔輿	
643	17	齊公子無詭		056 梁伯	032 寺人貂・056 梁卜招父	032 易牙・常之巫・衛公子開方
642	18	齊孝公				
641	19					
640	20				053 衛甯嚴子	
639	21					
638	22					
637	23	晉懷公		059 釐負・鄭叔詹	001 辛有・059 顛頡・胥臣・夫人姜氏・羈婁・	
636	24	晉文公・宋成公		055 富辰・惠后・王子帶・059 衰妻・介子推・推母	059 寺人披・豎頭須	059 董固・晉李離
635	25				059 倉葛	
634	26	衛成公				
633	27			059 卻縠・荀林父・先軫・欒悼子		
632	28	齊昭公		057 衛元咺 059 楚子玉	057 叔武・甯武子・鍼嚴子・059 舟之僑・鬬宜申・成大心・曹豎侯孺	
631	29	陳共公				
630	30				049 燭之武	
629	31					
628	32					
627	33	晉襄公・鄭繆公		049 蹇叔・066 鄭弦高・孟明視・西乞術	049 皇武子・062 齊國嚴子	
626	文元	魯文公		063 潘崇	064 周內史叔服	
625	2	楚繆王			065 夏父不忌・066 狼曠	
624	3					
623	4		049 繇余			049 王廖

春秋人表考證

622	5				066 甯嬴	
621	6			049 奄息·中行· 鍼虎·066 公子雍· 陽處父·狐射姑	066 史駢	
620	7	晉靈公·秦康 公			070 樂豫·074 翟 豐舒	
619	8	宋昭公				
618	9	周頃王			066 箕鄭	
617	10	曹文公·燕桓 公				
616	11			013 王子成父·宋 司徒皇父·長狄僑 如	013 司空牛父·公 子穀生·彫班	
615	12					
614	13			066 士會	066 繞朝	
613	14	齊君舍·楚嚴 王·陳靈公· 邾子獲且	077 優孟		068 魯公孫敖·069 單伯·070 宋子哀	077 陳應·申 公申培·少 師慶·士燹
612	15	周匡王·齊懿 公				
611	16	蔡文侯			069 公孫壽·蕩意 諸	
610	17	宋文公				
609	18			072 叔仲惠伯·073 邴馯·閻職	072 卜楚丘·公冉 務人·叔孫得臣	
608	宣元	魯宣公·齊惠 公·秦共公			066 胥申父	
607	2			074 董狐·晉趙盾· 鉏麇·晉趙穿· 103 宋華元·羊斟	074 靈輒·祁彌明	
606	3	周定王·晉成 公		061 石癸·077 王 孫滿	061 鄭子臧	
605	4	鄭靈公		076 鄭公子弃疾· 公子歸生·子公	077 令尹子文·楚 蘧賈·鬬伯比·箴 尹克黃·鄭子良· 楚子越	
604	5	鄭襄公				
603	6	秦桓公			079 王子伯廖	
602	7					
601	8	燕宣公				
600	9					
599	10	晉景公·衛穆 公		082 泄冶·夏姬· 孔寧·儀行父		
598	11	齊頃公·陳成 公		077 申叔時		
597	12				077 孫叔敖·五參· 樂伯·逢大夫·士 貞子	
596	13			084 晉先穀		
595	14				077 申舟·085 孔 達	
594	15	曹宣公		077 晉解揚	077 魏顛·086 王 札子·召伯·毛伯	
593	16					
592	17				089 范武子	

591	18	蔡景侯		087 魯公子歸生		
590	成元	魯成公·晉厲公·楚共王				
589	2			089 衛孫良夫·晉郤克·范文子·逢丑父	089 中叔于奚·臧宣叔·辟司徒妻·賓媚人	
588	3	宋共公·衛定公			077 荀尹·090 荀營·鄭賈人	
587	4					
586	5	鄭悼公·燕昭公		091 伯宗		
585	6	周簡王·吳壽夢				
584	7	鄭成公		092 申公巫臣	088 楚鄖公鍾儀	
583	8		093 韓獻子厥·程嬰·公孫杵臼·趙朔·屠顏賈·羊舌			
582	9					
581	10	齊靈公		097 鄭公子班	094 秦醫緩·桑田巫	
580	11				095 劉康公·單襄公	
579	12					
578	13			096 呂相	098 曹劌時	099 王孫閱
577	14	曹成公				
576	15	秦景公·衛獻公			091 伯宗妻·100 宋蕩子	
575	16	宋平公		088 子反·穀陽豎·101 邾至·叔孫橋如	101 苗賁皇·鄭唐·楚工尹襄·姚句耳·呂綺·養由基·叔山舟·公子偃·叔嬰齊	
574	17			102 邾錡·中行偃·胥童·欒書	102 邾犢·羊魚·長魚矯	
573	18	燕武公		103 宋魚石	102 程鄭·103 向子·西鉏吾·104 匡句須·鮑國·鮑嚴子牽·慶克·國佐·106 張老·籍偃·韓亡忌	105 孟獻子·樂正求·牧中
572	襄元	魯襄公·晉悼公				
571	2	周靈王			107 楚公子申	
570	3	鄭釐公		106 祁奚·晉解狐·祁午·魏絳·楊干	106 羊舌職·銅鞮伯華·107 鄭廖	
569	4				108 魯匠慶·115 無終子嘉父	
568	5	陳哀公		108 季文子	107 公子壬夫	108 子服佗
567	6				111 宋子罕	
565	7			109 子駟		
565	8	鄭簡公				
564	9					

春秋人表考證

563	10			109 鄭尉止	111 叔梁紇·秦董父·狄斯彌·向戌·福陽子	
562	11				061 石臬	
561	12					
560	13	吳諸樊				
559	14	楚康王		114 孫文子	112 士鞅·114 孫蒯·衛大叔儀·公子鱒·尹公佗·庾公差·公孫丁·115 范宣子·姜戎駒支·116 楚子囊	114 衛柳壯
558	15	衛蕩公			116 鄭師慧	
557	16	晉平公				125 晉亥唐·晉船人固來
556	17				116 晏桓子·117 魯臧堅	
555	18				117 宋華臣	
554	19	曹武公·燕文公				
553	20	齊嚴公·邾嚴公				
552	21				118 晉叔向·向母·樂王鮒·晉邢蒯·齊殖綽·119 朱庶其	118 晉陽罕
551	22				120 楚申叔豫·觀起·楚屈建·楚令尹子南·121 鄭游販	
550	23				118 魯國歸父·齊杞梁·殖妻·華州	132 太子晉
549	24					
548	25	燕懿公		122 齊崔杼·慶封·齊大史三人·125 趙武	122 陳文子·祝佗父·申蒯·饒蔑·南史氏·123 鄭公孫夏·124 蘧奄·巢牛臣	122 陳不占
547	26	齊景公·吳餘祭		114 衛甯喜	106 汝齊·124 楚湫舉·126 行人子員·子朱·127 宋伊戾	128 衛右宰穀臣·厚成子
546	27					
545	28				122 慶嗣	
544	29	周景王·楚夾敖·燕惠公		129 蘧伯玉·衛公子荆·鄭子產·齊陳桓子·晏平仲·吳季札	130 鄭子皮	136 狐丘子林
543	30	衛襄公			133 絳老人·史趙·士文伯·149 申亡宇	
542	31	蔡靈侯			135 鄭卑湛·行人子羽·馮簡子·子大叔·衛北宮文子	

541	昭元	魯昭公			125 劉定公·秦醫和·136 公孫楚·公孫黑·149 楚遠罷·遠啟疆	
540	2	楚靈王	184 韓悼子		137 韓宣子厥	
539	3				138 北燕伯款	
538	4				139 魯叔孫豹·魯豎牛·魯叔孫昭子	
537	5				149 吳厥由	
536	6	秦哀公			140 宋寺人柳	
535	7	衛靈公·燕悼公			141 晉趙景子·142 魯謝息·143 衛史鼂	
534	8			145 陳公子招	143 師曠	
533	9	陳惠公			146 周儋桓伯	
532	10					
531	11	晉昭公·宋元公				
530	12	蔡平侯·吳餘昧			148 魯南蒯·149 左史倚相	149 申子臺
529	13	鄭定公		032 隰朋·賈須亡·059 狐偃·趙衰·魏犢·賈佗·149 申亥·楚公子比·觀從	118 晉叔魚·155 子服惠伯	
528	14	楚平王·燕共公			152 晉邢侯·雍子	
527	15	曹平公·莒子庚輿				
526	16	吳僚			154 鄭孔張	
525	17	晉頃公			155 屠蒯·荀吳·158 申須	
524	18				156 周原伯魯·158 裨竈·里析·梓慎	
523	19	曹桓公·燕平公			159 許男	
522	20		162 司馬穰苴·越石父	163 楚伍奢·伍尚·楚太子建	162 齊虞人·裔款·梁丘據	162 林旣·北郭騷·逢於何·栢常騫·燕子于
521	21	蔡悼侯				
520	22	周悼王		164 子鼂	164 晉籍談·樊頃子·司徒醜·賈猛	
519	23	周敬王			164 南宮極·165 胡子髡·沈子逞·陳夏轂·頓子	
518	24	蔡昭侯·莒郊公				
517	25			167 魯師已·子家羈·魯季平子·臧昭伯·厚昭伯	167 季公烏·公叔務人·寺人僚祖·168 宋樂大心	
516	26	宋景公				
515	27	楚昭王	171 專諸	169 楚郟宛·費亡極		

春秋人表考證

514	28	曹聲公·吳王闔廬·滕悼公*			172 魏獻子·司馬彌牟·司馬篤·魏戊·智徐吾·孟丙·成鱗·閻沒·汝寬	
513	29	鄭獻公				
512	30				173 徐子章禹	
511	31	晉定公				
510	32				173 蔡墨	
509	定元	魯定公·曹隱公			175 衛彪傒·萇弘·宋中幾·齊高張·179 榮駕鵝	125 舟人清涓
508	2				176 夷射姑	
507	3				173 唐成公	
506	4	杞隱公	173 吳孫武	173 五子胥·楚囊瓦·吳夫槩·楚司馬子期·員公辛·申包胥	173 楚史皇·沈尹戌·王孫由于·鑪金·鍾建·178 劉文公卷·許幼·頓子·胡子·小邾子	173 石奢·江上丈人·觀射父·鬬且·屠羊說·莫敖大心·蒙毅
505	5	陳懷公·曹靖公 杞釐公			173 楚子西·王孫章	
504	6	燕簡公				
503	7					
502	8					
501	9	陳愨公·曹伯陽				
500	10	秦惠公·鄭聲公				
499	11					
498	12	薛襄公*				
497	13	越允常*	182 顏濁鄒·183 扁鵲	183 趙簡子·范吉射·中行寅·董安于		183 周舍·王良·栢樂·陽城胥渠
496	14	越句踐	182 司城貞子	177 南子·蒯聵·宋朝		
495	15	吳王夫差				179 東野畢
494	哀元	魯哀公	185 范蠡·計然	185 大夫種	173 陳逢滑	185 諸稽到
493	2			177 衛公子逞	183 郵亡卹	177 史魚·公叔文子·大夫選·中叔圉·祝佗·王孫賈·司馬狗·彌子瑕·雍渠·顏讎由·183 田果·185 諸稽到
492	3	衛出公·燕獻公	183 鳴犢·竇犢	179 季康子·季桓子	179 公父文伯	179 公父文伯母
491	4	蔡成侯				
490	5	秦悼公				
489	6	齊晏孺子		173 公子闔·190 齊國夏·高昭子·鮑牧·田乞		

488	7	齊悼公・楚慧王		188 公孫彊		
487	8					
486	9	杞愨公				
485	10					
484	11	齊簡公		193 孔文子・太叔疾	189 陳轅頗・190 桑掩胥	
483	12					
482	13					185 后虜・苦成・臯如
481	14			190 大陸子方・田恆・諸御鞅・子我・子行		190 隰斯彌
480	15	齊平公・衛簡公		193 渾良夫・孔惺・石乞・狐廩		
479	16		191 屈固	191 葉公子高・市南熊宜僚・楚白公勝	193 衛太叔遺	191 楚芋尹文・嚴善・申鳴
478	17			193 石國	021 觀丁父	183 行人燭過
477	18	衛侯起				
476	19	周元王・秦厲共公				
475	20					
474	21	晉出公				
473	22		185 嚴先生	194 太宰嚭		
472	23					
471	24					
470	25	杞哀公				
469	26					
468	27			197 趙襄子・智伯	197 鄭鄞魁彖	